# ユネスコ/日本　若手研究者
# フェローシップ・プログラム
# 2009/10年度(VI)
# ユネスコ小渕恵三研究奨学金
# 給費研究員研究業績

UNESCO/Japan
Young Researchers' Fellowships Programme
2009/2010
UNESCO/Keizo Obuchi
Research Fellowships Programme

# 目　次

序　..... 3
ユネスコ/小渕恵三研究奨学金給費研究員制度
ユネスコ/日本　若手研究者フェローシップ・プログラム ..... 4

環境分野 ..... 7
　2009年度 環境分野 ..... 8
　2010年度 環境分野 ..... 32
文化間対話分野 ..... 57
　2009年度 文化間対話分野 ..... 58
　2010年度 文化間対話分野 ..... 68
情報通信技術分野 ..... 83
　2009年度 情報通信技術分野 ..... 86
　2010年度 情報通信技術分野 ..... 92
紛争の平和的解決分野 ..... 97
　2009年度 紛争の平和的解決分野 ..... 100
　2010年度 紛争の平和的解決分野 ..... 106

# 序

2001年以来、日本国政府はユネスコとの共同後援プログラムを通し、毎年20名の研究員への研究奨学金給付費用を負担してきてくれました。このユネスコと日本との協力により、開発途上国出身の若手研究者にユネスコ研究員として出身国国外で研究を行い、当該科学研究分野における新たな知識と技能を研究員の出身国に持ち帰る諸機会を提供してきました。これにより、研究員は自国の発展に、より貢献する事を可能にする豊かな経験を獲得してきました。

この給費研究員プログラムは、研究を育成し、世界の人々の間で知識の共有を促してきました。このプルグラムは絆を強め、多くの個々人の人生を変えました。これは、私達の憲章の言葉の中にある永続的平和の為の基礎としての『知的及び精神的連帯』を育成するユネスコの目標の大いなる一例です。

ここに私は、日本国政府の寛大なる財政援助に対し、感謝の意を表したく思います。この援助なくしては、この取組は不可能でした。

**２０１１年**

**イリーナ　ボコバ**
**ユネスコ事務局長**

ユネスコ/日本　若手研究者フェローシップ・プログラム
ユネスコ/小渕恵三研究奨学金給費研究員制度

## 給費研究員制度について

日本国政府は、ユネスコと協力し、開発途上国の人材育成強化を実施してきてくれました。具体的には、日本信託基金とユネスコが共同して2001年から実施してきた故小渕恵三元総理を記念する研究奨学金給費研究員プログラムに、日本政府は毎年研究員20名分を負担してきてくれました。

故小渕恵三元総理大臣の精神、そして、人々が次世代を形作るという彼の信念を存続し、尊重するという観点から、この奨学金は開発途上国、特に後発開発途上国（LDC）からの、一つ又は複数の案件に関する研究を熱望し、給費に値する応募者に給付されてきました。

この奨学金の目的は、故小渕恵三元総理大臣が重視して取り組まれた開発分野であり、且つ、ユネスコ所掌分野の内、次の4分野、

- **環　境**
- **文化間対話**
- **情報通信技術**
- **紛争の平和的解決**

における革新的で創意に満ちた修士課程以降の研究を支援することにあります。

## 応募資格

応募者は、以下の基準を満たさなければならない。

- 選考に付される候補者は、ユネスコに加盟する各当該開発途上国の国内委員会の推薦がなければならない（個人による応募は受理されない）。
- 応募者は、自国外（同一地域内が好ましい）で前述の特定四分野の一つにおいて知識を深める研究を行うことを希望する**修士号を既に取得**している研究者であること。
- 応募者は**40歳以下**であること。
- 応募者は帰国後、自国に顕著な貢献をなすことを期待できる、高度な知性を有する有望な者であること。
- 給費研究員は、自国外で受け入れ先研究機関の学術指導者の下で研究を行うこと。

## 給費研究員の選考

選考委員会は上記四分野における専門家から成り、ユネスコ事務局長による最終決定に付すべく推薦を行う。給費研究員の選定は、各応募者の能力およびユネスコ小渕恵三研究奨学金の支給目的に対し、適っているかに基づき行われる。

## 支給額

2001年度、2002年度、2003年度、そして、2004年度の間、国外での研究費用を賄うため、給費研究者一人当たり7500米ドルが支給された。

この研究奨学金プログラムの成功により、日本国当局は研究奨学金最高支給額を増額する事を決定している。この最高支給額（六千から一万米ドル）は、研究期間と研究地により決定される。最高支給額は、一万米ドルを越えない。

## ユネスコ小渕恵三研究奨学金給費研究員制度の所期成果

今日までにユネスコ/小渕恵三研究奨学金（ユネスコ/日本 若手研究者フェローシップ）給費研究員は以下の貢献を行っています。

- ユネスコの人材育成活動の強化
- 開発技術水準に関する知識の向上
- 開発途上国間の知識の伝達および共有、情報交換および技術協力の促進
- 当機関の管轄する数々の分野における革新、研究および情報の支援
- 連携と交流の強化増進
- 国外で修得した知識を出身国へ持ち帰ることにより得られる「相乗効果」の確保
- 受益国と受入国間の友情と国際理解および平和の育成

## この小冊子について

この小冊子の目的は、2009年度と2010年度の給費研究員40名の行った研究の概略を紹介することにあります。

この小冊子には、各研究員が

**何を研究し、**

**何を達成したか**

が記されています。

"As water scarcity deepens, the world will need more experts, engineers, scientists, to make the most of the resources we have.

UNESCO is committed to using its unique global network in water sciences to boost international co-operation and strengthen the capacities of states."

「水不足が深刻となる時、世界は、我々の持つ水資源から最大限を引き出すために、更なる専門家、技師、そして、科学者を必要としています。

ユネスコは、その水に関連する科学の独自のグローバル・ネットワークを用いて、国際協力の推進と諸国の人材育成の強化に取り組んでいます。」

Irina BOKOVA
Director-General of UNESCO

High-level panel discussion organized by the Government of Finland, Sustainable Development and Water: Global Goal, Targets, Partnerships.
United Nations Conference on Sustainable Development (UNCSD), 21 June 2012, Rio de Janeiro, Brazil.

**イリーナ　ボコバ**
**ユネスコ事務局長**

**２０１２年６月２１日ブラジルのリオデジャネイロ開催　国際連合持続可能な開発に関する会議(UNCSD)におけるフィンランド政府後援による「持続可能な開発と水：世界の目的、諸目標、諸協力」に関するハイレベル・パネル討議において**

# 2009年度 環境分野研究員の言葉

私は、この給費研究員制度により、豊かな経験を得、今では極めて異なる二つの世界の慣行を理解し、解釈できる様になりました。在るのは二つの世界の間にある一つの川だけなのですが。

Ana Lucia de Oliveira
**ブラジル**

この給費研究員制度は、私が海外で研究を行い、視野を拡げる機会を与えくれました。そして、私自身の将来について適切な選択を行う指針を与えてくれました。

**王**军 **中華人民共和国**

私が研究を行い、経験を得、専門家として、そして、一人の人間として成長する機会を与えてくれたユネスコに感謝いたします。

Tamar Tsamalashvili
**グルジア**

エクアドルにおける沿岸開発の為の海洋資源の持続可能な利用には、特に適切な管理運営戦略、資源監視、当事者への権限委譲、そして、適切な政策を含む多面的取組を必要とします。小規模漁業者の強化と、その制度の構築は、海洋生物の多様性の持続可能な利用を実現するために採りえる方法であり、このプロジェクトの目的を構成し、私が専門家として挑む事の一つとなっています。

このユネスコ／日本 若手研究者フェローシップ・プログラムは、漁業資源管理手法の改善を目的とした地元当事者への権限委譲に焦点を当てたプロジェクトの設計を可能にしてくれたので、この両目的を達成するのに多大なる貢献をしてくれました。そして、私の専門技能と学術技能を磨く事、そして、海洋保全と人材育成への適用の為の論理的枠組の開発は、この経験により得られた二つの成果でした。

María José Barragán Paladines
**エクアドル**

ユネスコ／日本 若手研究者フェローシップは、私の研究の為に新たな窓を開いてくれました。このフェローシップは、私の研究分野の知識を拡げるのを助けてくれました。この素晴らしい機会に本当に感謝しています。

Sharareh Pourebrahim Abadi
**イラン・イスラム共和国**

ユネスコ／日本 若手研究者フェローシップ・プログラムの御蔭で、フランスの国立木材工科大学院でエネルギー分野を学び、特に、温室ガス排出から環境を護る為の他の諸手法とツールを見つける事ができました。

Siham MADDI
**モロッコ**

ユネスコ／日本 若手研究者フェローシップ・プログラムによる給費研究員としての活動は、私の論文に対する口頭試問の機会を与えてくれる実りある経験でした。

Madjouma Kanda
**トーゴ**

モデル化、特に決定支援ツールの分野の技能を修得する事を援助してくれたユネスコ／日本若手研究者フェローシップ・プログラムに大変感謝しております。仕事でも能率良く、現在、同じモデルと技能を別の流域に応用している所です。

Jackline Alinda Ndiiri
**ケニア**

ユネスコ／日本 若手研究者フェローシップの御蔭で、博士研究において極めて良好な結果を得る事でき、本当に私の人生を変えました。従って、得られた知識と経験は、将来、環境保護分野において効果的に応用します。そして更に、私は、我国と日本の友好の強化に貢献致します 。

Dong Nguyen Thanh
**ベトナム**

# 2009年度 環境分野研究員

Ana Lucia de Oliveira ブラジル (写真左)

**[研究]**
持続可能な流域資源のためのデータ収集を含む手法による Encarnación [エンカルナシオン] 系及び Posadas [ポサーダス]系への影響と負荷を与える諸要因間の関連の研究

Jun WANG（王軍）　中国

**[研究]** 水環境汚染と水害の危険性

María José Barragán Paladines エクアドル（発表者）

**[研究]**
エクアドルにおける沿海部開発の為の海洋生物多様性の持続可能な利用と総合的管理

Tamar Tsamalashvili　グルジア　(手前3人中の中央)

**[研究]**
洪水氾濫のモデル化－SOBEKを用いてのグルジア西部 (リオニ川) の危険性評価

Sharareh Pourebrahim Abadi
イラン (イスラム共和国)

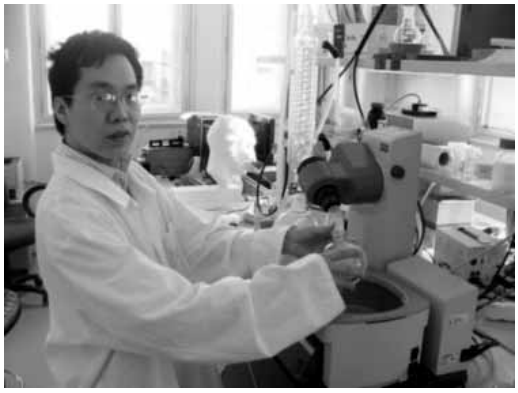
**[研究]**
空間水資源計画策定の為の Analytic Network Process [ネットワーク分析法] に基く意志決定支援システムの開発

Jackline Alinda Ndiiri　ケニア　(写真中央)
**[研究]**
意志決定支援ツールを用いたマラ川集水域の総合水資源管理計画の策定

Siham MADDI　モロッコ
**[研究]**
工場排煙による発熱の低減による環境の保護と、その熱の有益なエネルギーへの転換

Dawoud Al Massri　パレスチナ
**[研究]**
将来の水供給と廃水処理、及び、再使用の選択肢の最小費用構成の特定

Madjouma Kanda　トーゴ
**[研究]**
トーゴにおける殺虫剤による市場園芸の水汚染評価：大系的環境分析



Dawoud Al Massri　ベトナム
**[研究]**
ナノ構造吸着剤の研究と応用　ー　ベトナムにおける砒素汚染地下水と関連社会問題を解決する為の一新手法

**給費研究員：** Ana Lucia Rodrigues de Oliveira
**受　益　国：** ブラジル
**研究実施国：** アルゼンチン
**出 生 日 ：** 1973年11月15日
**出 生 地 ：** ブラジル共和国リオデジャネイロ

## 取得学位

2009年7月スペインのバルセロナ所在のUniversitat Politècnica de Catalunya［カタロニア工科大学］にて持続可能性、評価及び政策により修士号取得。

## 学術業績

Ana Lucia de Oliveira, *A Harsh Lesson to be Learnt - Yacyretá mega development project in Paraguay and Argentina*, pp. 21-15, Education and Sustainability, No.4, Cities, autumm, Spain, October 2008.
［2008年10月スペイン刊 *教育と持続可能性* 誌 第四号 都市特集 2008年秋季21-25頁 Ana Lucia de Oliveira 著 *学ばれるべき苦い教訓 － パラグアイとアルゼンチンのヤシレタ大規模開発計画学* ］

*Case Study to Generate Support Material to Integrated Water Resources Management: Basin Modelling Urban Polygon Fontiñas, Santiago de Compostela by System Dynamics*, Master thesis, UNESCO Chair on Sustainability – Polytechnic University of Catalonia, Spain, July 2009.
［2009年9月 カタロニア工科大学ユネスコ講座持続可能性修士論文 *水資源総合管理用支援資料生成の事例研究：システム・ダイナミクスによるサンチアゴ・デ・コンポステラのフォンティニャス地区市街ポリゴン流域のモデル化* ］

## 研究実施機関

アルゼンチン、コルドバ所在 Universidad Nacional de Córdoba,*Instituto Superior de Estudios Ambientales (ISEA)［コルドバ国立大学環境高等研究院］

## 研究原題

*Studies of the Relation among Factors that Cause Impacts and Pressures on Systems of Encarnación and Posadas, Through an Approach involving Data Collection for Sustainable Watershed Resources Management*

**研究期間：** 2009年11月16日から2010年8月15日

**連 絡 先：** alrostern@yahoo.com.br

［*Instituto Superior de Estudios Ambientales (ISEA)**が**２００９年１０月７日付で Instituto Superior de Recursos Hídricos (ISRH) **［水資源高等研究院］を吸収**］

# 持続可能な流域資源のためのデータ収集を含む手法による Encarnación [エンカルナシオン]系及び Posadas [ポサーダス]系への影響と負荷を与える諸要因間の関連の研究

この研究は、アルゼンチンのポサーダスとパラグアイのエンカルナシオン間にあるパラナ川支流域地区の持続可能な管理運営方法に取り入れられている影響と負荷の諸要因の定性定量調査の結果を提供している。

この分析の基になっている水資源管理に関連するデータは、この流域にある水力発電ダムを運営管理するアルゼンチンとパラグアイのヤシレタ二カ国機構によるものに合わせて、アルゼンチン側の Plan Estratégico Posadas［ポサーダス戦略計画］、パラグアイ側のエンカルナシオンの Mboi Caé、Quiteria 及び他の諸地区流域管理当局によるものである。この分析には、地区地方公共団体、上水及び衛生当局、非政府組織、ヤシレタ二カ国機構の担当者、それに、移住させられた住民との半構造的（半調査票による）面接結果も用いている。

水資源を保全する持続可能な管理運営の為には、長期的要因が決定的に重要となる。人口増加は、国土利用形態に変化を齎す最も重大な要因である。従って、治水行為を概観する為に、我々は2020年代までの両国該当地の将来人口増加予想を現行の現地治水計画に照らして考察した。

2008年に開始されたポサーダス戦略計画は、2022年までに同市に持続可能な発展を齎す様に立案されている。都市部流域管理は、環境管理の一部を成すプロジェクトと位置付けられており、水関連のテーマは、無数のプロジェクトに拡がっている。この計画による2010年における予想人口は居住者数328,861人で、2008年の人口よりも7.18%の増加である。州都であるポサーダス市は、アルゼンチンの人口が4千6百万人と予想される2025年迄の人口予測を反映し、都市部人口は94%を占めると予測される。これは、国レベルでの予測で、水資源に対する構想は、同期間中に採られる諸決定からなる二つの異なる開発シナリオから齎されている。
パラグアイの当該諸流域の在る地域における予測人口は、2008年の約80,000人に対し、2015年において約40.7%の増加である。国レベルにおいては、社会発展に対する政策提言
2010－2020年において、水を生活の質と言う国家所目標の戦略軸の中で考察しており、進捗評価の為に数値、及び、百分率による諸指標を設定している。そして、地方レベルにおいては、2008年から2013年の五年に渡る実行期間に渡る広範な事例を含む流域管理運営計画が在る。

こうした結果に基づき、提起される点は以下に関連するものである。即ち、

1/ 両市の最新的な総合的水資源の管理運営、
2/ 対象となる諸流域利用可能な情報の分析、
3/ 同地域への負荷と影響を引き起こす諸要因の分析、
4/ 同諸要因間の関連と将来の管理運営計画の分析、そして、
5/ 得られたデータの系統的手法による構成。

2010年12月14日

**給費研究員：** Jung WANG（王 軍）
**受　益　国：** 中 国
**研究実施国：** 米 国

**出生日：** 1975年10月2日
**出生地：** 中国山西省

## 取得学位

2005年6月 華東師範大学にて博士号取得。

## 学術業績

Jun Wang, Zhenlou Chen, Dongqi Wang, Xiaojing Sun, Shiyuan Xu, *" Evaluation of Dissolved Inorganic Nitrogen Eliminating Capability of the Sediment in the Tidal Wetland of the Yangtze Estuary"* Journal of Geographical Sciences, Vol. 19, Issue 4, pp 447-460, August 2009.
［2009年8月地理科学誌 第19巻4号447-460頁 王軍 等共著 *揚子江河口感潮湿地堆積物の溶存態無機窒素除去能力の評価* ］

Jun Wang, Zhenlou Chen, Xiaojing Sun, Guitao Shi, Shiyuan Xu, Dongqi Wang, Li Wang, *"Quantitative spatial characteristics and environmental risk of toxic heavy metals in urban dusts of Shanghai, China"* pp 645-654, Environmental Earth Sciences, Volume 59, Issue 3 , December 2009.
［2009年12月「地球環境科学」誌 第59巻3号 645-654頁王軍 等共著 *中国上海粉塵中の有害重金属の定量的空間的特徴と環境上の危険性* ］

Yuanyuan Chen, Jun Wang, Guitao Shi, Xiaojing Sun, Zhenlou Chen, Shiyuan Xu, *"Human health risk assessment of lead pollution in atmospheric deposition in Baoshan District, Shanghai"* pp 515-523, Environmental Geochemistry and Health, Volume 33, Issue 6, December 2011.
［2011年12月「環境地質化学と保健」誌 第33巻6号 515-523頁 王軍 等共著 *上海市宝山区における大気降下物中の鉛汚染による人の健康への危険性評価* ］

Yaolong Liu, Zhenlou Chen, Jun Wang, Shiyuan Xu, Beibei Hu, *"Fifty-year rainfall change and its effect on droughts and floods in Wenzhou, China"* pp 131-143, Natural Hazards, Vol.56, Issue 1, January 2011.
［2011年1月「自然災害」誌第56巻1号131-143頁 王軍 *等共著 中国温州市における50年間の降雨変動、及び、その旱魃と洪水への影響* ］

Jun Wang, Shiyuan Xu, Mingwu Ye, and Jing Huang, *"The MIKE Model Application to Overtopping Risk Assessment of Seawalls and Levees in Shanghai"* International Journal of Disaster Risk Science, Vol. 2, Issue (4), pp32-42, 2011 .
［2011年「災害危険性科学国際誌」第2巻4号32-42頁 王軍 等共著 *上海にある護岸堤防と堤防の越流の危険性評価への MIKE モデルの応用* ］

## 研究実施機関

米国コロラド州立大学 Natural Resource Ecology Laboratory [自然資源生態系研究所］(NREL)

**研究期間：** 2010年2月3日から8月2日

**研究原題:** *Water Environmental Pollution and Water Disaster Risk*

**連 絡 先：** jwang@geo.ecnu.edu.cn, wangjun.ecnu@gmail.com

# 水環境汚染と水害の危険性

私の研究題目は「水環境汚染と水害の危険性」であった。この客員研究の目標は、水環境保護と水害の危険性の先端理論と手法を研究し、こうした考えと手法を我国に応用する事であった。
この研究には、以下の内容が含まれている。即ち、

1/ 飲料水源に対する環境管理運営の理論、手法、及び、実践。

飲料水源保護の典型的事例を研究する為の150の論文の調査。及び、飲料水源に対する環境管理運営の概念、基礎知識、そして、諸原則の研究。

2/ 河川網の在る平原における飲料水源に対する環境管理運営の理論と手法。

国外における河川網の在る平原における飲料水源の環境行政の基本的施策、手続、そして、鍵となる手法を含む理論と手法を主とした研究。

3/ 地域経済社会発展の水環境への影響。都市化と人口、経済開発と点源汚染、土地利用形態と非点源汚染の間の関連を主とした研究。

4/ 飲料水源に対する環境行政システムの構築。

水質に影響を与える要因の特定方法、評価方法、飲料水源に対する環境行政システムの構築手法を主とする研究。

5/ 水害の危険性の評価。特に、海面上昇と高潮による水害。

海面上昇と高潮は、重大な災害の連鎖を成す。進行する地盤沈下は、海面上昇の影響を拡大し、そして、高潮、洪水、及び、浸食の危険性を増大させるので、揚子江河口の感潮湿地への海面上昇の潜在的影響を研究した。そこで、地理情報システムとMIKEモデルを用いて、前記の三災害への複合効果について研究を行った。

上記諸研究に基き“The potential impact of sea-level rise for tidal wetlands of Yangtze River estuary, China [中国の揚子江河口感潮湿地に対する海面上昇の潜在的影響］”そして“Potential impact of sea-level rise on the tidal wetlands of the Yangtze River estuary, China [中国の揚子江河口の感潮湿地における海面上昇の潜在的影響]”（査読中）の二つの英語論文を完成させた。

2010年8月31日

**給費研究員：** María José Barragán Paladines
**受　益　国：** エクアドル
**研究実施国：** カナダ

**出 生 日 ：** 1974年7月8日
**出 生 地 ：** エクアドル共和国キト

## 取得学位

2008年9月5日 Technische Universität München [ミュンヘン工科大学]にて
科学修士号取得。

## 学術業績

Krutwa, A. J. Denkinger, M.J. Barragán, P. Brtnik and S. Brager. *"Abundance and Local Migration of Humpback Whales of Ecuador."* Poster and Proceedings of the 20th Conference of the European Cetacean Society, 3-6 April, Gdynia, Poland, 2006.
[2005年4月3-6日ポーランド、グディニャ開催 第20回年次欧州鯨類学会ポスター及び論文集収録 M.J. Barragán 等共著 *エクアドルのザトウクジラの豊度と地域回遊* ]

Alava, J.J, M.J. Barragán, C. Castro, R. Carvajal. *"A Note on Stranding and Entanglements of Humpback Whales (Megaptera novaeangliae) in Ecuador."* Journal of Cetacean Research and Management. 7(2):163-168. 2005. (scientific paper).
[2005年「鯨類研究管理誌」第7巻2号163-168頁Alava, J.J, M.J. Barragán, C. Castro, R. Carvajal.共著「エクアドルにおけるザトウクジラの座礁と巻添えに関する研究ノート」（科学論文）]

Barragán, M.J. *"Who is Who? Analysis of Actors involved in Galapagos Marine Reserve Use and Management."* 2011 Conference, *People and the Sea VI*. Centre for Maritime Research, Amsterdam, July 6-9, 2011.
[2001年7月6-9日オランダのアムステルダム開催 海洋研究所主催 2011年学会：*第6回人々と海* 発表論文 Barragán, M.J.著 *誰が誰？　ガラパゴス海洋保護区の利用と管理*]

## 研究実施機関

カナダのニューファンドランド島セイント・ジョンズ市所在のMemorial University of Newfoundland［ニューファンドランド・メモリアル大学］Department of Geography［地理学部］

**研究期間：** 2009年9月17日から2010年6月16日

## 研究原題

*Sustainable Use and Integral Management of Marine Biodiversity for Coastal Development in Ecuador*

**連 絡 先：** majobarraganp@yahoo.es, m.j.barraganpaladines@mun.ca

# エクアドルにおける沿海部開発の為の海洋生物多様性の持続可能な利用と総合的管理

海洋生物の多様性の持続可能な利用は、エクアドルにおける社会的厚生と経済開発を推進する為の強い論拠の一つである。この豊かな生物多様性には、エクアドル沿岸に沿って存在する諸地域共同体が経済的便益の源泉として使用する貴重な海洋生物が含まれている。それは、絶滅危機種（ザトウクジラ、海亀）、娯楽的種（イルカ）、そして、経済的価値の在る種（魚介類）である。Small-scale fisheries[小規模漁業](SSF)は、こうした海洋資源を使用する重要な活動であり、エクアドルの沿岸部の住民にとり、際立って、その経済、社会、そして、文化に関連するものである。この SSF の重要性にもかかわらず、海洋資源の管理／保全と漁民の強化の双方に諸制約が存在する。こうして分野における弱点が、この部門を強化する為に採られてた諸取組にもかかわらず、SSF の持続可能性への重大な脅威となっている。SSF 協同組合／協会の強化、そして或いは又、結成は、漁民の声を"聞かせ"、そして、漁民の暮らしの持続可能性を実現する為の一戦略である。

この研究における目標は
(a) SSF の連帯能力の論述、そして
(b) SSF 自身の人材能力の改善による交換モデルの構築であった。

このモデルは、*"Cooperative-Interchange Experience Model [協力型経験交換モデル]"* (CIEM) 形態による SSF 協会間の成功経験の交換に基いている。このモデルは、経験の流れと良い実践を通してのプロセスの内に ssf 協会/協同組合の長所と弱点の「交換単位」の上に構築されている。ここでは協会／協同組合が CIEM の構成単位である。

この取組は、技術的、人的能力、社会経済水準、及び、生活水準、そして、資源管理の改善に関連している。こうした諸目標を達成するために、関連する各協会／協同組合の現実に合わせた特定の計画が作成され、実施されている。CIEM の実行は、以下の二方面に亘る。即ち、漁民の生活及び労働条件の改善、そして、海洋資源の量的管理、利用、及び、保全である。それには、小規模漁業協会／協同組合内の訓練、教育（公式教育と非公式教育）、海洋資源の制御、調査、監視、財務管理、法の適用性、そして、執行責任に対する諸戦略がある。この両方面は、海洋資源の持続可能な利用の重大な相互に補完的な構成面となっている。

このモデルに期待される結果は、小規模漁業者の協同組合／協会の結成、或いは、改善、即ち、エクアドル内、或いは、国外における他の SSF の活動事例の SSF の認識と、海洋資源利用、保存、管理、行政のより良い実践の習得による小規模漁業部門の強化である。

この取組は、SSF 部門発展の為に従来用いられてきた諸手法と異なる選択肢を SSF 部門に与える事を意図している。従来の手法では、SSF 部門の経済的な発展の為の唯一の起点は、SFF の漁具と漁獲設備を改善するする為の（信用貸付、補助金、或いは、賞与による）資金提供であった。しかしながら、この手法の唯一の趨勢は、SSF の福祉の達成の失敗である。この新たな枠組により、資本投資に加え、諸制度と諸戦略による SSF 団体の強化は、エクアドル沿岸の人々が自分達自身の活動と生活の質を改善し、福祉を達成する事を可能とする為の変革の力の一つである。この SSF 強化の為の多面的手法は、SSF の持続可能性の中核となる要素であり、漁業資源の複雑なシステムにおける行政の改善にも反映される。

2010 年 12 月 20 日

**給費研究員：** Tamar Tsamalashvili
**受　益　国：** グルジア
**研究実施国：** オランダ

**出 生 日 ：** 1976年6月28日
**出 生 地 ：** グルジア共和国トビリシ

## 取得学位

1999年6月 グルジアのトビリシ国立大学にて科学修士号を取得

## 学術業績

*The Stratigraphy of the Eocene of the Chxary-Ajameti Zone by Nanoplankton*, Master's Thesis: Tbilisi State University, Tbilisi, Georgia, 1999.
［1999年グルジアのトビリシ所在のトビリシ大学修士論文 *ナノプランクトンによるChxary-Ajameti区域の始新世時の層* ］

*Abrupt Change in Greenhouse Gases Emission Rate as Possible Genetic Model of TIR Anomalies Observed from Satellite in Earthquake Active Regions*. 33rd International Symposium on Remote Sensing of Environment (ISRSE), May 4-8, 2009, Stresa, Italy.
［2009年5月4-8日イタリア、ストレーザ開催 第33回環境遠隔探査国際シンポジウム発表論文 *探査衛星から観測された地震活動が活発な地域におけるTIR異常を説明し得る成因モデルとしての温暖化ガス放出量の急激な変化* ］

*Flood Risk Assessment of the Inguri Dam*, International Symposium on Floods and Modern Methods of Control Measures : 23-28 September 2009, Tbilisi, Georgia.
［2009年9月23-28日グルジア、トビリシ開催：洪水と近代的制御方法に関する国際シンポジウム発表論文 *Inguriダムの洪水の危険性評価* ］

*Tbilisi fault and seismic activity of Tbilisi environs (Georgia).* /I. Gamkrelidze, T. Tsamalashvili, E. Nikolaeva, T. Godoladze, Z. Djavakhishvili, M. Elashvili/. A. Djanelidze Institute of Geology, Proceedings. – 2008. – pp. 30-35.
［2008年 A. Djanelidze 地質学研究所刊論文集新シリーズ第124巻30-35頁 I. Gamkrelidze, T. Tsamalashvili, E. Nikolaeva, T. Godoladze, Z. Djavakhishvili, M. Elashvili共著 *トビリシの断層とトビリシ周辺の地震活動（グルジア）*］

## 研究実施機関

オランダ Enschede[エンスヘデ]所在の International Institute for Geo-Information Science and Earth Observation*［地理情報科学地球観測国際学院］(ICT)

**研究期間：** 2009年11月30日から2010年7月1日

## 研究原題

*Flood Modelling - Hazard Assessment for the Western Part of Georgia Using SOBEK (for the Rioni River).*

**連 絡 先：** ts.tamo@gmail.com

［*2010年1月1日付けで1950年設立のInternational Institute for Geo-Information Science and Earth Observation (ITC)はUniversity of Twente (UT)へ併合、一独立機関から同大学の一学部となる。］

# 洪水氾濫のモデル化
# SOBEKを用いてのグルジア西部（リオニ川）の危険性評価

洪水氾濫は、経済的、社会的、そして、環境的損害、そして更に、人命の損失を齎す。この事実は、世界中何処でも氾濫による負の潜在的可能性を増大する事を意味する。洪水氾濫の危険性を理解する事が、洪水氾濫危険管理の第一歩である。リオニ川は、人口密度の高い、経済基盤が発展中の地域を流れ、しばしば氾濫を起こすが、この地域では、洪水氾濫危険管理戦略が、長年の間、作成されておらず、地域開発に対する空間計画的手法が採られていなかった。

この研究の目的は、リオニ川に対する洪水氾濫の危険性を評価する事であった。この研究においては、リオニ川の危険性評価の為に導入された水文モデル構築手法を採用した。この研究の間に踏んだ段階は、大きく以下の部分に分ける事ができる。即ち、歴史上の洪水氾濫事象のデータベースの構築。そして、その水文学的データを洪水氾濫事象の統計学的評価によって分析する事によるその規模と累度の関係の規定である。

その第二段階は、SOBEK1D2D 流動モデルを用いて選択した再現期間による事象のモデル化を含むものであった。ここで自然地形と人口地形を合わせる事により、DTMを生成した。洪水氾濫シミュレーションは、10、25、50、そして、100年の再現期間に対して生成した。このモデルは、流路内のマニングの摩擦係数の変化を基に、1987年の洪水氾濫事象の観測データを用いて、最善の結果を得る為に校正され、この地域の洪水氾濫予想地図を生成した。

次に、この研究地域の災害緩和措置戦略を作成し、異なる災害緩和措置戦略に対する災害予想地図を準備した。

2010年11月4日

**給費研究員：** Sharareh Pourebrahim Abadi
**受　益　国：** イラン（イスラム共和国）
**研究実施国：** マレーシア

**出 生 日 ：** 1976年7月4日
**出 生 地 ：** イランのIsfahan［イスファファン］

**取得学位**

2008年5月マレーシアのUniversiti Putra Malaysia Malaysia［プトラ・マレーシア大学］において環境計画及び管理にて博士号取得。

**学術業績**

Pourebrahim, S., Mehrdad Hadipour, Mazlin Bin Mokhtar, *Integration of Spatial Suitability Analysis for Land Use Planning in Coastal Areas; Case of Kuala Langat District, Selangor, Malaysia,* Landscape and Urban Planning, 101, 84-97 (ISI, IF=2.170), 2011 .

［2011年5月15日号「景観と都市計画」誌 第101巻1号84-97頁Pourebrahim, S., Mehrdad Hadipour, Mazlin Bin Mokhtar著 *沿岸区域における土地利用計画への空間適合性の採り入れ；マレーシアのスランゴール州クアラ・ランガット地区の事例*］

Pourebrahim, S., Mehrdad Hadipour, *Spatial Planning For Tourism Development in Geoparks Based on Analytic Network Process,* the 4th International UNESCO Conference on Geoparks 2010, 9-16 April, Langkawi, Malaysia.

［2010年4月9-16日 マレーシア ランカウィ開催 第4回ジオパーク国際ユネスコ会議発表論文 Pourebrahim, S., Mehrdad Hadipour共著 *ネットワーク分析法に基く観光開発の為の空間計画*］

Pourebrahim, S., Mehrdad Hadipour, Mazlim Mokhtar, *Analytic Network Process For Criteria Selection in Sustainable Coastal Land Use Planning*, Ocean and Coastal Management, 53, 544-551. (ISI, IF=1.524), Malaysia, 2010.

［2010年9月号「海洋沿岸管理」誌 第53巻9号544-551頁 Sharareh Pourebrahima, Mehrdad Hadipoura, Mazlin Bin Mokhtarb, Mohd Ibrahim Hj Mohamedc著 *持続可能な沿岸土地利用計画における基準選択の為のネットワーク分析法*］

**研究実施機関**

マレーシア　スランゴール州所在 Universiti Kebangsaan Malaysia［マレーシア国立大学］(UKM)のInstitute for Environment & Development［環境開発研究所］(LESTARI)

**研究期間：** 2009年9月から2010年1月31日

**研究原題**

*Development of a Decision Support System Based on the Analytic Network Process for Spatial Water Resource Planning*

**連 絡 先：** s-pourebrahim@araku.ac.ir

# 空間水資源計画策定の為の Analytic Network Process [ネットワーク分析法]に基づく意志決定支援システムの開発

水系の維持よりも人間の活動に焦点を当てた近視眼的な管理政策により、水系は益々脅かされている。こうした分野における問題は、複雑で、相互に関連しあっている。従って、生態系的、全体論的、そして、科学的取組によって管理運営し、競合する水の需要と供給の間のバランスを取る必要がある。空間的多基準意思決定と言った複雑且つ総合的手法を設計し、決定支援システムを開発する事により、持続可能な発展の要件に対する最善な決定を下す事を助ける事が出来る。更に、水資源の開発計画には、現在の環境的状況と同じく、将来の開発への余地に対する継続的分析の為の「ツール」が必要である。新たな概念である総合的水資源計画は、水資源における、特に、沿岸地区における持続可能性に関する環境と社会経済の強力な諸指標を組み込んだ空間分析モデルを開発する事を目的としている。

この研究は、総合的水資源管理の為に科学と政策を結び付ける事を目的としており、利害関係者参加と諸支援施策による水管理の為の決定支援システムを開発する為の学際的且つマルチレベルの研究プロジェクトであった。

空間分析をMulti-Criteria Evaluation（MCE）［多基準評価］、そして、再度、最終解中の総合因子の評価プロセスの設計要素を定義する為に用いた。コンピュータ化された情報処理は、意志決定の質を改善する為に意志決定者を支援する。この研究においては、水資源計画、特に、沿岸の土地利用開発の分野における専門家の意見と選好を総合する為にMCEを使用している。

その目的とする所は、持続可能な開発の為の総合水資源管理における行政面、経済面、環境面、及び、社会面の研究、そして、水資源を科学的に管理する為の意志決定支援システムの開発であった。

この研究は、多基準分析を応用し、Analytic Network Process（ANP）［ネットワーク分析法］に基く持続可能な発展の為の水資源管理に対する有効な計画を作成する為に、水資源に関連する当事者、特に、政策策定者と専門家を含むものであった。その手法は、次の様に纏める事ができよう。即ち、行政、社会経済、そして、環境面での抽出条件の特定－既存情報に対する効率的なデータベース及び水資源の持続可能性への影響の事前評価と評価の為の当事者の意見と数学的モデル、特にネットワーク分析法（ANP)を用いた異なる諸指標から選び出された一連の最適基準の定義－水資源の持続可能性の高速評価の為の極めて効率的な代替選択肢の開発。

ここで、使用した諸指標を選択する上で、専門家の意見が重大な役割を果たした。

この研究結果は、意志決定支援システム、そして、国内政策に取り入れる事ができ、専門家を水資源管理と計画に含める事による意志決定者の知識を強化を助ける専門家の参加により、水資源管理の意志決定者が有効な計画を策定する事を支援する一群の知識への貢献する新たな知識であった。その他の結果として、権威在る専門誌への三本の論文の提出と国際会議、国内会議における10本の論文の発表がある。

2010年7月5日

**給費研究員：** Jackline Alinda Ndiiri
**受　益　国：** ケニア
**研究実施国：** タンザニア連合共和国

**出 生 日 ：** 1976年6月10日
**出 生 地 ：** ケニア共和国カカメガ

**取得学位**

University of Dar es Salaam, Faculty of Civil Engineering & the Built Environment: Master in Water Resources Engineering, Tanzania (November 2005).
[2005年タンザニアのダルエスサラーム大学土木工学及び建築環境部水資源工学課にて水資源工学にて修士号取得。]

**学術業績**

Ndiiri, J.A., Mati, B.M., Home, P.G., Odongo, B. and Uphoff, N. *Comparison of water savings of paddy rice Under System Of Rice Intensification (SRI) growing rice in Mwea, Kenya.* International Journal of Current Research and Review Volume 4, issue 6, pp 63-73, 2012.
[2012年刊 国際誌 現在の研究と概要 第4巻6号63-73頁 Ndiiri, J.A., Mati, B.M., Home, P.G., Odongo, B. and Uphoff, N.共著 *ケニアのMweaにおける稲強化システム(SRI)による稲作水田の水節約比較*]

MSc title: *Assessing Applicability of Hydrological Models under Changing Flow Regimes in the Mara River Basin.*
[修士論文：*マラ川集水域の流動様式変化下における水文諸モデルの応用性の評価*]

**研究実施機関**

タンザニア連合共和国ダルエスサラーム所在ダルエスサラーム大学土木工学及び建築環境部水資源工学科

**研究期間：** 2010年4月21日から2011年1月20日

**研究原題**

*Development of an Integrated Water Resources Management Plan for the Mara River Basin Using Decision Support Tools*

**連 絡 先：** jacklinendiiri@yahoo.com

# 意志決定支援ツールを用いた マラ川集水域の総合水資源管理計画の策定

マラ川集水域は、更に広大なナイル川集水域の一つである。異なる水利用（例えば、農村部、都市部、自給灌漑農業、商業的灌漑農業、そして、産業）が、この集水域には在る。人口増加と農村部での水供給の増加は、環境流量の充足と諸国際要水量に応じる必要性と相俟って、既に水への負荷が高い集水域における将来の水資源管理を極めて複雑なものとしている。

ケニア政府は、既に Water Act 2002［2002年水法］中に規定されている様に Environmental Flow Requirement［環境要水量］を充たす過程にある。しかしながら、政府により提案されたプロジェクトの幾つか（例えば、この集水域内の経済成長を促し、貧困を減らす為の既存灌漑計画の拡大）は、実行可能性を確認するための評価を行っていない。この集水域が、潜在的な水需要を充たす能力の評価を行う事ができる事は、現在の状況を評価し、将来の計画を策定し、賢明な決定を行う為に極めて重要である。

それ故に、この研究である。この研究においては、作物要水量は CROPWAT モデルを用いて推定し、環境要水量は Hughes と Munster のデスクトップ法を用いて推定した。水需要のシミュレーションと推定環境流量は、20 年間に亘って行った。

この集水域内において特定された水の利用には、家庭、家畜、産業、農業、そして、環境としての水の利用者が含まれた。

この研究は、この集水域における現在の年間水需要が 47.67 $Mm^3$（百万立方メートル）であり、その内、灌漑、都市部、農村部、家畜、そして、産業の水使用が、同順で 0.6%, 25%, 22%, 53% そして 0.2%である事を明らかにした。

現在の超過需要は、38.5 $Mm^3$ に上る。年間、約 28 $Mm^3$ と 25.52 $Mm^3$ が、それぞれ灌漑と家庭で消費される。これは、水の不足を 70%増加させる。

この研究においては、この集水域の将来の劣化を避ける為に、提案されたプロジェクトを実行に移す前に、プロジェクト全体の分析を行う事を推奨している。将来の需要増加の厳格な制御が不可欠であるが、ケニアの様に急速に発展している国においては難しいかもしれない。

2011 年 3 月 25 日

**給費研究員：** Siham MADDI
**受　益　国：** モロッコ
**研究実施国：** フランス

**出 生 日 ：** 1987年1月3日
**出 生 地 ：** モロッコのゲルミン

**取得学位**
2008年9月16日フランスのUniversité de Reims Champagne-Ardenne［ランス大学シャンパーニュ-アルデンヌ］にて伝熱により修士号取得。

**学術業績、及び、出版物**
University of Reims: *Thermal Assessment of an Oven and Suggested Improvements to Save the Energy Consumed.*
［ランス大学：*オーブンの熱評価と消費エネルギー節約する為の改善提案*］

City: Casablanca, Morocco, 2008.
［2008年刊 都市：モロッコ、カサブランカ ］

**研究実施機関**
Nancy Université I (Henri Poincaré), École Nationale Supérieure des Technologies et Industries du Bois (ENSTIB), Laboratoire d'Etudes et de Recherche sur le Matériau Bois (LERMAB) EA 4370, Axe 2 Energie et Procédés, Energétique du bâtiment
［フランスのナンシーⅠ（アンリ・ポワンカレ）大学所在の国立木材工科大学院(ENSTIB)木材研究室(LERMAB) EA 4370、研究軸２：エネルギー及び製法、建造物エネルギー］

**研究期間：** 2010年10月から2011年3月17日

**研究原題**
*Protecting the Environment by Reducing the Heat Generated by Smoke from Factories and Transforming it into Useful Energy*

**連 絡 先：** sihammaddi@gmail.com

# 工場排煙による発熱の低減による環境の保護と、その熱の有益なエネルギーへの転換

環境保護の概念は、まだ揺籃期にあり、そして、土地、大気、そして、水の三構成要素から成る環境は、人類の諸活動、特に産業からの様々な侵略に晒され続けている。産業界の人間は金銭的利益だけに注目し続け、そうした行動、そして、過度の環境汚染の有害な結果に鑑み、環境問題の専門家や科学者達が行った勧告や警告を無視し続けている。

私が行った研究を大学における極めて有意義な経験としてだけではなく、私達の環境は相互に依存しており、世界の全地域を覆うので愛国的且つ普遍的双方の責務として私は見ている。

この点において、このささやかな試み参加する機会を与えてくれたユネスコに心から感謝したいと思います。私の研究目的は、基本的に、こうした自然に対する人類の行為をより効果的に止め、或いは、少なくとも、制限し、自然への被害を最小化し、災害を避ける事であった。

今日、最も衝撃的な事は、過去二十年間の降雨の不足、或いは、不順に起因する、特に南半球（アフリカとアジアの一部）における回復不能な旱魃、或いは、水不足である。専門家等は、この前例のない状況は地球温暖化と環境汚染に起因すると認めている。その結果として、啓蒙活動、シンポジウム、そして、警告が、全世界的に増え、私達が暮らす環境への私達の振る舞いを変える必要が在ると言う認識を世界中で喚起している。私達は、環境を様々な形態の廃棄物を捨てる単なる場所と、もう見做してはならない。

この目的の為に、私が前述した様に、私の国を襲っている旱魃を解決する為の家庭用、或いは、農業用の水使用の合理化を含め、汚染と戦う為の幾つかの方法がある。この研究において私が述べている方法は、従って、旱魃とその破壊的結果に対してだけでなく、間違いなく気象変動の主因である地球温暖化に対しても広範且つ実現可能な解決策である。

この解決策は、煤煙の熱を使用して周囲の空気を過熱する熱交換器を設置する事による産業施設から排出される煤煙から熱の一部を回収する仕組の開発から成る。その空気は、燃料として再利用する為の燃焼室を通る。

この手法によって大気への有害なガスの排出を削減し、燃料を節約する事により、このプロジェクトは短期間で利益がでる。最も重要な点は、大気が新たな汚染源から保護される事である。

2011 年 3 月 17 日

**給費研究員：** Dawoud Al Massri
**受　益　国：** パレスチナ
**研究実施国：** 米　国

**出 生 日 ：** 1980年6月20日
**出 生 地 ：** パレスチナのガザ地区ラファ

### 取得学位

2007年1月13日　米国コネチカット州所在のニュー・ヘーブン大学大学院にて環境工学により科学修士号取得。

### 学術業績

MSc dissertation: *Water in Palestine, Problems and Solutions*, United States of America, 2006.
［2006年米国における科学修士論文 *パレスチナにおける水　問題と可決方法*］

### 研究実施機関

Faculty: Department of Civil and Environmental Engineering, School of Engineering, Tufts University, Massachusetts, United States of America.
［米国マサチューセッツ州所在タフツ大学工学部土木環境工学科］

### 提案研究プロジェクト

*Determination of the Minimum Cost Configuration of Future Water Supply, Wastewater Disposal and Re-use Options*

### 連絡先

dawouda@gmail.com

# 将来の水供給と廃水処理、及び、再使用の選択肢の最小費用構成の特定

この研究は、米国マサチューセッツ州メドフォード所在のタフツ大学において２００９年１０月に始まる少なくとも四ヶ月間に亘り行われるものである。タフツ大学は、ヨルダンとレバノンを含む中東の地理的地域に関心を持ち、水に関する研究分野において長い歴史を有す。水資源管理分野における経験を得る事は、私の職歴とガザ地区の一般住民に、より広範な利益を齎す可能性を有す。

タフツ大学の研究者は、水が逼迫する沿岸都市における水供給システム管理を支援するのに最適化した数理モデルを開発した。そして更に、そのモデル設計は、水供給の他の実行可能な全選択肢の中で、特に廃水再利用の為の回収と都市部における再利用（飲料と非飲料用、集中型と非集中型の双方）の費用効率を評価するものと成っている。

このモデルを使い、タフツ大学での四ヶ月間、パレスチナにおける同様の地域において、特に水の逼迫している沿岸地区なので、ガザ地区について研究を行う。今までに為された研究作業は、私の研究の開始点を備えるもので、Richard Vogel 教授により、指導される。彼は、その専門的経験と知識をこの研究に投入する用意が完全にできており、適切な学術的指導を与えてくれる。加えて、研究に必要な設備（研究室、コンピュータ利用、オンライン図書とデータベースへのアクセスと言った）が提供されている。

**研究理由**

この研究に期待される結果は、準乾燥沿岸諸都市の為の将来の水供給、廃水処理、そして、再利用選択肢の最小費用構成の特定である。総合水資源管理の枠組の中で、既処理廃水を含む全水源が水供給源としての可能性を持ち、使用者の異なる水質ニーズが認識される。

**研究結果の導入**

提案する研究プロジェクトの完了に引き続き、研究結果を役立たせ、水資源管理分野での導入に努める所存である。

**研究結果の普及**

この研究結果の普及は、諸学会とシンポジウムにおいて、如何に水資源をより効果的に管理できるかと言う問題に取り組む観点で、パレスチナが直面する危険性について議論を行う事ができる。

**給費研究員：** Madjouma Kanda
**受　益　国：** トーゴ
**研究実施国：** ベナン

**出 生 日 ：** 1971年3月11日
**出 生 地 ：** トーゴ Niamtougou［ニャムトゥーグー］

## 取得学位

- 2003年10月30日ベナン共和国コトヌー所在University of Abmey-Calavi［アボメ-カラビ大学］（UAC）にて高等専門職課程免状（DESS）取得。
- 2011年2月トーゴ共和国ロメ所在の Université de Lomé［ロメ大学］科学部にて博士号取得。

## 学術業績

Madjouma Kanda, Koffi Akpagana, Gbandi Djaneye-B. *Agriculture maraîchère au Togo. Analyse systémique et environnementale. Éditions Universitaires Européennes*, Editions universitaires europeennes, Berlin, Germany, 15 mars 2012.
［2012年3月15日ドイツ ベルリン欧州大学出版刊 Kanda M., Akpagana K. , G. Djaneye-Boundjou 共著 *トーゴにおける園芸農業：系統的環境的分析*］
ISBN-10: 3841794041　ISBN-13: 978-3841794048

Kou'Santa Amouzou, Byham Adaké, Komlan Batawila, Kperkouma Wala, Sêmihinva Akpavi, Madjouma Kanda, Komi Odah, Komi Kossi-Titrikou, Innocent Butaré, Philippe Bouchet et Koffi Akpagana, *Études biochimiques et évaluation des valeurs nutritionnelles de quelques espèces alimentaires mineures du Togo* Acta Botanica Gallica, Vol. 153 (2), 147-152, juin 2006.
［2006年6月号フランス植物学誌 第153巻2号147-152頁Amouzou K., Adaké B., Batawila K., Wala K., Akpavi S., Kanda M., Odah K., Kossi-Titrikou K., Butaré I., Bouchet Ph., K. Akpagana共著 *トーゴの幾つかの非主食種の栄養価の生化学的研究と評価* ］

M Kanda, K Wala, G Djaneye-Boundjou, A Ahanchede, K Akpagana *Utilisation des pesticides dans les périmètres maraîchers du cordon littoral togolais* Journal de la Recherche Scientifique de l'Universite de Lome, Vol 8, No 1, Serie A, : 19-26, 2006.
［2006年刊ロメ大学科学研究誌シリーズA第8巻1号19-26頁 Kanda M., Wala K., Djaneye-Boundjou G., Ahanchédé A., K. Akpagana共著 *トーゴ沿岸地域の園芸における農薬の使用* ］

Beskeni, R. D. *Guide in Answering Chemistry Practical Questions at Secondary School Level.* In effective methods of teaching chemistry practical, Chapter 16, pp 108-113. HEBN Publishers: Nigeria, 2008. ISBN-978-978-902-790-3.
［2008年ナイジェリアHEBN出版刊Beskeni, R. D.編「中等教育における実用的化学に応える指針」第16章108-113頁 *実用的化学教授の効果的方法* ］

## 研究実施機関

ベナン共和国コトヌー所在のUniversité d'Abomey-Calavi (UAC)［アボメ-カラビ大学］科学技術部

**研究期間：** 2009年9月から2010年1月31日、及び、2010年10月から同年12月

**連 絡 先：** kmadjouma@yahoo.fr

# トーゴにおける殺虫剤による市場園芸の水汚染評価：大系的環境分析

## トーゴにおける市場園芸：体系的分析

他のサハラ以南のアフリカの国々において見られる様に、トーゴの人口は急速に増加している。この状況は、都市部中心に生鮮食料品の供給の問題を投じている。市場園芸は、この需要の充足に貢献するだけではなく、失業と貧困も減少させる一解決策である。しかしながら、都市部と都市部周辺での市場園芸は、多種多様なの殺虫剤と肥料を使用する集約農業の一形態でもある。

この研究は、現地調査と試験室においける諸分析に基くもので、都市部と都市部周辺の市場園芸を行っている者は、幾つかのグループに分けられるが、それには低学歴ではあるが実地訓練を受けた若年者(59.26%)が含まれる。

しかしながら、市場園芸者(62.96%)は、この仕事に数十年間従事しており、相当の経験を有している。市場園芸者の 63.97%は、小規模経営で 1 ヘクタール(1 ha)未満の経営である。灌漑方法と同じく土地と水へのアクセス方法は、様々で資金力地域に依存する。作物種は極めて変化に富み、17 科 30 属 43 種に亘る。合成農薬の使用は、広範に行われており、138 種の農薬が確認された。その内の 54.66%が殺虫剤で、21.21%が殺菌剤であり、その内の 58.91%が園芸作物への使用が許可されていないものであった。

こうした農薬の散布時に散布者が自分自身の防御を行う事は希である。散布方法は、散布後の収穫迄の期間と同じく適切に行われていない。

試験室における分析は、生育した作物、土壌、そして、水中の蓄積された残留農薬が世界保健機構(WHO)により許される最大限度を超過する場合がある事を示した。ある濃度（特に作物と水）は、WHO により許される最高限度よりも高かった。

これは、同じ試料中に蓄積された微量金属に対しても同じであった。全事例において、そのレベルは、その試料の出所由来によって異なる。

2011 年 5 月 18 日

**給費研究員：** Dong Nguyen Thanh
**受　益　国：** ベトナム
**研究実施国：** チェコ共和国

**出 生 日 ：** 1979年11月1日
**出 生 地 ：** ベトナム　ハノイ-ソンタイ

**取得学位**

2005年3月15日 ベトナムのハノイ所在のベトナム国立大学にて科学修士号取得。

**学術業績**

Dong Nguyen Thanha, Mandeep Singhb , Pavel Ulbrichc, František Štěpánekb, Nina Strnadováa
*As(V) removal from aqueous media using α-$MnO_2$ nanorods-impregnated laterite composite adsorbents.* Materials Research Bulletin (Elsevier) Volume 47, Issue 1, January 2012, Pages 42–50.
[2012年1月号 素材研究報 第47巻1号（Elsevier刊）42-50頁Dong Nguyen Thanha, Mandeep Singhb , Pavel Ulbrichc, František Štěpánekb, Nina Strnadováa共著 *α-$MnO_2$ ナノロッド含浸ラテライト複合吸着剤を用いた水溶媒中の五価砒素の除去* ]

Dong Nguyen Thanha, Mandeep Singhb, Pavel Ulbrichc, Nina Strnadovaa, František Štěpánekb
*Perlite incorporating γ-$Fe_2O_3$ and α-$MnO_2$ nanomaterials: Preparation and evaluation of a new adsorbent for As(V) removal.* Separation and Purification Technology (Elsevier), Vol. 82, 27 Oct. 2011, Pages 93–101.
[2011年10月号 分離浄化技術 第82巻27号(Elsevier刊)93-101頁Dong Nguyen Thanha, Mandeep Singhb, Pavel Ulbrichc, Nina Strnadovaa, František Štěpánekb著 γ-$Fe_2O_3$ および α-$MnO_2$ ナノ材料を合体した真珠岩:As(V)除去用の新しい吸着剤の調製と評価 ]

Mandeep Singha, Dong Nguyen Thanhb, Pavel Ulbrichc, Nina Strnadováb, František Štěpánek
*Synthesis, characterization and study of arsenate adsorption from aqueous solution by α- and δ- phase manganese dioxide nanoadsorbents.* Journal of Solid State Chemistry (Elsevier) Volume 183, Issue 12, December 2010, Pages 2979–2986 .
[2010年12月号個体化学誌(Elsevier刊)第183巻12号2979-2986頁Mandeep Singha, Dong Nguyen Thanhb, Pavel Ulbrichc, Nina Strnadováb, František Štěpánek著 *α-とδ-相二酸化マンガンナノ吸着剤の合成,特性化,水溶液からのヒ酸塩吸着研究* ]

**研究実施機関**

チェコ共和国 Vysoká škola chemicko-technologická v Praze (VŠCHT Praha)(Institute of Chemical Technology in Prague (ICT Prague))［プラハ化学技術大学水技術環境工学科］

**研究期間：** 2009年9月から5月31日

**研究原題**

*Research and Application of Nanostructured Adsorbents – a New Approach to Solving the Problem of Arsenic-Polluted Groundwater and Related Social Issues in Viet Nam*

# ナノ構造吸着剤の研究と応用

## ベトナムにおける砒素汚染地下水と関連社会問題を解決する為の一新手法

国際癌研究期間は、砒素をAクラスの人間に対する発癌物質として分類しており、世界保健機構も飲料水に対して10 $\mu g.L^{-1}$の限度を勧告しており、その基準は多くの先進国で規制値として採用されている。ベトナムは、砒素が多くの人の健康に高リスクが在る国であると見られている。紅河デルタ地帯とメコン・デルタ地帯周辺の掘り抜き井戸で高濃度の砒素が測定されている。ベトナム人口の約21.5%が砒素で汚染された掘り抜き井戸の水を使用している。更に、従来の水処理施設は、イオンとマンガンを除去するように設計はされているが、砒素を除去する様には設計されていない。従って、飲料水中の砒素濃度が国の飲料水基準を超える場合がある。この問題は1990年代から検知されているが、ベトナムでは砒素汚染地下水に影響をうけている地域社会に、いまだに問題を起こしている一衛生問題である。

水処理技術の中において、様々な吸着剤による吸着法は他の方法に対し、低運用費用、低廃棄物処理費用、より少ない体積、そして、より少量の反応剤の消費で、より簡単に汚泥形成を除去可能の点で優位性がある。

ナノ技術の出現により、最近ナノ素材が注目されている。ナノ素材には、大比表面積、より広範な触媒能力とイオン交換能力があり、ナノ素材は重金属全般の吸着、特に砒素除去の優れた候補となる。

しかしながら、ナノ素材は、その小さなサイズと微細粒子状構造の為に、それを処理溶液から全般的に分離する事が困難である。従って、この研究において、この弱点を、現地（ラテライト岩、椰子殻活性炭、籾殻等々）自然界に在る、安価で、入手可能な担体素材を用いて、諸合成ナノ素材($Fe_3O_4$, α-$MnO_2$ナノロッド、 FeOOHアモルファス、そして、他のナノ複合材)により、克服した。そして更に、溶液からの砒素の除去に対する合成複合吸着剤の吸着特性を調べた。

この新吸着剤は、飲料水中と下水処理水中の双方の砒素だけでなく、その他の重金属の除去へ応用できる大いなる可能性があり、現地で入手可能な安価な素材で作られる。従って、これらの素材は、都市部の水処理施設と農村部の家庭用水処理システムの双方での使用に適している。

この研究は、ベトナムなむにおける安全な飲料水へのアクセスを保障する為のベトナム政府の公共政策の支援により、ベトナムの地表水の砒素汚染に関連する社会問題の解決も繋がる技術的取り組みである。そして更に、この給費研究員プログラムを通して得られた知識と経験は、我国において応用され、利用される事になる。

2010年11月9日

# 2010年度環境分野研究員の言葉

この給費研究員制度は、自然災害とハイパースペクトル遠隔探査の知識を更に補強する機会を与えてくれました。

Irena Ymeti
**アルバニア**

このフェローシップは、何ヶ月も間、国際的に知られた研究グループと一緒に働く機会を与えてくれました。更に重要なのは、この客員研究がパドバ大学と浙江大学との間の協力の機会を創出した事です。

Yinlei Hao **(郝寅雷)**
**中華人民共和国**

このフェローシップは、学術的にも、個人的にも、私の人生における最高の経験でした。そして、私の開始した研究を継続できる事を希望しています。

Vanessa Amaya Vallejo
**コロンビア**

科学修士号を取得した後、私の環境科学分野の研究を完成させる機会を探していたので、ユネスコ/日本 若手研究者フェローシップは完璧な答えでした。

このフェローシップは、私をアリゾナ州立大学における六ヶ月間の客員研究者として完璧に支援してくれました。（米国の）アリゾナでのユネスコ研究員としての経験は、米国において、異なる仕方で社会と交流する新たな方法と視点を創り出す事により、私の社会的、そして、学術的生活を完全に変化させるものでした。

このフェローシップ期間、2011 年の 3 月から 9 月迄をアリゾナ州のタンパで最も実りの在る時間を過ごしました。タンパで、私は研究の関心を研ぎ澄ます為に様々な図書館から可能な限り多くの研究試料を得ました。

この分野で既に専門的な研究をしている様々な国際的学者グループと直接接する多くの機会があったので、彼らの過去の経験を祖国に持ち帰る事ができ、大変幸運だったと思います。そして更に、私は米国と言った様な諸先進国における現在の諸世界情勢と教育システムの動静について、より良く知る事ができました。

Mohamed Mahmoud Ali
**エジプト**

フランス滞在中、私は数多くのLADYSSのセミナーとナンテールの大学での民族学セミナーに参加しました。私はナンテールの大学、ユネスコ、パリ国際大学都市(Cité Universitaire)の図書館、そして、フランス国立図書館(BNF)で広範な文献調査も行いました。又、LADYSSの参考書目、特にSHS参考書目を有効活用できました。こうした調査研究活動をユネスコ／日本政府給費研究員として行えた事を嬉しく思います。

Golfam Sharifi
**イラン（イスラム共和国）**

ユネスコと日本国政府による若手研究者フェローシップが、私の研究を支援し、カナダ自然博物館を訪問し、研究する事を可能にしてくれました。訪問研究から得られた経験は大変貴重なもので、知識を拡げ、将来の研究で実施する新たな考えを得る事ができました。

Aleksandra Cvetkoska
**マケドニア(旧ユーゴスラビア共和国)**

このフェローシップは、科学研究を推進する効果的手段です。

Mababa Diagne
**セネガル**

このフェローシップは、実施可能な研究の推進力のある博士論文の為の学資を提供してくれました。論文完成の暁には、私の国、モーリタニアの為に働き、私の国を発展へと導く、様々な努力に貢献するつもりです。

Cheikh Tidiane Ndiom
**モーリタニア**

このフェローシップによるダンディーでの調査研究の成果は、実用的化学教育へ情報通信技術を利用した、工業化の為に若い科学者達に科学プロセスの技能を修得する為に教えるのに利用できる高度な手法の開発でした。

Rhoda Danjuma Beskeni
**ナイジェリア**

これは、多くの事を学び、個人的にも学術的にも自分自身の成長に本当に役に立つ、心躍る経験でした。

Rami Altalouli
**パレスチナ**

# 2010年度環境分野研究員

Irena Ymeti アルバニア　　(写真右)
[研究]
遠隔探査、水文モデル及び地理情報システム(GIS)を用いた鉄砲水シミュレーション:アルバに都市部における事例研究－自然災害と災害リスク管理

(写真中央) Vanessa Amaya Vallejo コロンビア
[研究]　生物多様性保護用の一ツールとしてのコロンビアValle del Cauca [カウカ渓谷]のAnchicaya[アンチカヤ]川水力発電域の新Odonata [トンボ目]種の記載

(写真左)　Mohamed Mahmoud Ali　エジプト
[研究]
微生物燃料電池(MFCs)を利用する埋立地浸出水処理の持続可能な手法

(写真左端)　Yinlei Hao (郝寅雷 ) 中華人民共和国
[研究]
ナノスケール複合ガラス材に基くイオン交換技術による光学通信素子

(写真手前右)
Golfam Sharifi イラン
[研究]
ヤズド州 (イラン中部) における人類学的研究

Aleksandra Cvetkoska マケドニア
[研究]
生物指標として珪藻植物を用いたオフリド湖の
富栄養化レベルの特定

Rhoda Danjuma Beskeni ナイジェリア
[研究]
実用化学での実験観察技能を修得させる為の中等
教育における情報通信技術(ICT)の利用

Cheikh Tidiane Ndiom モーリタニア（写真左から三人目）
[研究]
ヌアクショットからブラン岬間のモーリタニア沿岸の開発と活
動の、特に、人口と自然環境における影響

Rami Altalouli パレスチナ
[研究]
パレスチナにおける気候変動と大気汚染の
河川流域と帯水層系への影響への適応

Mababa Diagne セネガル
[研究]
産業及び家庭廃水からの汚染除去
への新促進酸化処理の適用

**給費研究員：** Irena Ymeti
**受　益　国：** アルバニア
**研究実施国：** オランダ

**出 生 日 ：** 1979年10月8日
**出 生 地 ：** アルバニアSkrapar［スクラパル県］

**取得学位**

2007年3月9日 オランダのEnschede［エンシェデ］所在のInternational Institute for Geo-Information Science and Earth Observation［地理情報科学地球観測国際学院］(ITC) *にて水資源管理における遠隔探査と地理情報科学により、科学修士号取得。

**学術業績**

*Rainfall estimation by Remote Sensing for conceptual rainfall-runoff modelling in the Upper Blue Nile Basin*, Irena Ymeti (International Institute for geo-information science and earth observation enschede,) March, 2007.
[2007年3月Enschede［エンシェデ］所在 International Institute for Geo-Information Science and Earth Observation［地理情報科学地球観測国際学院］学位論文 *青ナイル川上流域における降雨－流出概念モデル化の為の遠隔探査による降雨の推定* ]

**研究実施機関**

オランダのEnschede［エンスヘデ］所在Universiteit Twente (University of Twente), Faculty of Geo-Information Science and Earth Observation*［トゥウェンテ大学地理情報科学地球観測学部］

**研究期間：** 2011年3月から同年7月

**研究原題**

*Flash Flood Simulation Using Remote Sensing, Hydrological Models and Geographic Information System (GIS): Case Study in Urban Area in Albania– Natural Hazards and Disaster Risk Management*

**連 絡 先：** irena_ymeti@yahoo.com

［*2010年1月1日付けで1950年設立のInternational Institute for Geo-Information Science and Earth Observation (ITC)はUniversity of Twente (UT)へ併合、一独立機関から同大学の一学部となる。］

# 遠隔探査、水文モデル及び地理情報システム(GIS)を用いた鉄砲水シミュレーション:アルバに都市部における事例研究－自然災害と災害リスク管理

「災害の危険性とは、人命の損失、或いは、怪我、財産の損傷、社会経済的途絶などを引き起こす物理的損害を与える可能性の在る事象、現象、或いは、人間の活動の事である。」

この事象には、特定期間内、特定地区内において起こり得る確率と強度がある。

我々は、どの自然プロセスが、その事象を引き起こしているのかを知る事ができるならば、災害の危険性を理解できる。このモジュールにおける焦点は、水文プロセスによって引き起こされる災害の危険性である。何故水文プロセスが危険に成るかを理解するには、全システムを理解する事が重要である。特に、あるプロセスを防止、又は、緩和するには、それに関連する他のプロセスを知る必要がある。それには、モデルで何と若しの設問に答える事ができる。即ち、モデル・シナリオである。他方、危険性は学際的空間問題である。それは、危険性評価、危険性のある要素、費用推定、そして、脆弱性は、別々の科学者によって為されるからである。こうした総ての要素を統合し、危険性評価を行う為には、GIS の専門家を必要とする。

## ハイパースペクトル遠隔探査(HRS)

ハイパースペクトル遠隔探査は、多スペクトル高解像度、連続バンドで画像データを取得できる。

その結果として、その取得されたデータは、地表の無機物を特定し、マッピングするのに広範に使用される。ハイパースペクトル遠隔探査では、反射スペクトルを正規化するのに continuum removal [包絡線除去]を使用する。そして更に前処理段階にける以下の大気補正が極めて重要である。

反射データに他の情報が存在しない場合、Internal Average Reflectance [内部平均反射]大気補正法を画像データ(放射輝度)の較正に使用する。

フラット・フィールド補正法は、画像データ中の関心のある地域を特定する為の高輝度で均一的な地区を必要とする。

その結果は、反射データである。Empirical Line correction [経験線補正]では、明部と暗部反射を使って反射と放射輝度間の回帰を計算する。

ハイパースペクトル画像分析においては、スペクトル角マッピングを使って、スペクトルの類似性を決定する。Spectral Feature Fitting [スペクトル特性適合]法では、対象とするスペクトルとピクセル・スペクトルに適合するスペクトル中の特定の吸収特性を調べる。HRS において予期される応用は、地質調査への応用、土壌土地の劣化、植生と水質の研究である。

## 地球物理学と準表層の三次元視覚化

地球物理学では、地球の物理的特性を研究する。この過程で、我々は、地球の表層で最大 100m の物理的特性とプロセスを研究する環境地球物理学に焦点を当てた。

地球の地球物理的特性を定量化する為に、以下の様な幾つかの手法がある。即ち、重力、抵抗、電磁、地中浸透レーダー、それに地震等である。動的地球物理学的手法では、信号を地球に注入する。一方、静的手法では、地球自体が発する信号を測定する。

こうした手法を利用できる多くの応用分野がある。即ち、炭化水素、或いは、鉱物の探査、空洞の探知、氷河厚の測定、潮汐振動、地下水源、埋没構造の位置、等々である。

2011 年 8 月 24 日

**給費研究員：** Yinlei Hao （郝寅雷）
**受　益　国：** 中華人民共和国
**研究実施国：** イタリア

**出 生 日 ：** 1974年11月13日
**出 生 地 ：** 中国河南省安陽市

## 取得学位

2001 年 4 月 1 日中国科学院長春光学精密機械物理研究所にて光学により博士号取得。

## 学術業績

Yinlei Hao, Yaming Wu, Jianyi Yang, Xiaoqing Jiang, and Minghua Wang Mémoire, *Novel dispersive and focusing device configuration based on curved waveguide grating (CWG),* Optics Express, Vol. 14, Issue 19, pp. 8630-8637 (2006) .
[2006年オプティックス・エクスプレス第14巻19号8630-8637頁 王明华、郝寅雷、江晓清、杨建义 等共著 *曲線導波分布反射に基く新分散集束素子* ]

Y. HAO, W. ZHENG, Y. SUN, J. YANG, X. JIANG, J. YANG, Q. ZHOU, X. LI, M. WANG, *Single-mode-fiber-matched waveguide by silver/sodium ion-exchange and field-assisted ion-diffusion* OPTOELECTRONICS AND ADVANCED MATERIALS – RAPID COMMUNICATIONS Vol. 3, No. 9, p. 865 – 868, September 2009.
［2009年9月号「光電子学と先端材料」誌 第3巻9号865-868頁郝寅雷等共著 *銀-ナトリウム・イオン交換と電解イオン拡散による単一モードファイバ整合導波路* ］

Hao Yinlei, Zheng Weiwei, Jiang Shuhang, Gu Jinhui, Sun Yiling, Yang Jianyi, Li Xihua, Zhou Qiang, Jiang Xiaoqing, Wang Minghua, *Manufacturing and Analysis of low loss ion exchanged glass waveguide*, Journal of Inorganic Materials, 24(5): 1041-1044, 2009.
［2009年刊 無機材料化学報 第24巻5号1041-1044頁 郝寅雷，Zheng Weiwei, Jiang Shuhang, Gu Jinhui 等共著 *低損失イオン交換ガラスから成る導波路の製造及び解析* ］

## 研究実施機関

Università degli Studi di Padova (University of Padova), Dipartimento di Fisica e Astronomia "Galileo Galilei" (Department of Physics and Astronomy), Padova, Italy.
［イタリア、パドバ所在パドバ大学物理天文学部（ガリレオ・ガリレイ）］

## 研究期間

2011年7月6日から2012年1月5日

## 研究原題

*Optical Communication Device by Ion-Exchange Technology on Nanoscale Composite Glass Materials*

## 連絡先

haoyinlei@zju.edu.cn

## ナノスケール複合ガラス材に基くイオン交換技術による光学通信素子

ナノスケール貴金属粒子添加ガラス複合材は、光電子学分野において魅力的な特性を有している。同時に、酸化チタンは、一種のワイドーバンドーギャップ半導体材で、エネルギーと探知の応用に極めて適している。パドバ大学での滞在期間中の研究は、ソーダ石灰ガラス基盤上の銀ドープ酸化チタン薄膜の製造と特性について行われた。

最初は、研究は、ラジオ周波数(RF)スパッタ法によって製造された酸化チタン薄膜、そして、不活性ガス保護環境下での製造酸化チタン薄膜の焼鈍処理における結晶化挙動に関するものであった。X線回折(XRD)による特性評価結果は、RFスパッタ法によるアモルファス薄膜の焼鈍により、主に鋭錐石から成るナノ粒子がソーダ石灰ガラス表面に形成された事を示した。この結果に基き、ナノ構造化銀／二酸化チタン($Ag/TiO_2$)複合材を次の異なる手法で作成した。即ち、最初の方法は不活性ガス中での同時スパッタ法によって製造された$Ag/TiO_2$薄膜の焼鈍、次にACスパッタ法とRFスパッタ法によって一層毎に層形成した$Ag/TiO_2$積層構造材の焼鈍、更に微小球状粒子マスク・ステッパ法によってステッパされた薄膜上へのナノ粒子の生成、そして最後に、その次のステッパ法による$Ag/TiO_2$積層構造へのアルゴン(Ar)イオン注入である。

この四手法を用いて調製された試料の特性評価を、X線回折(XRD)と可視紫外分光法により行い、薄膜上にナノメータ・サイズの鋭錘石酸化チタンとナノサイズ銀粒子が得られた事が判った。

この結果は、四手法の内のどの手法を用いても銀ナノ粒子埋め込み酸化チタン薄膜が製造できる事を示している。この研究は、酸化チタンに基く素子の開発の為の堅固な基礎を置いた。

上記研究の経験に基き、現在、私はパドバ大学で私の客員研究の監督をしてくれたPaolo Mazzoldi教授の研究グループとの協力を継続している。

私は、新たな複合材研究計画を提案した。ソーダ石灰ガラス基盤上に、ナノ球状粒子マスキング法、或いは、他の手法によって最初に銀薄幕を作成する。その後、陽イオンと陰イオンを共添加した酸化チタン薄膜を銀ナノ粒子の上に沈着させた。

この共添加により、次の３つの利点が予想されれる。即ち、陽イオン添加か陰イオン添加のどちらかだけの場合よりも高密度の添加を確実に得え、より効率的にバンド・ギャップを縮めてより容易に添加イオンを酸化チタンの格子内に織り込み、そして、電子ー正孔対の再結合の遅延させる事である。この銀ナノ粒子には、二つの機能が在る。即ち、局所化表面プラズマ共鳴(LSPR)効果による可視光線の吸収と電子トラップの増強である。

この給費研究員制度は、国際的に名声を博す研究グループと数ヶ月間研究を行う機会を与えてくれた。さらに重要な点は、この客員研究がパドバ大学と浙江大学との協力関係を築いた事である。

2012年4月6日

**給費研究員：** Vanessa Amaya Vallejo
**受　益　国：** コロンビア
**研究実施国：** メキシコ

**出 生 日 ：** 1980年4月1日
**出 生 地 ：** コロンビア共和国カリ

**取得学位**
2009年9月19日コロンビア共和国首都地域ボゴタ所在の Universidad de los Andes［アンデス大学］にて生物学により生物科学修士号取得。

**学術業績**
Vanessa Amaya Vallejo y Julieta Ledezma. “Libélulas ( *Odonata: Anisoptera* ) de la Colección Entomológica del Museo de Historia Natural Noel Kempff Mercado, Santa Cruz de la Sierra, Bolivia” Kempffiana. 6(2): 40-47, 2010.

[ 2010年刊 Kempffiana 誌 第6巻2号40-47頁 Vanessa Amaya Vallejo, Julieta Ledezma 共著「ボリビアのサンタ・クルス・デ・ラ・シエラの自然歴史博物館Noel Kempff Mercado の昆虫標本由来のトンボ ( *Odonata: Anisoptera* ) 」］

**研究実施機関**
メキシコ、ベラクルス所在 INECOL : Instituto de Ecología, A.C.［生態系学院］

**研究期間**
2011年1月29日から同年7月28日

**研究原題**
Description of New *Odonata* Species from the Anchicaya River Hydroelectric Central Zone, Valle del Cauca, Colombia, as a Tool for Biodiversity Conservation

**連絡先**
stolenseason@gmail.com

# 生物多様性保護用の一ツールとしてのコロンビア Valle del Cauca [カウカ渓谷]の Anchicaya [アンチカヤ]川水力発電域の新 *Odonata* [トンボ目]種の記載

私のこの研究の主目的は、新熱帯区の *Odonata* ［トンボ目］で世界的に最も著名な専門家の一人である Rodolfo Novelo Gutiérrez 博士の指導の下で分類学上、そして、生態学上の知識を高める事であった。Novelo 博士とは、所期の目的を果たす機会を得ただけでなく、メキシコのベラクルス州とプルベラ州での調査の機会も得た。これらの地域での様々な現地調査をとおして、生物標本の捕獲、保存、そして、その取扱の技能を向上させる事ができた。最も収穫のあった現地調査の一つは、米国から来た著名な昆虫学者で *Naucoridae* ［コバムシ科］と *Coleoptera* ［ホロトリキア属］を収集する為にメキシコに来ていた著名な昆虫学者 Robert Sites 博士と Dr William Shepard 博士に同伴したものであった。両博士の御蔭で、現場で水生昆虫の捕獲と同定の技能を高める事ができた。又、ミズーリ大学での Sites 博士監督下の昆虫学博士課程履修生の提示も受けた。

この給費研究員としての活動を通して、Novelo 博士と Kenneth Tennessen 博士、Dennis Paulson 博士、 Jurg DeMarmels 博士、Rosser Garrisson 博士、そして、Natalia von Ellenrieder 博士を含む他の専門家の人々の支援を受け、修士論論文用に収集した *Odonata* の全種を同定した。又、その訂正とコメントにより、私の研究をより生産的、且つ、正確なもとする助けとなった。

*Gomphidae* ［サナエトンボ科］に属する調査地の名を冠した *Desmogomphus anchicayensis* 新種の記載を含め、この研究中に重大な諸発見が為された。その他に Anchicaya 川水力発電域とコロンビアの四新記録（*P.mutans*, *M. pellucida*, *M. inequiunguis*, *A. calida*）、そして、既に報告済みの六つの新未記載種、又は、成虫種の幼虫段階の存在 （名称は、*Brechmorhoga sp*、*Macrothemis sp*、*Progomphus sp*、*Perigomphus sp*、*Cora sp*、*Neocordulia sp*）が発見された。私は四本の論文を出版の為に国際登録された科学専門誌（Zootaxa, Odonatologica）に投稿し、その内の一本が既に出版され、他の論文は編集中である。

私の研究は、そこで終了したわけではない。事実、メキシコでの現地調査により、コロンビアと南アメリカの新種と記録の可能性の在る源としての Anchicayá ［アンチカヤ］地域の重要性を確認する事ができた。それ故、私が 2012 年に再度採り上げた研究の継続は不可欠である。この研究の継続により、新熱帯区の *Odonata* ［トンボ目］の知識を高める事、より良き研究者に成る事、そして、何にも増して、コロンビア生物資源保護の重要性の社会における意識を高めると言う、全目標を実現できる事を望むものである。

最後に、Alí Zaid 氏に代表される日本国政府とユネスコの研究に対する謝意を表したい。日本国政府とユネスコが、科学研究への支出が不足している我国の学生へ研究助成を与えようとする努力は、本当に特筆すべきもので、知性、科学、そして、社会の発展を育み、推進する事への献身的取組を反映している。
私は、より良き科学者となり、その過程でメキシコの様な素晴らしい国について知る機会を与えてくれた日本国政府とユネスコに常に感謝の意を表するものである。

このフェローシップの御陰て、学術的にも個人的にも私の人生における最高の経験をする事ができた。この私の始めた研究を継続できる事を希望するものである。

2011 年 10 月 19 日

**給費研究員：** Mohamed Mahmoud Ali
**受　益　国：** エジプト
**研究実施国：** 米　国

**出 生 日 ：** 1984年3月6日
**出 生 地 ：** エジプトのカイロ

## 取得学位

2009年8月9日 エジプトのカイロ所在 جامعة القاهرة (カイロ大学)の科学部において無機化学にて化学修士号取得。

## 学術業績

Fatma El-Goharya, Mohamed Mahmoud, et al. *Management of wastewater from the vegetable dehydration industry in Egypt – a case study. Environmental Technology,* Vol. 33, Issue 2, 2012. Received: 04 Sep 2010.
［2010年9月4日受領 2012年刊「環境技術」誌 第33巻2号211-219頁 Mohamed Mahmouda 等共著 *エジプトの野菜脱水産業由来の廃水の管理 - 一事例研究* ］

Hala El-Kamah, Mohamed Mahmoud, Ahmed Tawfik, *Performance of down-flow hanging sponge (DHS) reactor coupled with up-flow anaerobic sludge blanket (UASB) reactor for treatment of onion dehydration wastewater.* Bioresource Technology, Volume 102, Issue 14, Pages 7029–7035, July 2011.
［2011年7月号*生物資源*誌 第102巻14号7029-7035頁 Mohamed Mahmoud 等共著*玉ネギ加工廃液処理用の上昇流嫌気性汚泥床(UASB)反応器を合わせた下向流懸垂型スポンジ(DHS)反応器の性能* ］

Mohamed Mahmouda, Tarek A. Gad-Allaha, K.M. El-Khatibb, Fatma El-Goharya, *Power generation using spinel manganese–cobalt oxide as a cathode catalyst for microbial fuel cell applications*. Bioresource Technology, Volume 102, Issue 22, Pages 10459–10464, November 2011.
［2011年11月号「生物資源」誌第102巻22号10459–10464頁 Mohamed Mahmouda 等共著 *微生物燃料電池用の陽極触媒としてスピネル酸化コバルト - マンガンを用いた発電* ］

Mohamed Mahmouda, Ahmed Tawfika, b, Fatma El-Goharya, *Use of down-flow hanging sponge (DHS) reactor as a promising post-treatment system for municipal wastewater*. Chemical Engineering Journal, Volume 168, Issue 2, Pages 535–5431, April 2011.
［2011年4月号「化学工学誌」第168巻2号535–543頁 Mohamed Mahmouda 等共著 *下水後処理に有望な下向流懸垂型スポンジ(DHS)反応器の使用* ］

## 研究実施機関

米国アリゾナ州タンパ所在 Swette Center for Environmental Biotechnology, Biodesign Institute, Arizona State University［アリゾナ州立大学バイオデザイン研究所環境バイオテクノロジー・スウェット・センター］

**研究期間：** 2011年3月5日から同年9月4日

## 研究原題

*Sustainable Approach for Landfill Leachate Treatment Using Microbial Fuel Cells (MFCs) streams*

**連 絡 先：** mohamed_mahmoud_84@yahoo.com

# 微生物燃料電池(MFCs)を利用する埋立地浸出水処理の持続可能な手法

微生物電気化学電池(MXC)の生体膜を陽極として使う場合の動力学的、微生物生態学的理解を国際的に先導する研究チームとアリゾナ州立大学環境バイオテクノロジーセンターで共にMXCを利用して埋立地浸出水から得る純エネルギーを増加する為の強力な戦略を構築した。

エネルギーは、経済成長の主動因で、近代経済維持に不可欠なものである。将来の経済成長は、入手可能な、適正な価格の環境と共存できる資源から得られるエネルギーの長期利用性に決定的に依存してい。

従って近年MXC技術が、バイオマスからエネルギーを得るための新たなバイオテクノロジーとして研究されている。

MXCは、有機物、又は、有機廃棄物の生分解を達成しながら、有機廃棄物から直接、電力、或いは、水素ガスを産み出す。MXCへの関心は増大しており、この技術は非生物的なメタノール燃料電池として知られている技術とは顕かに異なる地位を占める事が可能である。

非生物燃料電池は、電子放出物質の酸化を促進する高価な触媒を必要とするのに対し、MXCでは自然発生の微生物体が燃料の酸化を促進する。非生物燃料電池は、しばしば、高温で作動するが、MXCは室内温度で作動し、微生物が生存可能な如何なる温度でも機能する様に設計できる可能性がある。非生物燃料電池の燃料は、極めて爆発性、或いは、毒性の高いもので、触媒被毒を避ける為に高度に純化する必要がある。これとは反対にMXCを動かす微生物は、しばしば、僅かな価値しかないと見做されている土壌、又は、堆積物中の有機廃棄物と有機物と言った広範な「汚い」燃料を酸化できる。

MXC燃料の偏在性と無毒性が、水素とメタノールに必要とされる複雑で、高度に統制されたシステムの必要性を軽減している。
従って、MXCは、良く発達した集中型電源方式の送電網が行き渡らない発展途上国の遠隔地、遠隔地域にとって特に魅力的電源と成りえる。

この研究の目的は、MXCを利用する埋立地浸出水の処理可能性を究明する事であった。陽極生体膜中の電子の流れと相乗効果を評価する実験研究に、埋立地浸出水をバッチMEC内の電流発生用陰極燃料(基質)として使用し、電子質量均衡を達成した。陽極呼吸細菌(ARB)の活動を増加させる事により、起動損失の低減により、MXCからの発生エネルギーを増大させる為の有効な戦略として埋立地浸出水の準備発酵も研究した。加えて、ARBとその他の微生物群集の菌間の相互作用も研究した。私は揮発性脂肪酸（酢酸塩、ポロピオンそれに酪酸塩）の混合物を含有する合成廃水を用いた連続バッチ実験行う事によるMEC内の微生物群集の順応を始めた。

私の得た結果は、準備発酵させた浸出水を入れたMXCを使用する事で最大電流密度とクーロン力の回復（同順に23 A/$m^3$そして17.3%,）において、元のの浸出水（同順に1.5 A/$m^3$そして2.1%）に比べ、顕著な改善を示している。準備発酵させた浸出水のCEが67%であるのに比べ、元の浸出水では54%であった。従って、埋立地浸出水の準備発酵は、起動損失を低下させる事により、陽極呼吸細菌(ARB)の活動を増大させ、より効果的MECの性能を得られる。

2011年2月13日

**給費研究員：** Golfam Sharifi
**受　益　国：** スリランカ
**研究実施国：** イラン（イスラム共和国）

**出 生 日 ：** 1972年6月19日
**出 生 地 ：** イラン　テヘラン

## 取得学位

2007年7月3日 イラン、テヘラン所在 Institute for Humanities and Cultural Studies (IHCS)［人類文化研究学院］にて古代文化及び言語により博士号取得。

## 学術業績、及び、出版物

*Le rite de passage chez des Zoroastriens contemporains en Iran* (en persan) à paraitre dans la revue d'Anthropologie, Tehran.
［テヘラン刊「人類学レビュー」出版予定論文（ペルシャ語）*イランにおける現代ゾロアスター教徒の通過儀礼* ］

Golfam Sharifi, *Etude des différentes sortes de paronomases dans les textes pehlevis*. La Revue de TEHERAN – Mensuel Culturel Iranien en Langue Française, N° 29, pp. 26-29, avril 2008.
[2008年イラン刊「ラ・レビュー・ド・テヘラン - フランス語によるイラン文化月刊誌」第三年29号26-29頁 *パフラヴィー語文献における似音語の異なる類型の研究* ］

*The Etymologies of Father-in-law and Mother-in-law in Indo-European Languages* (in Persian), Journal of the Faculty of Letters and Human Sciences, Kerman, Vol. 6, No. 11, pp. 93-105. Tehran, 2008.
［2008年テヘラン刊ケルマン所在シャヒド・バホナール大学「文学人文科学部ジャーナル」（ペルシャ語）*印欧語族語における義理の父と義理の母の語源* ］

## 研究実施機関

Laboratoire Dynamiques Sociales et Recomposition des Espaces, UMR 7533 Centre National de Recherche Scientifique, Université de Paris X, Nanterre, France.
［フランス共和国ナンテール所在 パリ第十大学 土地利用社会動態研究室及び国立科学研究所混成研究組織 UMR7533］

**研究期間：**2011年2月15日から8月14日

## 研究原題

*Anthropological Study of Qanats in Yazd Province (Central Iran)*

**連 絡 先：**golfsharifi@hotmail.com

# ヤズド州（イラン中部）における人類学的研究

水なしでは人の定住は不可能であり、水は常に主要文明の形成において重要な役割を果たした。故に、イランの砂漠周辺の古代の定住者達は水の供給に努め、遂に地下水を発見し、利用した。

イランはカナート[地下水路]の発祥の地である。カナートは複数の井戸と斜面下の地下水路からなり、重力により、他の動力を使わずに、帯水層から集水し、その水を丘陵下に飲料用水、灌漑用水として送水する。
イランに在るカナートの数は、約四千から五万である。イランのカナート長の殆どは 5km 未満であるが、あるものは 70km に達する。縦坑は、通常 20 から 200 メートルの深さである。

この研究の目的は、ヤズド州に在るカナートの人類学的に研究する事であった。
大多数のカナートが、この地域に位置しており、加えて、カナート及び歴史的水理構造物国際センター(ICQHS)のタフトに在るカナート学部が、この分野の教育を行っている。
ヤズドは 131,575 平方キロメートルの面積を持ち、海から 4,075 キロメートル離れており、イラン中央高原の中に位置し、ルート砂漠の端にある。ヤズドは、9 つの都市、23 の町、そして、20 の地区に分かれる。年平均降雨量は、約 100 mm である。

ヤズドでは、カナートが住民の社会生活、歴史、そして、文化となっている。
古代から、井戸堀師、或いは、古代の水理地質専門家達は、地下水を発見する的確な手法を利用してきた。彼等は、よく祖先の職業の継続に努め、その熟練度と知識を歴史と共に高めてきた。

我々は、カナート掘削において得られた経験に関する調査票、及び、井戸堀師と水理専門家の報告書を資料と文献として使用する事にした。
カナートの人類学には井戸堀師と、その生活の概観を含まれるが、カナートの人類学の研究は、カナートの技術を知らなければ完了する事はできない。
ヤズドでの現地調査は、二段階の一ヶ月間の調査となった。我々は、異なる市の重要なカナートの評価を行い、井戸堀師と開発の専門家との面接を行った。

調査の第一段階において、我々は井戸堀師八名、水車屋一名、配水事業者一名、専門家八名、そして、映画製作者二名を訪ねた。この段階は、2010 年 12 月の二週間の間に行われた。

第二段階は 2011 年 1 月に終了し、この間に井戸堀師十名、水車屋一名、配水事業者一名、そして、現地の事情を良く知る女性二名との面接を行った。

データと出来事の記録に使用した機器は、撮影機、録音機、メモリー・スティック、そして、コンピュータであった。面接記録は 900 分、撮影した写真は 12GB に上った。
その他に、私はナンテールに在る LADYSS の J.P Billaud 氏監督の下、約六ヶ月間の文献調査研究を行った。この間、我々はナンテール、フランス国立図書館、ユネスコ、そして、Cité Internationale Universitaire de Paris [パリ国際大学都市]に在る図書館で利用可能な資料を使用した。

最後に、我々はカナートの文化と、もしカナートが破壊された場合、我々の文化の一部が失われる事になるので、その保存方法の発見に努めた。

2012 年 4 月 7 日

**給費研究員：** Aleksandra Cvetkoska
**受　益　国：** 旧ユーゴスラビア共和国マケドニア
**研究実施国：** カナダ

**出 生 日 ：** 1983年6月29日
**出 生 地 ：** セルビア共和国 Пожаревац［ポジャレヴァツ］

**取得学位**

2011年4月8日 マケドニア共和国 Skopje 市 Gazi Baba 所在の自然科学部生態学分類学科において生物科学修士号取得。

**学術業績**

J. M. Reed, A. Cvetkoska, Z. Levkov, H. Vogel, and B. Wagner, *The last glacial-interglacial cycle in Lake Ohrid (Macedonia/Albania): testing diatom response to climate*. Biogeosciences, Volume 7, Number 10, pp 3083-3094, 2010.
［2010年刊「地球生命科学」誌第7巻10号3083-3094頁 A. Cvetkoska 等共著 *オフリド湖（マケドニア/アルバニア間）の最後の氷期 - 間氷期サイクル：気候への珪藻応答試験* ］

Cvetkoska A., Reed J., Levkov Z., Vogel H.: *Lake Ohrid Diatoms as Palaeoclimate Indicators of Climate Change During the Last Glacial-Interglacial Cycle*, 5th International Limnogeology Congress, Constance, Germany, 31 August - 3 September 2011.
［2011年8月31日から9月3日ドイツのコンスタンツ開催 第五回国際湖沼地質学会発表論文 Cvetkoska A.等共著 *最後の氷期－間氷期間の古気候の気候変動指標としてのオフリド湖の珪藻植物* ］

A. Cvetkoska, D. Mitic Kopanja, N. O. Rumenova, J. M. Reed, P. B. Hamilton, Z. Levkov: *Comparative study of morphological variability of Cyclotella taxa in recent and fossil diatom assemblages from lakes Ohrid and Prespa (Macedonia/Albania/Greece)*, 6th Central European Diatom Meeting, Innsbruck, Austria, 23-25 March -2012.
［2012年3月23-25日オーストリアのインスブルック開催の第6回中欧珪藻植物学会発表論文 A. Cvetkoska 等共著 *オフリド湖とプレスパ湖（マケドニア/アルバニア/ギリシア間）由来の最近、及び、化石珪藻群集中のキクロテラ属分類群の形態変異比較研究* ］

Aleksandra Cvetkovska , Jane M. Reed , Zlatko Levkov, *Diatoms as indicators of environmental change in ancient lake Ohrid during the last glacial - interglacial cycle (ca. 140ka)* (Diatom Monographs, 15) , 2012.
［2012年刊Aleksandra Cvetkovska , Jane M. Reed , Zlatko Levkov共著「最後の氷期 - 間氷期間の古代オフリド湖における環境変化の指標としての珪藻植物 ］

**研究実施機関：**カナダのオタワ所在のカナダ資源博物館。

**研究期間：**2011年4月12日から7月11日

**研究原題**

*Determining the Level of Eutrophication of Lake Ohrid Using Diatoms as Bioindicators*

**連 絡 先：**acvetkoska@yahoo.com

# 生物指標として珪藻植物を用いたオフリド湖の富栄養化レベルの特定

200 以上の固有種と第三紀と推定されるオフリド湖は、欧州で最古の湖で多様な生物の「ホット・スポット」と思われており、1979 年にユネスコ委員会により、自然遺産で世界遺産リストに登録され、1980 年には文化遺産としても追加登録された。

過去数十年間の加速した人類の活動による負荷が顕かになっており、オフリド湖生態系への危険度の確立を目的とする調査を 2011 年の 4 月から 7 月にかけて行った。この調査は、ユネスコ/日本国政府による若手研究者フェローシップ・プログラムによる支援によって行われた。この研究の一部は、マケドニアのスコピエ所在の生物学院自然科学及び数学部の藻類大系学系統学研究室で行われた。そして、この研究の第二部は、カナダのオタワに在るカナダ自然博物館の支援によって行われた。

この研究の主目標は、オフリド湖の最近、及び、過去の富栄養化度を得ることであった。その為に、現地でオフリド湖沿岸に沿った湖岸線横断区（Sateska 川河口とオフリド市の港）の試料採取を行った。可能の富栄養化度を得る為に、約 12 万 5 千年前から 280 年前に亘る堆積物の調査を行った。

珪藻(珪藻網)は、塩分濃度、水位変動、pH、栄養塩濃度と言った湖沼学的多くのパラメータの有効な指標である。又、同じく珪藻は堆積物中で最も保存され、豊富な化石グループの一つである。永久珪藻スライドを油浸により、Nikon Eclipse 80i 顕微鏡を使い、1500 倍で分析した。

Co1202 由来の珪藻群集は、各試料で珪藻分類群の低多様性を示した。同試料は、氷期においては固有のキクロテラ属 *fottii Hustedt* が、そして、間氷期では種々のキクロテラ属 *ocellata* が支配的であった。珪藻の低多様性は、湖の低生産性の結果、試料採取地点の深度(14.5m)の結果で在りえる。その養分富化を示すものは、中栄養分類群の *Stephanodiscus transilvanicus* Pantocsek とキクロテラ属 *minutulus* (Kützing) Cleve & Möller の存在だけである。

珪藻類の構成の違いを説明可能な主要環境パラメータは、光合成有効放射量、深度勾配、東経と北緯、有光層、温度、伝導性、そして、マグネシウム濃度である。即ち、それは主に珪藻群集内の違いを説明する物理的パラメータと試料採取地点の位置である。

オフリド湖の生態系的均衡に影響を与えると考えられる三つの主な要因は、水収支の変化、地球温暖化と富栄養化である。人類に起因する影響は、主に栄養塩と希少金属汚染によるもので、オフリド湖の固有底生生物の多様性に対する現実の脅威である。

最後に結論として、オフリド湖の動植物生存の基本的前提条件として貧栄養状態の維持を指摘した。

2011 年 9 月 19 日

**給費研究員：** Cheikh Tidiane Ndiom
**受　益　領：** モーリタニア
**研究実施国：** フランス

**出 生 日 ：** 1969年7月29日
**出 生 地 ：** モーリタニア

## 取得学位

Université d'Évry-Val-d'Essonn, Master Mention Administration Economique et Sociale, Spécialité Coopération et Solidarité Internationale (CSI) (20 March 2009).
［2009年3月フランスのエヴリー-ヴァル・ド・エッソン大学にて社会経済行政学科国際協力及び連帯専攻により修士号取得。］

## 学術業績

*Coopérations internationales pour l'Afrique de l'ONG,* thèse de Master 2 spécialité Coopération et Solidarité Internationale. Directeur de thèse: Frédéric Leroy et Abysse Gabrielle Royant, 2007-2008.
［2007-2008年 論文指導 Frédéric Leroy, Abysse Gabrielle Royant. 修士2論文：専攻：国際協力及び連帯*非政府組織GIPFのアフリカの為の国際協力* ］

*Le Développement de l'écotourisme dans le Parc National du Banc d'Arguin et ses abords*. M2 research dissertation, specialization: Environment, Habitats, Techniques and Societies (Landscapes, Habitats, Sustainable Development). Jointly accredited with the University of Paris-Diderot (Paris 7), the National Museum of Natural History (Paris) and the National Agronomic Institute Paris-Grignon. Supervisor: Claire Ollivier, 2006-2007.
［2006-2007年 論文指導Claire Ollivier, パリ第七大学ディドロ、パリ国立資源歴史博物館、国立農業学院パリ-グリニョン合同課程，景観・居住環境・持続可能な開発科，環境・居住環境・技術と社会専攻M2 研究論文 *バン・ダルガン国立公園内、及び、その周辺におけるエコツーリズムの発展* ］

*L'Évolution de l'occupation des périmètres irrigués dans la Moughataa de Rosso entre 1978 et 1998: approche cartographique* ; Master's thesis (M1). Supervisor: Mohamed Lemine O. Sidi Baba, 1998-1999.
［1998-1999年 論文指導 Mohamed Lemine O. Sidi Baba 修士論文（M1）*ロッソのムファタアにおける灌漑地区の占有の推移1978-1998年：地図の作成* ］

## 研究機関

Centre d'Économie et d'Éthique pour l'Environnement et le Développement (UMR N°063 IRD & UVSQ) Université de Versailles Saint-Quentin-en-Yvelines (UVSQ), Guyancourt, France.
［フランスのグイオクール所在ヴェルサイユ、サン-クァンタン-エン-イヴリン大学(UVSQ)開発研究所混成研究組織 No063 環境開発経済倫理研究所］

**研究実施期間：** 2010年9月20日から2011年6月19日

## 研究原題

*L'impact des aménagements et des activités sur le littoral mauritanien entre nouakchott et le cap blanc en particulier sur la population et sur le milieu naturel*

**連絡先：** ctndiom@yahoo.fr

# ヌアクショットからブラン岬間のモーリタニア沿岸の開発と活動の、特に、人口と自然環境における影響

モーリタニア沿岸には、同国人口の三分の一が住み、漁業、農業、エネルギー、運輸、環境と言った同国経済活動の殆どが集中している。

この研究対象地区の陸地は、ヌアクショットからヌアジブ間の沿岸の北半分を占め、海側程は高度には発達していない。この研究は、過去約 10 年間の社会学的影響の研究と同じく、沿岸の環境評価の確定に焦点を当てたものである。

現地調査により、イムラゲン族の民の主な活動である漁労が、衰退している事が明らかになったイムラゲン族の民は、商業活動の成長から便益を得る為にバン・ダルガン国立公園内の村々にヌアクショットとヌアジブを結ぶタルマック舗装道（2002 年後建設）に沿って定住した。この動きは、漁獲高の低減と鮫と言った特定種の保護を目的とした諸規制が動機であった。この変化は、不法漁労にさえ繋がる利益への欲望の為に起きた。又、この道路沿いの諸状態は、極めて高い事故の危険性を齎している。

石油とガスの開発は、国民に大いなる希望を与えたが、採掘が環境と国際海洋条約を批准していないモーリタニア政府の事故、或いは、技術的問題を解決する能力を危険に晒している。その生産量は期待された水準（一日当たり 7 万 5 千バレル）を遥かに下回り、現状は一日当たり 9 千から 1 万 5 千バレルである。

石油含有岩石層の構造が、この油井の低産出量の原因である。その結果、新たな沖合い埋蔵石油ガス採掘の為には、海洋環境と、その生態系バランスを撹乱する地震探査が行われる。

ヌアジブ港は最も憂慮される問題である。それは、鉄鉱石を Fderîck 貯蔵場から沿岸を汚染せずに船積みの為に輸送する事ができず、元の景観を損なわせているからである。又、これはヌアジブ地区の海洋生態系に悪影響を与えている。

同国漁業はの産出は、その殆どが遠海であるが、10 年間で GDP の 15%から 6%に落ちた。排他的経済圏(EEZ)と沿岸の小規模漁業の生産は総漁獲高の 10％で、大規模漁業者の産出は 60 万トンを越える。この漁業生産の低下は、モーリタニア水域における資源収奪を防止する為の効果的監視の欠如に合わせて、漁民への支援と生物資源回復の為の休漁の厳格な政策と適切な立法の欠如の為であろう。

観光部門では状況が異なり、ここ約五年間に広範に見られた危険な状態のせいで、観光は、ほぼ存在しないと言えよう。一般的に言えば、全国的に冒険的観光が現れている。又、同地の国立公園内のエコツーリズムの発展がイムラゲン族による不法漁獲の減少に繋がる可能性がある。

2012 年 4 月 5 日

**給費研究員：** Rhoda Danjuma Beskeni
**受　益　領：** ナイジェリア
**研究実施国：** 英　国

**出 生 日 ：** 1970年10月30日
**出 生 地 ：** ナイジェリア、プラトー州 Mangu

**取得学位**

2007年2月15日 ナイジェリアのジョス大学にて化学教育により科学修士号取得。

**学術業績**

Beskeni, R. D.,*The Use of Some Plant Extracts for Making Universal Indicator/PH paper*; Proceedings of the 50th Annual Conference of Science; Teachers Association of Nigeria (STAN), on the theme: Developing Entrepreneurial Skills through Science, Technology and Mathematics Education. pp 177-181. HEBN Publishers, 2009.
［2009年HEBN出版刊 ナイジェリア教師協会（STAN）主催第50回年次科学会議－科学を通しての企業的諸技能の育成－論文集177-181頁 Beskeni, R. D.著*リトマス作成の為の植物抽出液の利用* ］

Beskeni, R. D. and Nanchen, P. D., *Teacher's Qualification and their Attitude to Science and its Effect on their Academic Achievement in Senior Secondary Schools of Plateau State*. Journal of Science (Physima), Volume 3, Number 1, pp 65-69. Nigeria, 2008.
［2008年ナイジェリア刊「科学ジャーナル（フィジマ）」第3巻1号65-69頁Beskeni, R. D., Nanchen, P. D共著*プラトー州の上級中等学校における教師の資格と科学への態度、そして、その学科における成果への効果* ］

Nanchen P.D. and Beskeni, R.D. *Problems and Prospects of Science Education in Junior and Senior Secondary Schools of Nigeria.* Journal of Educational Issues (College of Education Academic Staff Union, (F.C.E Pankshin) Volume 3, Number 2, pp 97-100. Nigeria, 2008.
［2008年ナイジェリア刊「教育問題ジャーナル（教育協会学科スタッフ組合）(F.C.E Pankshin)第3巻2号97-100頁Nanchen P.D., Beskeni, R.D.共著*ナイジェリアの中学と高校における科学教育の問題と見通し*］

Beskeni, R.D. and Oreyeju, F.O. *Science and Technology a Weapon for Poverty Mitigation. A Way Out of Child Labour and Human Trafficking*. Journal of Women in Colleges of Education, Volume 13, Number 1, pp 476-480. Nigeria, 2009.
［2009年ナイジェリア刊「教育大学の女性ジャーナル」第13巻1号476-480頁Beskeni, R.D., Oreyeju, F.O.共著 *科学と技術　貧困緩和の一武器　児童労働と人身売買からの抜け出る一方法*］

**研究機関**

英国ダンディー市所在のダンディー大学教育学部社会福祉及び地域共同体教育。

**研究実施期間：** 2010年9月29日から12月28日

**研究原題**

*The Use of ICT Instructional Techniques in the Acquisition of Manipulative and Observational Skills in Chemistry Practicals in Senior Secondary Schools*

**連絡先：** r.beskeni@yahoo.com

# 実用化学での実験観察技能を修得させる為の中等教育における情報通信技術(ICT)の利用

私の三ヶ月間にわたる「実用化学での実験観察技能を修得させる為の中等教育における教授手法としての情報通信技術(ICT)の利用」の研究の計画と実施について説明する。

この研究は、ナイジェリアの教育機関における教授の質と学習状況を改善する技術として、新たな技術を設計する事を目的としていた。

現在、この世界は、二十一世紀に必要とされる知識と技能を新たな情報技術を用て学生に教授する圧力が強まっている。ICT 教授ツールには、シミュレーション、モデリング、CD-ROM、教師のウェッブ・パブリッシング、ワードプロセシィング、表計算、データ・ロギング、データベース、電子メール、スマート・ボード、双方向ホワイトボード、そして、インターネット閲覧が含まれる。

効果的教育システムとは、新 ICT を応用し、訓練をうけた専門家を利用できるシステムの事を指す。

この研究の目標は、新 ICT ナイジェリアと他の国々の教育システムに統合する事であった。

この研究は、以下の五段階を経て行われた。

1/ 諸種の ICT 教授ツールへの習熟と適用
2/ 中等教育の化学における定量分析と定性分析の実技観察技能の確認リストの作成
3/ 化学の定量分析、定性分析の諸種の実技観察技能のシミュレーション資料（デジタル・ビデオ）の作成
4/ データ収集用質問票の作成
5/ スコットランドとナイジェリアから開発した ICT 教授手法の有効性を判定する為のデータ収集

**調査結果：**スコットランドでは、シミュレーション、モデリング、CD-ROM、ワードプロセシィング、SPSS、データ・ロギング、データベース、電子メール、スマート・ボード、ホワイトボード、デジタル・ビデオ、そして、インターネット閲覧が中等教育における教授に使用されており、調査対象校の各化学教師は上記 ICT ツールを二つ以上利用していた。

教師と生徒の ICT 利用への反応は極めて良好で、ICT が継続的に利用されており、様々な利点が齎されている。

ナイジェリアでは、主にワードプロセシィング、電子メールとホワイトボード授業と言った僅かな ICT しか利用されておらず、授業準備の為のインターネット利用は希である。生徒と化学の教師の ICT 利用についての見方は試験経験前は貧疎なものであったが、訓練と評価授業の後では教授と学習での ICT 利用への関心と有効性において肯定的に反応した。

ナイジェリアでは、学校におけるコンピュータの不足、インターネット接続帯域の不足、教師の不十分なコンピュータ技能、電力供給不足が、授業における ICT の利用の障害となっている。

**提言：**ユネスコは他の組織と協同し、教授における ICT の効果的利用を推進する為に情報機器（コンピュータ、プロジェクター、スマート・ボード等）の供給を支援する必要がある。

ユネスコは、ナイジェリアの地政的六地区において、教授で ICT を利用する為の教師の訓練を支援する必要がある。

**結論：**今日、学生達は、自己の生活の通常の一部としてコンピュータを容易に取り込んでいる。ますます技術が我々の文化の中に取り込まれる様になっている故に、我々は学習者に現時代に合った卒業後の人生に技術面で効果的に備え、取り組む事ができる様な経験を与える必要がある。

2011 年 5 月 3 日

**給費研究員：** Rami Altalouli
**受　益　国：** パレスチナ
**研究実施国：** ロシア及びエジプト

**出 生 日 ：** 1978年12月1日
**出 生 地 ：** パレスチナ　ガザ地区

**取得学位**

2009年6月ロシア連邦サンクト・ペテルブルグ所在Russian State Hydrometeorological University（ロシア国立水文気象大学）において気象学、気候学、農業気象学、環境科学専攻によって物理数学哲学博士号取得。

**学術業績**

*Middle East Threatened by Global Climate Change*, Research Projects, Russia, 2011.
［2011年ロシアでの研究プロジェクト *地球的気候変動によって脅かされる中東* ］

*Adaptation to the Impacts of Climate Change and Air Pollution on River Basins and Aquifer Systems in Palestine*, Research Projects, Russia, 2011.
[2011年ロシアでの研究プロジェクト *パレスチナにおける気候変動と大気汚染の河川流域と帯水層系への影響への対応* ］

*Forecast and Climatological Analysis of the Atmospheric Characteristics that Determine Anthropogenic Pollution Dispersion*, Research Projects, Russia, 2008.
［2008年ロシアでの研究プロジェクト *人為起源の汚染拡散を決定する大気特性の予測と気候分析* ］

**研究実施機関**

- ロシア連邦サンクト・ペテルブルグ所在 Russian State Hydrometeorological University（ロシア国立水文気象大学）
- エジプト　アレクサンドリア所在 National Institute of Oceanography and Fisheries（国立海洋水産研究所）(NIOF)

**研究期間：**2010年10月から2011年3月31日

**研究原題**

*Adaptation to the Impacts of Climate Change and Air Pollution on River Basins and Aquifer Systems in Palestine*

**連 絡 先：**rtalouli@hotmail.com

# パレスチナにおける気候変動と大気汚染の河川流域と帯水層系への影響への適応

研究の第一段階において、気温、風速、そして、風向、気圧、降水、湿度、そして、東地中海の水文データと言ったデータに加え、科学的資料を入手した。そして、それをデータとして静的数学モデルに計算結果を出す為に入力した。その一帰結としての諸発見とパレスチナの気候変動の環境汚染と、その水塊と地下水への影響を軽減する為の提言を記述した。

ロシアにおける研究期間中、この研究に関連する多くのワークショップ、講義、そして、セミナーに参加し、八つの講義とセミナーを行った。

そして又、サンクト・ペテルブルグで開催された国際会議「Innovative solutions to modern problems in fundamental physics of the atmosphere and its application（大気の基礎物理における現代の問題への革新的解法とその応用）」にも参加した。
私は、科学論文の発表もし、この論文は会議ジャーナルで出版された。加えて、この会議で気候変動の中東、特にパレスチナにおける地政情勢への危険性に関する講義を行った。そして、この地域での地下水と地表水をめぐる政治的紛争を終わらせる一連の解決方法を提示した。

研究の第二段階はエジプトで行った。ここで私はシェラトン・ホテルで開催された Fourth Conference of the Wealth of Water in the Mediterranean [第四回地中海水富会議]に参加した。そして、この会議中に行われた、気候変動と、海面上昇による沿岸都市水没の危険性を含む、その地中海の海面高への影響に関連するセミナーにも参加した。

この会議の後、Muhammad Saeed 教授監督の下に海洋研究所チームが結成された。私は、このチームの一員として参加し、気候変動による地中海海面高への悪影響に関する研究課題を扱った。この私の研究は、沿岸地区の水没の可能性の諸シナリオの作成と、解決法の構築、そうして、こうした悪影響を低減する為の関連当局への提案と提言も示している。

この調査研究により、地中海の東岸の海面が毎年 3 mm上昇している事を発見した。これは、地中海東岸のある地区は海面と同じ高さである為に、今後の数十年間で水没する危険があるので極めて危険である。私は、海からの塩水の沿岸土壌深部への浸透、その淡水地下水への影響、従って、水と土壌の塩度上昇による農作物への悪影響に関する調査研究も行った。

そして更に、海洋研究所から、私は降水量と気温のデータを得た。ロシアに戻った後、静的数学モデルを使って将来の気象と気候変動の予想の可能性について研究した。そして、予想されるシナリオを作成し、気候変動の悪影響から我国と市民を守る為の提言を行った。

2011 年 6 月 17 日

**給費研究員：** Mababa Diagne
**受　益　国：** セネガル
**研究実施国：** フランス

**出 生 日 ：** 1976年7月20日
**出 生 地 ：** セネガル Sakal（サカル）

**取得学位**

2007年7月3日 イラン、テヘラン所在 Institute for Humanities and Cultural Studies (IHCS)［人類文化研究学院］にて古代文化及び言語により博士号取得。

**学術業績**

M. Diagne, *Transmissivity evolution through interface of composite liners under applied constraint.* Waste Management & Research, vol. 29 no. 8 pp874-879, August 2011.
［2011年8月号「廃棄物管理研究」誌 第29巻8号874-879頁 M. Diagne 著 *適用された制約下での複合ライナーの接触面を通した透過度の変化* ］

Mababa Diagne, Nihal Oturan, Mehmet A. Oturan, Ignasi Sirés, *UV-C light-enhanced photo-Fenton oxidation of methyl parathion.* Environmental Chemistry Letters, Volume 7, Issue 3, pp 261-265, September 2009.
[2009年9月号「環境科学便」誌第7巻3号261-265頁Mababa Diagne, Nihal Oturan, Mehmet A. Oturan, Ignasi Sirés共著 *パラチオンメチルの紫外線強化光フェトン酸化* ］

Mababa Diagne, Nihal Oturan, Mehmet A. Oturan, *Removal of methyl parathion from water by electrochemically generated Fenton's reagent.* Chemosphere, Volume 66, Issue 5, Pages 841–848, January 2007.
［2007年1月号「ケモスフェア」誌第66巻5号841-848頁 Mababa Diagne, Nihal Oturan, Mehmet A. Oturan 共著 *電気化学的に生成されたフェトン反応剤による水中のパラチオンメチルの分離* ］

**研究実施機関**

フランスのマルヌ-ラ-ヴァレ所在 Université Paris-Est Marne-la-Vallée（パリマルヌ-ラ-ヴァレ大学）Institut francilien des Sciences Appliquées, Département Géomatériaux, Laboratoire LGE (Géomatériaux et Environnement)［フランス首都圏応用科学研究所地盤材部地盤材環境研究室］

**研究期間：**2011年9月3日から12月31日

**研究原題**

*Application of New Advanced Oxidation Processes for Removing Pollution from Industrial and Domestic Wastewater*

**連 絡 先：**mababad@yahoo.fr

# 産業及び家庭廃水からの汚染除去への新促進酸化処理の適用

この研究の目的は、アフリカにおける染物業者により、なんら配慮なく環境に排出される廃水から汚染物質を除去する為に促進酸化処理(AOP)を適用する事であった。

その試料はセネガルで採取され、浄化する為にフランスに送られた。化学分析は、その試料が初期 pH は 11.83 で、インディゴ、次亜硫酸ナトリウム及び水酸化ナトリウムを含んでいる事を示した。

通常は、非水溶性を示すインディゴは、水環境中の次亜硫酸ナトリウムの存在により、還元反応によって水溶性となる。インディゴを含む廃水は、染色業者により、処理されずに排水され、環境に害を及ぼしている。この汚染物質を除去する為に、その試料を溶液中の有機物を分解する為に酸化電圧 2.80 V で高酸化物質 E ($OH,H^+/H_2O$)を使用する電気フェントン AOP と陽極酸化に掛けた。この処理を高圧液体クロマトグラフィ (HPLC) を用いて、総有機炭素 (TOC) の濃度と $NO_3$ 自由イオンの計測をモニターした。その結果は、上記二種の処理が極めて短時間（陽極酸化においては 400 mA で 4 時間で 83.2%を除去した）で、極めて低電流 (50-400 mA)で廃水中の汚染物質を分解、無機化した事を示した。

無機化では、TOC において極めて高百分率の低減が、500、1000、1500 そして 2000 mA の電流によって得られた。同順で 98.35%、 98.59% 、99.49%の低減率が、1000 と 1500mA で二時間、 2000 mA で 4 時間の陽極酸化において得られた。極めて長時間の通常処理を最大一リットル当たり TOC 9,792 mg と言う溶液中の高濃度のインディゴに対して行っても、環境中に有機物が引き続き存在する事が明らかにされている。

従って、これらの結果は、陽極酸化処理により、インディゴを分解する事ができる事を示している。販売されている合成インディゴでも実験を行ったが、類似の結果が得られた。

有機分子の完全な酸化は二酸化炭素、水、そして、無機イオンを生成するので、無機イオンを測定した。初期インディゴ分子は 0.1 mM の濃度で、二つの窒素原子を有し、無機化の間に硝酸イオンが放出されるはずである。初期溶液の最大窒素濃度は 0.2 mM であった。従って、処理中に放出される硝酸イオンは、イオン・クロマトグラフィを用いて測定した。

その結果は、殆どの窒素 (88%) が、硝酸イオンの形で二時間の処理中に放出された。このイオン測定は、インディゴの無機化を証明している。

纏めると、産業及び小規模繊維事業者のインディゴを含む廃水は、電気フェントン、及び、陽極参加 AOP によって分解無機化が可能である。その汚染物質は、その廃液を環境に排出する前に除去されなければならない。

2011 年 12 月 8 日

“The commitment to peace is built day after day in the minds of people. It is built through exchange and dialogue.

I believe deep down that dialogue among cultures is the most appropriate response to the so-called ‘clash of civilizations’.

We know that such cultural diversity is what makes us rich. It is also our future.

Cultural diversity and dialogue among cultures contribute to the emergence of a new humanism in which the global and local are reconciled and through which we learn anew to build our world.”

平和への約束は、日々人々の心の中に築かれるものです。それは、交流と対話を通して築かれるものです。

私は文化間の対話こそが、所謂「文明の衝突」に対する最も適切な対処であると心の底から信じております。

私達は、こうした文化の多様性が私達を豊かにしているのを知っております。それは、私達の未来でもあります。

文化の多様性と文化間の対話は、世界と地域を和解し、私達の正解を築く新たなものを学ぶ、新たなヒューマニズムの出現に貢献するものです。

**Irina BOKOVA**
**DIRECTOR-GENERAL OF UNESCO**

**Echoing Voices,**
**UNESCO Publishing, 2011**

**イリーナ　ボコバ**
**ユネスコ事務局長**

**2011年ユネスコ出版局刊**
**Echoing Voices[こだます声]より**

# 2009年度 文化間対話分野研究員の言葉

ユネスコ／日本政府による
フェローシップは、この研究を
私達が行う事を可能にしてくれ
ました。そして、何にもまし
て、より広範な公衆に他の形態
の社会組織と理解の仕方、そし
て、その世界との係わりについ
て知らせる事ができ、それに
よって、文化間対話に寄与する
事が可能になったと言う点にお
いて有意義なものでした。

Vladimir Mejía Ayala

**コロンビア**

このフェローシップは、帰国
後、アンタナナリボのアリアン
ス・フランセーズの文化部の責
任者に成れたので、アリアン
ス・フランセーズのネットワー
クへのドアを開くことによっ
て、職業面でより効率的且つ活
動可能に私をしてくれました。

Rosoabako Noromandroso

**マダガスカル**

言語の問題は、異文化間及び異
民族間問題の中心です。

Achraf Med ABDELKADER

**モーリタニア**

このフェローシップの御蔭で、
博士課程の研究に必要な分権を
総て集める事ができました。御
蔭で、私は博士論文を完成さ
せ、博士号を得る事ができまし
た。

Ivana Mrvaljević

**モンテネグロ**

# 2009年度 文化間対話分野研究員

(写真左端) Vladimir Mejía Ayala, コロンビア
[研究]
無形文化遺産と観光：エクアドルのサパラ族の経験

Rosoabako Noromandroso,マダガスカル　(写真手前右)
[研究] 文化間対話を通して伴に生きる

Achraf Med ABDELKADER, モーリタニア
[研究]
Abdelkebir Khatibi の作品中の言語の問題

(写真左) Ivana Mrvaljević, モンテネグロ
[研究] 一文化間対話：Marko Car とイタリア文化

**給費研究員：**　Vladimir Mejía Ayala
**受　益　国：**　コロンビア
**研究実施国：**　フランスとエクアドル

**出 生 日 ：**　1975年7月24日
**出 生 地 ：**　コロンビア共和国 Departamento del Huila（ウイラ県）Garzón（ガルソン）

**取得学位**

2008 年 9 月 16 日　Université Paris 7 Diderot (パリ第六大学ディドロ)にて人文社会科学、地理及び領域諸科学、観光・領域・社会によって修士号取得。

**学術業績、及び、出版物**

Doctoral thesis in progress: *Les problématiques et les enjeux de la mise en tourisme du patrimoine culturel immatériel: l'exemple du peuple Sápara.*
[博士論文（執筆中）*無形文化遺産への観光導入の問題と利害：サパラ族の例*]

Vladimir Mejía A. *Las Problematicas y los Retos de poner en Valor Turístico el Patrimonio Cultural Inmaterial.* Memorias - Segundo Encuentro Internacional de Culturas Andinas, pp. 97-106, Colombia, Mayo de 2011.
[2011年5月コロンビア刊「記録：第二回国際アンデス文化集会」97-106頁 *無形文化遺産観光の価値実現への問題と挑戦*]

Vladimir Mejía Ayala, *Problemáticas y retos del desarrollo turístico en Alta Amazonía: Las oportunidades de reconstruir un territorio ancestral.* Turismo, cooperación y desarrollo : actas I Congreso COODTUR (Red Internacional de Investigadores en Turismo, Cooperación y Desarrollo), URV Publications, pp. 91-92, Tarragona, Spain, 2010.
[2010年スペイン タラゴナ所在ロビラ・イ・ヴィルジリ大学出版局刊 第一回観光協力開発国際研究者網学会論文集「観光、協力、及び、開発 ー 第一回 COODTUR 学会」91-92頁 Vladimir Mejía Ayala 著 *アマゾン上流における観光の問題と挑戦：祖先伝来の土地の再建の機会*]

Vladimir Mejía A., *El turismo en Alta Amazonía: ¿Una oportunidad para reconstruir un territorio tradicional?* In Correo del Sur magazine, 19th edition, EDINAR, Nariño, pp. 21-22, Colombia, March 2010 .
[2010年3月号コロンビア ナリニョ エディナール出版社刊「南便り」誌21-22頁 *アマゾン上流における観光：伝統の地再建の機会*]

**研究機関:** フランスの Université d'Angers（アンジェ大学）

**現地調査:** エクアドル共和国 Provincia de Napo［ナポ州］el territorio Sapara［サパラ領］

**研究期間：** 2010年3月1日から11月30日

**研究原題**

*Intangible Cultural Heritage and Tourism: Experience of the Sápara People of Ecuador*

**連 絡 先：** vladmejay@gmail.com

# 無形文化遺産と観光：エクアドルのサパラ族の経験

エクアドルのサパラの人々は、アマゾン上流の最も知られていない原住民の中にあり、その祖先伝来地は、最も訪れる事が困難な地域の一つで、アマゾン観光地域の一部ではない。複雑ではあるが、サパラの人々の事例は、ユネスコによって最近導入された取組である観光による無形文化遺産の保護について研究する機会を提供している。

我々の研究の目的は、サパラの人々が物理的にだけではなく、文化的にも接する事ができる様になる時期と諸状況を特定する事であった。我々は、この新たなサパラにおける活動が、どの様に口承及び無形遺産の再充当と保護に貢献するかを調査した。

この活動は、この原住民の人々が1980年代初期から展開してきたもので、2001年のユネスコの宣言の御蔭で脚光を浴びた。

現地で、我々は伝統的社会文化的知識、技能、そして、慣行が十分に現存し、サパラの原住民の物理的且つ文化的生存にとって極めて重要である事を発見した。その無形文化遺産は、観光によって可能となった文化間交流の御蔭で十分顕かなものであり、観光は新たな社会文化的組み合わせを齎す助けとなっている。依って、観光は文化の出会いと共有の機会となり、往々として接触する文化の相互理解を促進し、自己の文化を知らせ、他の文化を認識させる事になる。

サパラの人々の口承及び文化遺産は、まだ全国的には社会によって十分認識されていない。従って、その遺産の保護は関連する機関にとっては真の挑戦である。

他方、2001年のユネスコによる宣言と、2003年のエクアドルによる無形文化遺産保護協定の批准は、宣言の領域と伝統の継承者自身だけではなく、国と社会全体の変化へと導いた。それは、一種の強化された市民の権利と民主主義である。

この過程において研究は、有力な役割を持つ。それは、大衆化により、より広範な人々に以前見過されていた極めて特別な無形遺産を見せる事を可能にする一方で、他方では、遺産の担い手と益々顕著になっている世界的現実の中にある他の者達の間にある対立を理解する事を可能にする。

最後に、この研究は遠隔地と遠隔地の文化における観光の開発の危険性と便益を明らかにした。これは、観光従事者、人道組織、そして、政府団体が直面する多様で複雑な諸状況の中で解決策を見出す助けとなりえる。

2012年3月5日

**給費研究員：** Rosoabako Noromandroso
**受　益　国：** マダガスカル
**研究実施国：** ドイツ

**出 生 日 ：** 1979年5月24日
**出 生 地 ：** マダガスカルのアンタナナリボ

**最終取得学位**
2008 年 3 月 13 日マダガスカルの Université d'Antananarivo［アンタナナリボ大学］Faculté des Lettres et Sciences Humaines［人文科学部］にて地理学により修士号取得。

**学術業績**
How Are Intercultural Skills Acquired at an Early Age? (to be published ) .
［如何にして若年期に文化間技能は修得されるか？（出版予定）］

**研究実施機関**
ドイツのゲッティンゲン市所在Georg-August-Universität Göttingen，Philosophische Fakultät，- Institut für Kulturanthropologie / Europäische Ethnologie［ゲッティンゲン大学哲学部付属文化人類学欧州民族学研究所］

**研究期間：** 2009年10月10日から2010年5月9日

**研究原題：** *Living Together Through Intercultural Dialogue*

**連 絡 先：** nrasou@yahoo.fr

# 文化間対話を通して共に生きる

## 他者性　－　生存可能社会における文化間対話の基礎

ドイツで研究を行う事は、マダガスカルの者にとっては、両国間の歴史的な繋がりが殆ど存在しないので、困難な様に思われるかもしれない。ある人々にとっては、こうした状況は文化についての好奇心を鋭くするかもしれないし、他の人々は不信の反応をするかもしれない。この研究の開始時の相互知識の存在の欠如にもかかわらず、その主目的は他者性に基く継続的文化間対話を確立し、日々の生活に参加する事であった。この目的を達成する為に、次の質問を考慮した。即ち、どの様にして外国において他者に対して自己を開くか、そして、どうの様にして若者を異文化間状況の中に入れるかである。

中間的思考をもった参加型観察の手法を採る事が欠かせない。次の段階で、被観察対象者との接触に入った。この段階では、まず最初に文化組織と教育組織の管理運営的面に接した。次に、世界の諸挨拶の話をした後でマダガスカルの話をする事によって「他者」の主題も巡って学生達との対面意思疎通に入った。同じ脈絡で、ドイツにおいてドイツのユネスコ委員会によって組織された「Schulkultur［学校文化］」プロジェクトと言った様な既存の研究プロジェクトへの参加も、このプロジェクトによって資金を提供された学校へ異なる視点を齎す上で有益であった。

こうした研究プロジェクトへの参加は、KUGLやKinderkulturkarawane［子供文化キャラバン］と言った諸組織との関係を強化する結果となった。後者はドイツのユネスコ委員会によって後援される文化教育組織で、三つの大陸の若者達による芸術活動の模範的な国際基盤である。Kinderkulturkarawaneの文化間交流及び教育的取組を共有するドイツの諸学校と組織で毎年巡回が組織されている。Kinderkulturkarawaneの名声は、諸プロジェクトへの効果的学際的手法に根差している。プロジェクトには各出身国グループとドイツにおける社会、観光、そして、商業面の全関係者が参加している。これは、協力プロジェクトの存立は、こうした参加に依存するからである。加えて、ドイツの教育システムは、社会的差別と人種差別と闘う願望を示している。対面意思疎通は、この活動への学生達の関心の御蔭で実り多いものである事を示した。

この意思疎通は、参加者の異文化間技能の強化と、学生達を他文化に馴染ませる助けとなった。討論の機会は、学生達が他者の自分達の認識を外在化する事を可能とした。その内で最も注目すべきものの一つは「戦争」の概念であった。

この認識は、若者は現在の共同体が建設に努めている平和的社会、平等、そして、寛容性の重大な参加者であると言う事を示している。これらの活動は、学生達を文化間対話、特に異文化間感受性への第一歩へと導いてもいる。若者達との類似の活動を繰り返す必要があり、又、異文化間感受性を植え付け、研ぎ澄ます為に他の文化集会を組織する必要がある。

2010年7月5日

**給費研究員：** Achraf Med ABDELKADER
**受　益　国：** モーリタニア
**研究実施国：** モロッコ

**出 生 日 ：** 1981年11月23日
**出 生 地 ：** モーリタニアのボゲ

**取得学位**

2007年7月5日モロッコのフェズ所在の Université Sidi Mohamed Ben Abdellah［シディ・モハメッド・ベン・アブドゥラ大学］Faculté des Lettes et des Sciences Humaines［人文科学部］Dhar El Mehraz において仏語フランス文学にて DEA［専門研究課程免状］取得。

**学術業績**

*Transparence et opacité dans l'oeuvre d'Abdelkbir Khatibi (La Mémoire Tatouée et Amour bilingue)* DEA Dissertation, Morocco, Sidi Mohamed Ben Abdellah University, 2007.
［2007年 モロッコ、フェズ所在 シディ・モハメッド・ベン・アブドゥラ大学DEA［専門研究課程］論文 *Abdelkbir Khatibi の作品における透明性と不透明性（彫り込まれた記憶と二重言語の愛）*］

*Saint Exupéry et l'Humanisme:* Université de Nouakchott, 2005.
［2005年ヌアクショット大学 *サン・テグジュペリとヒューマニズム*］

*La problématique de la langue dans l'oeuvre d'Abdelkebir*, planned publication.
［*Abdelkebir Khatibi の作品中の言語の問題* 出版予定］

**研究実施機関**

モロッコのフェズ所在の Université Sidi Mohamed Ben Abdellah［シディ・モハメッド・ベン・アブドゥラ大学］Faculté des Lettes et des Sciences Humaines［人文科学部］Dhar El Mehraz

**研究期間：** 2009年9月から2010年6月

**研究原題：** *La problématique de la langue dans l'oeuvre d'Abdelkebir*

**連 絡 先：** achrafouedrago@yahoo.fr

# Abdelkebir Khatibiの作品中の言語の問題

ヌアクショット大学を卒業し、私はモロッコへ行き、Université Sidi Mohamed Ben Abdellah［シディ・モハメッド・ベン・アブドゥラ大学］のUnité de Formation et de Recherche［教育訓練研究課程］のDépartement de Langue et de Littérature Françaises［仏語仏文学科］、Textes, contexte et imaginaire méditerranéen［文章、文脈、そして、地中海の想像力］専攻に登録した。この専攻科目は、地中海周辺に住む人々の間の共有と対話の場である地中海を巡る芸術の研究に捧げられている。この文脈において、ある芸術家達（画家、作家等）は、その想像力により、地中海に暮らす人々が、その海を「表する」様を描く機会を得ている。

DEAを取得する際、私は一博士論文の中で、様々な言語の問題を調べる事により、その独特な更なる文化経験を得ようと試みた。その研究の主題は、即ち、「Abdelkebir Khatibiの作品中の言語の問題」であった。言語は、文化間対話において決定的な要素である。言語は意思疎通の媒介にしか過ぎないものではなく、翻訳、接続、そして、相互接続のツールでもある。言語は、文化の最も完全な表現であり、文化を運ぶだけではなく、同時に文化を他の世界に開示する事ができる。Abdelkebir Khatibiは総ての文学的様式に踏み込んだモロッコの作家であった。彼の特徴は、絶えざる言語への挑戦であった。この「普遍的」作家は、「他者」と、その他者の言語の（再）発見によって誘われ、そして或いは又、魅了された。「何時も言語への情熱は、それが私の日中、私の眠れぬ夜に好きな事をする事ができる。」とKhatibiは、「二言語における愛」の中で述べている。彼によれば、他者は違いの源泉ではない。かれは、二言語（bi-langue）と他の考え（pensée-autre）と言った、彼の作品の枠組を構築する事になる新たな概念を創り出す事によって言語を理論付けした。二言語は、彼自身の言語でも、異言語でもない。それは、一種、二つ、或いは、それ以上の言語の融合であり、又、「中間」である。他の考えと合わせ、それは人類が直面する言語的、そして或いは又、文化的諸問題への適切な一解法である。

Khatibの作品を問う時、私は彼に讃えると同時に彼の作品が多人種、多民族、そして、多文化の世界の中に占める場所を、特定の文学と社会学的文書を通して見られる「言語の問題」（特に異言語）とそのモロッコ人の想像力の受入をセネガルのそれと比較しながら見つけ、理解しようとした。その二者の間の類似性と違いは何であったか？

2012年1月16日

**給費研究員：** Ivana Mrvaljević
**受　益　国：** モンテネグロ
**研究実施国：** イタリアとセルビア

**出 生 日 ：** 1981年6月12日
**出 生 地 ：** モンテネグロの Cetinje

**取得学位**
2011年5月4日セルビアのベオグラード大学文献学科において文献学にて博士号取得。
2007年4月7日セルビアのベオグラード大学文献学科において文献学にて修士号取得。

**学術業績**
Master of arts thesis: *The Reception of Italian Literature in Montenegrin Literary Magazines*.
［修士論文 *モンテネグロの文芸諸誌におけるイタリア文学の受入*］

Ивана Мрваљевић, *Часопис Дурмитор – јединствен примјер рецепције италијанске књижевности и културе.* Филолошки преглед （原文セルビア語キリル文字表記）
Ivana Mrvaljević, *Časopis Durmitor – jedinstven primjer recepcije italijanske književnosti i kulture*, Filološki pregled（セルビア・モンテネグロ語ラテン字表記）(REVUE DE PHILOLOGIE) XXXIV (2007), бр. 2, p.121-133.
［2007年ベオグラード刊「文献学レビュー」誌第34巻2号121-133頁 Ivana Mrvaljević 著 *ドゥミトル誌－イタリア文学と文化受容の独自事例*］

Željko Đuric, Dušica Todorovic´ Lacava: *Segnalibro*. – Belgrade: Plato, Филолошки преглед (Filološki pregled) - Revue de philologie, XXXII/2, p. 181-183, Belgrade, 2005.

**研究実施機関**
イタリアのパドバ所在 Università degli Studi di Padova, Dipartimento di Lingue e Letterature Anglo-Germaniche e Slave［パドバ大学大学院アングローゲルマン及びスラブ言語文学科］

**研究期間：** 2009年9月1日から2010年2月28日

**研究原題**
*An Intercultural Dialogue: Marko Car and Italian Culture*

**連 絡 先：** imrvaljevic@gmail.com

# 一文化間対話：Marko Car とイタリア文化

Marko Carには何の学位もなかったが、彼はダルマチア議会の一公務員であった。彼は青年期と成人期初期の間、素人の様な書き方だったが、すぐに考慮に値する程に改善し、文筆家として最終的に700本程の異なる文章が出版された。Carは非常にイタリア文化に魅了され、彼が出版した略総てにイタリアの基調がある程であった。この彼の親近性は、イタリアの現在、そして、現代の芸術家、作家、そして、歴史的出来事の内省の結果であり、Carの関心と世界観を素早く形作った。

Car のイタリアへの傾倒と、彼へのその訴求性の源泉を確認する事は容易である。イタリアからアドリア海を少し渡った場所に位置する彼の生まれたダルマチアの国（現在のクロアチア内）の地理的近接性は、その第一の結び付きである。Car は、故郷の歴史と特定の環境に焦点を当てた彼の諸活動を堪能した。更に、それにも増して、Carは、文化的そして政治的理想の変わらぬ汲み合わせに焦点を当てていた。こうした立ち位置と態度における継続性は、彼の最初の随筆から続いている。それをもし分離するならば、それは、愛国心、古典、感傷性、愛、誠実性、調和、勇気、独創性、独立、そして、新プラトン主義（完全な形と主体）となろう。我々は、こうした諸価値観から、Car を尊厳ある洗練された紳士であると結論付ける事もできよう。Car は、彼の作品中に組み立てられた諸性格の英雄的組み合わせと複雑な取り合わせ強調した。更に、彼は自己の理想の総和として活動した。彼の旅行記と文学批評は、無限の情熱によって特徴付けられており、この情熱がその諸評価を活き活きとさせ、躍動させ、読む喜びとさせている。社会的趨勢を良く知る者として、Car は進歩、技術そして文化の動勢を信じていた。彼は、社会を前進させる全要素を理解しており、こうした新たな傾向を彼の生きる社会が獲得する様に支援する事に努めた。こうした考えから、彼は故郷のダルマチアでVuk 誌を創刊した。その目的とする所は、ダルマチア社会に重荷となっている社会と政治の保守的諸傾向への抵抗を助長する事であった。彼は、カルドゥッチ、レオパルディ、ダンテ、ピランデッロと言った、そして、その他の多くの重要なイタリアの文化人によって産み出された思想について、こうした思想がダルマチアの地方文学において実現され、示される事を願って書いた。

ダルマチアにおけるイタリア文化への Car の大志に加え、彼はイタリアにおけるセルボークロアチア文化への一般的関心の形成と、その普及においてもさえも極めて影響力があった。彼は多くのイタリアの雑誌と日刊紙 (Il Movimento, La Fanfulla della Domenica, Il Leonardo)へ寄稿し、そして、イタリアにおける二人のスラブ専門家、Arturo Cronia とBartolomeo Calviと不断に文通していた。Carは、こうしたイタリアの学者へ影響を与え、又、彼等から影響も受けた。

2010年3月28日

# 2010年度 文化間対話分野研究員の言葉

メキシコでの研究は、私の職業人生を豊かにしてくれました。この研究が二言語多文化教育分野の様々な専門家と接触し、関係を持つ事を可能にしてくれたからです。その御蔭で、原住民族の為の包括的教育を考案する為に私の国の教育問題を熟考する事ができました。私個人にとっては、メキシコの様に変化に富む（社会的、文化的、そして、生態系的に）国への滞在は、従って、私の人生の見通しを拡げてくれました。

Ana Carolina Hecht
アルゼンチン

このフェローシップで完成させた研究の結果として、トーゴで一つとベナンでの別の二つのシンポジウムに参加する必要があった異信仰間対話に関するシンポジウム用論文を二本完成し、一人前の研究者に成れました。私の研究の中での諸提案は、西アフリカ、特に、今現在、最近の反乱のために政治社会的危機に瀕しているマリとトーゴへ適用可能です。私は、論文中で述べた宗教の最高指導者達と密接な連絡を持ち、異信仰間の問題にかなり精通しました。

Elie Yébou
ベナン

このフェローシップの御蔭で、研究にだけ時間を割り当て、（バルセロナ自治大学と言う）最適な研究条件の環境で研究を行えました。そして、正真正銘の一研究者としての研究実績を上げる事ができました。御蔭で私は、社会学的に、そして、人類学的に極めて重要であるにも関わらず通常チリで扱う事が困難な疎外や草の根的宗教熱といった問題への研究を継続できました。このフェローシップは、私の研究者としての研修と成長に不可欠な役割を果たしてくれました。

Wilson Enrique Muñoz Henríquez
チ　リ

このフェローシップの御蔭で、高度な国際的学術助言を得、私の理論と方法論の研究を統合する事ができました。

Yisel Rivero Baxter
キューバ

ユネスコ／日本国政府研究フェローシップ・プログラムは、私の職歴において同僚と共に進み、進歩を遂げ、研究する事を可能にしてくれました。

ユネスコ万歳。有り難うございました。

Adama Bangaly
マ　リ

私にとって、九ヶ月間をマドリッドに在るCSICの[人間及び社会科学院付属]哲学研究所で研究だけに没頭できた事は、最も実り多い快適な経験でした。そこで、私はユネスコの研究員としての私のexile［追放、亡命]の研究に対する全面的な支援を受けました。収集された資料と国際政策問題、世界中の司法、移民、そして、紛争後の研究に関連して為された取次の御蔭で、私は研究主題に集中する事ができました。マドリッドでは、私は常にユネスコの研究員として行動し、又、ユネスコの研究員として最高の儀礼とプロフェッショナルリズムで処遇されました。これまでの私のした経験の中で最高の経験だったと言わなければなりません。

Arturo Aguirre Moreno
メキシコ

# 2010年度 文化間対話分野研究員

Ana Carolina Hecht **アルゼンチン（写真窓際左）**
**[研究] 二言語多文化教育**

（写真左）Wilson Enrique Muñoz Henríquez **チリ**
**[研究]**
**チリのサンチアゴにおけるペンタコステ派的福音主義キリスト教者に関連する社会文化的諸要因**

Arturo Aguirre Moreno（写真右） **メキシコ**
**[研究]** Exile **[追放亡命] 共同体と暴力の脱構築**

Elie Yébou
**ベナン**

**[研究] 西アフリカにおける紛争防止の為のブードゥー教、キリスト教、そして、イスラム教**

Yisel Rivero Baxter **キューバ**
**[研究] キューバにおける多文化コミュニケーション教育**

（写真左端） Adama Bangaly **マリ**
**[研究] 文化間対話と宗教間対話による紛争と紛争後の状況における和解への効果的諸手法**

**給費研究員：** Ana Carolina Hecht
**受　益　国：** アルゼンチン
**研究実施国：** メキシコ

**出 生 年 ：** 1977 年 7 月 18 日
**出 生 地 ：** アルゼンチン共和国コリエンテス州
Curuzú Cuatía［クルス・クラティア］

**取得学位**

2009年4月27日アルゼンチンのブエノスアイレス大学で人類学により博士号取得。

**学術業績**

Hecht, A. C. *Todavía no se hallaron hablar en idioma. Procesos de socialización lingüística de los niños en el barrio toba de Derqui, Argentina.* LINCOM Studies in Sociolinguistics 09. Munich: LINCOM EUROPA, academic publications, 282 pages. ISBN 978-3-89586-361-5, 2010.
［2010 年 ISBN 978-3-89586-361-5 LINCOM 欧州アカデミック出版社ミュンヘン刊 全 282 頁「LINCOM 社会言語学研究 09」Hecht, A. C.著*未だ楽に言葉を話せない。アルゼンチンのデルキ地区におけるトバ族の子供達の言語的社会化過程*］

Hecht, A. C. *Tres generaciones, dos lenguas, una familia. Prácticas comunicativas intra e intergeneracionales de indígenas migrantes en Buenos Aires (Argentina).* In: Revista Internacional de Lingüística Iberoamericana (RILI) VIII, Nº 15, pp. 157-170. Frankfurt/Madrid: Iberoamericana Editorial Vervuert (Madrid and Frankfurt), ISSN: 1579-9425, 2010.
［2010 年イベロアメリカーナ/フェルフゥエルト出版フランクフルト/マドリッド刊「イベロアメリカーナ言語学国際誌 (RILI) 」第八巻 15 号 157-170 頁 Hecht, A. C.著 *三世代、二言語、一家族。ブエノスアイレスへ移住した原住民の同世代内、異世代間のコミュニケーション*］

**研究実施機関**

メキシコ・シティー所在Universidad Autónoma Metropolitana Unidad Iztapalapa, División de Ciencias Sociales y Humanidades, departamento de antropología [自治大学イスタパラパ校人文社会科学部人類学科]

**研究期間：** 2011年1月から3月

**研究原題：** *Bilingual Intercultural Education*

**連 絡 先：** anacarolinahecht@hotmail.com

# 二言語多文化教育

このユネスコ/日本国政府フェローシップの下に展開された研究計画には、以下の四つの目標が在った。

１/ Enrique Hamel 博士によって纏められた「原住民共同体と二言語教育」プログラム ( http://www.cieib.org ) の研究を行う。この枠組の中で、その指導者と様々な研究者との学術的繋がりが強化され、言語的社会化や教育の人類学における研究と言った理論分野を議論した。私の研究は、原住民共同体の為の教育計画におけるスペイン語とプレペチャ語間の関係の研究に焦点を当てるものであった。この目的の為に、San Isidro［サン・イシドロ］と Uringuitiro（メキシコのミチョアカン州）の プレペチャ族共同体出身の原住民教師との口述自叙伝的面接を様々な学年の学校教育における教師の経験を再構成する為に行い、分析した。プレペチャ族共同体への現地調査の枠組の中で、多文化二言語学校である the “Miguel Hidalgo” (サン・イシドロ) と “Benito Juárez” ( Uringuitiro )を訪問し、休憩時と授業時の異なる学年の学級の活動を観察した。こうした調査と経験に基き、Hamel 博士の研究班と協力して論文を執筆した。

2/ 多文化二言語教育に関連する様々な催しへの出席と補助の双方によるメキシコにおける学術普及活動への参加。特に私が主導した普及活動にういて述べると、メキシコ・シティ所在の国立師範大学の教育開発（社会文化及び言語多様性専攻）修士課程担当の Gabriela Czarny 博士による招きにより、「都市諸環境中の原住民児童の児童期、社会化、そして、言語排除」に関する講義を行った事が挙がられる。

3/ 人類学、言語学、そして、教育学の分野の最近の主要な諸議論を掌握する為の首都自治大学イスタパラパ校の中央図書館、及び、他の大学図書館、そして、研究所における専門文献の特定。

4/ メキシコにおける二言語多文化教育分野で活動する諸機関、及び、諸研究者の訪問。これは、その研究と機関との繋がりを強化する為で、以下の機関が含まれる。即ち、公共教育局 ( SEP )、原住民言語国立研究所 ( INALI )、社会人類学調査高等研究所 ( ENAH ) 、南部校－調査高等研究所教育研究教育研究部社会科学課 ( DIE-CINESTAV )である。又、私は以下の研究者と個別に議論し、相互に会合を持つ事もできた。即ち、Lourdes de León Pasquel 博士 (CIESAS)、José Luis Ramos 講師 ( ENAH ) 、Ruth Paradise Loring 博士及び Adriana Robles 博士 ( DIE-CINESTAV )、Gabriela Czarny 博士(UPN)である。同じく、メキシコの多文化二言語教育幹事長の Fernando I. Salmerón Castro 博士と会う機会も得た。

最後に、このユネスコ/日本国政府によるフェローシップは、多文化教育分野の様々なメキシコの専門家と接触し、会う事を可能にし、原住民族の為の包括的教育実現を目的とした教育問題への新たな考察を与えて事を可能とする事ににより、私の職業人生を豊かにしてくれた。将来、メキシコのおいて取得した知識を私の国における高度な効果的二言語多文化教育の為に資する事を望むものである。私個人にとっては、メキシコの様に変化に富む（社会、文化、生態系面において）国に暫く生活する事は、私の人生への見方を拡げてくれました。

2011 年 4 月 4 日

**給費研究員：** Elie Yébou
**受　益　国：** ベナン
**研究実施国：** トーゴ

**出 生 日 ：** 1976年8月14日
**出 生 地 ：** ベナン共和国 Sahe-Lame

**取得学位**

2009年9月23日Université d'Abomey-Calavi (UAC)［アボメイ-カルヴィ大学］にて言語記述によりDiplôme d'études approfondies – DEA［専門研究課程免状］取得。

**学術業績**

Yébou Elie, *De la perte de l'identité à la reconstruction de l'histoire anthroponymique*, in the proceedings of the fiftieth anniversary symposium, 19 p. (to be published), Cotonou, February 2011.
［2011年2月コトヌ（出版予定）第十五周年記念シンポジウム論文集19頁 Yébou Elie 著 *同一性喪失から人類学的歴史の再構築へ*］

Yébou Elie, *L'origine des noms de naissance dans l'aire culturelle Ajatado : un point*, in the proceedings of the third UAC symposium, 16 p. (to be published), June 2011 .
［2011年6月（出版予定）第三回UACシンポジウム論文集16頁Yébou Elie著 Adja-Tado *アジャ-タド］文化地域における誕生名の起源：概要*］

Theme of the thesis: *Des noms et des hommes : aspects anthropologique et linguistique du nom dans l'aire culturelle ajatado* (to be defended in 2012).
［（2012年口頭試問予定）論文主題 *名と人間：Adja-Tado［アジャ-タド］文化地域における名の人類学的、言語学的側面*］

**研究実施機関**

トーゴ共和国ロメ所在 Université de Lomé, Département des Sciences du Langage (DSL)［ロメ大学言語科学部］

**研究期間：** 2010年10月1日から2011年5月31日

**研究原題：** *Vodun, Christianity and Islam for Conflict Prevention in West Africa*

**連 絡 先：** elieyas@yahoo.fr

# 西アフリカにおける紛争防止の為の ブードゥー教、キリスト教、そして、イスラム教

この研究では、対象とする三つの宗教の概要と「ブードゥー」の語について説明している。

これらの宗教は、社会において人々の教育と訓練において鍵となる役割を果たしている。信者の集会は、従うべき行いを示す宗教指導者達による説教により、往々として特徴付けられる。宗教指導者達は、信者への権威と影響力により、社会における良い生き方の例を示す様に、信者の態度と行いを変える事ができる。宗教指導者達は、よく平和、愛、同胞、そして、慈善と言った緊張の諸根源に対抗し得る社会的諸価値を強調する。諸国の政治当局者等は、こうした宗教的指導者達の可能性を引き出していないので、我々はアフリカ各国がブードゥー教、キリスト教とイスラム教の主な全国的指導者達から構成される National Interfaith Council［全国異信仰間協議会］を結成する事を提案している。

これらの各宗教の指導者等と高位者等は、全国的問題に意見し、国民の間の対話と平和を推進する為のキリスト教、イスラム教、或いは、ブードゥー教指導者高位者協会を設立する必要がある。各選挙時と社会不安の期間の 1990 年 2 月にベナンで開かれた全国協議会において宗教界の指導者達が語ったベニンの経験は、この文脈において教訓的である。初等、中等、及び、高等教育機関における授業において、相互に受容し、この協議と協力の枠組を支持する様に学習者を備えなければならない。ガーナの様に、国は訓練所の敷地内に礼拝所を建てる事ができる。それにより、草の根からの宗教的寛容性を奨励するのである。この様にする事で、アフリカにおける紛争を防止する事ができる。

## 私の研究のトーゴへの影響

このトーゴに関する私の研究は、受入国であるトーゴにおいて、さしたる困難もなく行われた。現地における、Truth, Justice and Reconciliation Commission ( CVJR ) [ 真実正義和解委員会 ] の有効性は、研究を始める前から分かっていた。この委員会の委員は、キリスト教、イスラム教とブードゥー教の高位者である。

この委員会は、その作業の結果を 2012 年 3 月にトーゴ共和国大統領へ提出し、それは諸宗教の構成員間の協力の開始を記した。研究の間、我々は犯された強要が現在の権力体制まで及ぶ、この委員会に委員が現在の印刷メディアと視聴メディアの火急な問題について頻繁に声を上げ、政府が必要な資源を使える様にする事を希望する事を表明した。提出され、採用された諸提案は、委員会の作業を完遂へと導いた。この諸提案により、トーゴ国民は閉鎖経済状態で生きる権利を有しない事を理解した。様々なレベルの宗教的指導者との実り在る交流の後、我々の研究は終了し、異なる宗教が相互に受け入れられていた。2011 年の宗教間統一促進日は強化され、諸宗教の信者が素晴らしく参加した。

我々のトーゴでの研究は、特に受入国、亜地域、そして、全アフリカに関連するものであった。この論文の中で提案している National Interfaith Council［全国異信仰間協議会］は、確立されたものとして留まり、生産的議論が、我々の諸国の宗教的多様性の豊かさの上で行われる事であろう。

2012 年 3 月 14 日

**給費研究員：** Wilson Enrique Muñoz Henríquez
**受　益　国：** チ　リ
**研究実施国：** スペイン

**出 生 日 ：** 1982年11月15日
**出 生 地 ：** チリ共和国アリカ

**取得学位**

2010年7月バルセロナ自治大学において民俗学研究、人類学理論及び文化間関係により修士号取得。

**学術業績**

Muñoz, W. *Las manifestaciones del Espíritu. Formas de comunicación con lo sagrado desarrolladas por pentecostales latinoamericanos en Canovelles, Barcelona*. Master's thesis. Department of Anthropology, Autonomous University of Barcelona, 2010. (Perifèria: revista de recerca i formació en antropologia [en línia], 2010, Núm. 13).
［バルセロナ大学大学院人類学専攻科修士論文 *聖霊の印。バルセロナの Canovelles におけるラテンアメリカのペンタコステ派に発する聖なるものとのコミュニケーションの諸形態*（オンライン人類学研究と研修誌 Perifèria 2010年刊第13号収録）］

Muñoz, W. *Història, cultura i realitat dels collectius sikhs, xinesos i filipins*. Molina, J. and Pelissier, F. (eds.) Les xarxes socials de sikhs, xinesos i filipins a Barcelona, pp. 70-114, Barcelona: Fundació ACSAR, 2010.
［2010年バルセロ ACSAR基金刊Molina, J.: Pelissier, F. 編「バルセロナのシーク教徒、中国人とフィリピン人の社会網」70-114頁 Muñoz, W. 著 *シーク教徒、中国人、そして、フィリッピン人共同体の歴史、文化、そして、現実*］

Perifèria: revista de recerca i formació en antropologia, Número 13, diciembre 2010. *Algo más que un celular: notas sobre el papel de la telefonía móvil en la vida de adolescentes de Santiago (Chile).* Wilson Muñoz Henríquez. Total 20 pages
［2010年12月号人類学研究と研修誌Perifèria 2010年刊第13号収録Wilson Muñoz Henríquez 著 *単に携帯電話であるでけでなく。（チリの）サンチアゴの青年期の若者の生活における携帯電話の役割に関する小論*］

**研究実施機関**

スペインのUniversitat Autònoma de Barcelona（バルセロナ自治大学）Departamento de Sociología（社会科学科）Grupo de Investigacions en Sociologia de la Religió (ISOR)（宗教社会学研究班）

**研究期間：** 2010年11月から2011年4月

**研究原題**

*The Sociocultural Factors related to Pentecostal Evangelicals in Santiago, Chile*

**連 絡 先：** wilsonsocio@gmail.com

# チリのサンチアゴにおけるペンタコステ派的福音主義キリスト教者に関連する社会文化的諸要因

この研究の目的は、ペンタコステ運動への非難とペンタコステ派の特異な儀式的明示の間の関係を探索する事であった。その為、私は歴史的文献－新聞と雑誌－を分析した。その文献はチリにおけるペンタコステ運動初期（1909 年から 1925 年の間）における同運動への敵対性の特定事例を示している。

ペンタコステ派に結び付けられた聖痕の意味が、異言、癒し、そして、宣教と言ったペンタコステ派の独特の儀礼実行に関連していると言う事が私の最初の結論であった。特に、人々は、突発性、高揚した感情、そして、儀礼的興奮によって特徴付けられた、こうした明示の形態を攻撃した。こうした形態は、一般的な社会的宗教的規範に適合しなかった。

第二の結論は、ペンタコステ運動に対する非難が上がった主な状況は、特に礼拝に関連していたと言う事である。一例として、礼拝者達が嘲笑された時の検査を口実としたペンタコステ派の礼拝所への踏み込みが挙げられる。もう一つの例は、公共の場でのペンタコステ派の宣教への加熱的反応である。纏めると、非難は、より一層劇的且つ効果的にする様に公に故意にされたものであった。

2011 年 12 月 9 日

**給費研究員：** Yisel Rivero Baxter
**受　益　国：** キューバ
**研究実施国：** スペイン

**出 生 日 ：** 1972年12月27日
**出 生 地 ：** キューバのハバナ

**取得学位**

1997年から1999年のアルゼンチン所在 la Facultad Latinoamericana de Ciencias Sociales (FLACSO)［ラテンアメリカ社会科学院］における共通統計因子群研究、教育政策、及び、意志決定研究専攻により、社会科学修士号取得。

**学術業績**

Moras P., Linares C., Mendoza Y. and Rivero Y., *Consumo cultural y adolescencia en Cuba. Reflexiones a partir de una encuesta nacional.* ICIC Juan Marinello-UNICEF, Havana, 2011.
［2010年ハバナ刊キューバ文化研究所ホアン・マリネロ出版Linares C., Rivero Y., Moras P., Mendoza Y.共著 *キューバにおける文化消費とその実態*］

Linares C., Rivero Y. and Moras P. *Participación y consumo cultural en Cuba*, ICIC Juan Marinello, Havana, 2008.
［2008年ハバナ刊キューバ文化研究所ホアン・マリネロ出版 Linares C., Rivero Y., Moras P.共著 *キューバにおける文化消費と参加*］

Rivero, Yisel 2006 *"Cuba: ¿diferenciación cultural o desigualdad social?"*, en Alain Basail (comp.) Sociedad cubana hoy: ensayos de Sociología joven (La Habana: Ciencias Sociales).
［2006年ハバナ刊 社会科学出版 Basail A. 編「今日のキューバ社会：社会科学若手小論集」Rivero Y.著 *キューバ　文化の分化か社会の不平等か？*］

Linares C., Moras P. and Rivero Y. *Participación social y vida asociativa en Cuba.* In Changuaceda, A. (ed.) Participación y Espacio Asociativo, Havana, publicaciones Acuario, centro Félix Varela, Havana, Cuba, 2008.
［2008年キューバ ハバナ刊フェリックス・ヴァレラ・サンター出版 Changuaceda, A. 編「参加と連帯の空間」Linares C., Moras P., Rivero Y.共著 *キューバにおける社会参加と暮らしの連帯*］

**研究実施機関**

スペインのバレンシア大学社会科学部。

**研究原題：** *The School of Intercultural Communication in Cuba*

**研究期間：** 2008年9月2日から2009円6月1日

**連 絡 先：** yiselrb@yahoo.es

# キューバにおける多文化コミュニケーション教育

多文化教育は、不可避的現代の多文化状況に直面する時、不可欠な一選択肢と成ってきている。キューバにおいては、社会集団は顕かに多様性が増しており、それ故に、この理論的枠組を導入する妥当性が増している。

この研究の目的は、教育政策における初等教育の様々な教育関係者と参加者によって証言される教育の現場での文化的多様性の概念を分析することであった。文献分析を詳細な面接（国レベルと学校の責任者）、質問票（教師と家庭）、会議の観察（学校）、絵画技法、そして、話し合いグループ（生徒）を組み合わせた定性的手法を採用した。

この研究の結果は、自分達と異なる他者に寛容で、異なる他者を尊重する個々人に社会化する学校の役割の理解へ我々をより近づけるものであった。この研究は、被面接者により認められた様に責任者と親は学習速度を、教師は家庭の経済的能力を選択すると言う学校環境における文化的多様性を決定する要因を特定した。

学校の社会的諸機能、管理運営の摩擦、そして、教室での実践は、教師と親とでは見方が異なっていた。教師は、創造性と熟考の能力を優先する傾向がある一方、親は自助努力と自分で知識を産み出す能力に焦点を当てる。双方の観点とも能動的市民活動を含むが、その観点は個性への優越性により、対話体コミュニケーションを減らしている。

参加は、形式的である事が分かった。日々の学校生活への諸決定の中心には、人々は参加していない。教室での実践は教師の範囲内で、親は組織と支援の問題を扱い、生徒は親と教師が言う事を行う。参加への機会は、法による権限を有する者、即ち、一般的に教師の好む上意下達型コミュニケーションにより、機械的なものにされている。教師と親の間の関係は、教師に有利な非対称的なものであり、それが教育過程内へ親の責任ある取組を取り込む妨げになっている。

その力の効果の本質についての研究と得られた認識により、我々はキューバの為の多文化教育のモデルの鍵となる点を概述した。即ち、キューバの文化的多様性を認め、その我々の学校における可能性を保護し、寛容と尊重が採用すべき必要不可欠な姿勢である事を受け入れ、教室での活動の重点を教師から生徒により多くの積極的な役割を与える事へ変え、そして、合同責任制と教育コミュニティーの全関係者への包括的参加の基盤を確保する事である。

従って、記録された参加型シナリオと参加論における変革が叫ばれ、困難な問題を克服する可能性の在る一手段、或いは、単なる理想としてよりも、多文化教育がキューバの日常的学校生活に対する実行可能なプロジェクトとして見られる様になるであろう。これは、「正統文化」の上意下達型コミュニケーションによる独占的担い手としての教師を持つ文化的同一性と言う偏狭な見解を我々が打ち破った場合にのみ可能となる。

2011 年 11 月 25 日

**給費研究員：** Adama Bangaly
**受　益　国：** マ　リ
**研究実施国：** コートジボワール

**出 生 日 ：** 1977年12月9日
**出 生 地 ：** コートジボワール Ono-Bononova

**取得学位**
2007年8月2日 Universités de Bamako［バマコ大学文学］、Faculté des Lettres, Langues, Arts et Sciences Humaines (FLASH)［人文科学部］において開発地理学にて修士号取得。

**学術業績**
*Impacts des organisations non gouvernementales dans le développement socio-économique du Mali : cas du plan Mali dans la commune rurale de Sanankoroba.* FLASH 2007, 52 pages, Mali, 2007 .
［2007年マリ刊FLASH 2007 全52頁 *非政府組織のマリの社会経済開発への影響：マリの地方の町 Sanankoroba における計画の事例研究*］

**研究実施機関**
コートジボワール、アビジャン所在コートジボワール文明博物館。

**研究期間：** 2010年10月1日から2011年4月30日

**研究原題**
*Effective Approaches to Reconciliation in Conflict and Post-Conflict Situations Through Intercultural and Interfaith Dialogue*

**連 絡 先：** bangalya@yahoo.fr

# 文化間対話と宗教間対話による紛争と紛争後の状況における和解への効果的諸手法

現在、アフリカ、特にコートジボワールにおいて為された合意、決議、そして、交渉は総て、我々の眼には、現場における状況の認識に欠けるために、その限界を示している。

コートジボワールを不安定にさせている紛争は、真に多面的危機であるが、その文化的根源が理解されるならば、文化の理解は他者の特有な特徴も含めた他者の受容と肯定的な統合を伴い、同盟と joking kinship［冗談親族］の伝統的文化価値に基づいているので、確実に継続的解決の内に終焉する。信仰、宗教、慣習、伝統と言った文化的要因と民族の間の平和と対話に関する疑問は、他の要因と同じく持続可能な開発にとって究極的に重要である。

我々の研究「分化間対話と宗教間対話による紛争と紛争後の状況における和解への効果的諸手法：コートジボワールの事例」は、イボワール人が博物館を介しての伝統的文化価値を認識できる様にする事に連動させたコートジボワールにおける日々の国民和解努力への細やかな一貢献である。
我々の研究は、主に二つの部分から成る。最初の部分は、コートジボワールの国に関する記述で、次の部分は同盟や joking kinship［冗談親族］の文化諸価値の影響の説述である。

一国における民族間紛争の解決に同盟を頼りとする事は、現在の紛争における多くの原因と多面的利害のために万能の解決方法ではありえないが、社会的結合、国家の統一と地域の団結を強化する一追加的手段でありえる。これは、アフリカの文化的諸価値の理想化を必要とするものではなく、その知識とその影響を認める事により、より効果的に諸紛争を分析、議論し、諸解決方法の利用の最適化を可能にするものである。この文脈において、既存の同盟は、コートジボワール、ひいてはアフリカにおける防止、保護、そして、和解の仕組に追加して利用できよう。

最後に、コートジボワールに対する最善の全国的和解解決方法は、我々の見解では、諸国際機関とその行程表に盛り込まれた諸政策と解決方法を、文化的諸価値へ適応する事から成る。この諸価値は、地域の諸状況に根ざす故、コートジボワール延いてはアフリカにおける和解戦略と、その推進の形態と内実を決定するものである。

社会の未来は、現在の着想の描く過去の上に建設されると言われていなかったであろうか？

2012 年 3 月 14 日

**給費研究員：**　Arturo Aguirre Moreno
**受　益　国：**　メキシコ
**研究実施国：**　スペイン
**出 生 日 ：**　1978年6月1日
**出 生 地 ：**　メキシコ、メキシコ・シティ

**取得学位**

2009年6月29日Universidad Nacional Autónoma de México (UNAM)（メキシコ国立自治大学）Facultad de Filosofía y Letras（哲学及び文学部）にて哲学により哲学博士号取得。

**学術業績、及び、出版物**

Josu Landa, *Filosofía de la cultura: reflexiones contemporáneas*. ed. : Arturo Aguirre, 221 pages, Afínita Editorial, 2007 .
［2007年メキシコAfínita 出版刊：Arturo Aguirre 編 Josu Landa 著 *文化の哲学：同時代の思想* 全229頁 ］

Ed. Arturo Aguirre, *Eduardo Nicol, Las ideas y los días. Artículos e inéditos 1939-1989*. 466 páginas, Afínita Editorial, México, 2007.
［2007年メキシコAfínita 出版刊：Arturo Aguirre 編 *エドゥアルド・ニコル　その思想と日々。小論及び未発表作品1939-1989年* 全466頁 ］

Aguirre Moreno, Arturo. *Primeros y últimos asombros. Filosofía ante la cultura y la barbarie*, México, Afínita Editorial, 2010.
［2007年メキシコAfínita 出版刊Aguirre Moreno, Arturo著 *最初で最後の驚嘆。文化と野蛮に直面する哲学* ］

**研究実施機関**

スペイン、マドリッド所在 Agencia Estatal Consejo Superior de Investigaciones Científicas (CSIC)［科学研究最高審議会］ 所属 Centro de Ciencias Humanas y Sociales (CCHS)［人間及び社会科学院］。

**研究原題：**　*The School of Intercultural Communication in Cuba*

**研究期間：** 2010年10月10から2011年6月30日

**連 絡 先：** aguirre.arturo@yahoo.com

# Exile [追放亡命]　共同体と暴力の脱構築

我々の研究の主題 Exile は、西洋における共同体からの排除の機能に関するもので、法律的、政治的、社会的、そして、宗教的な多くの異なる利用可能なツールを用いたものである。最初は、反逆、公安安寧秩序の撹乱、そして、宗教、或いは、国家分離主義と言った集団的諸影響を伴う侵犯を犯す犯罪者に対する極刑として創設された。そして、歴史上、Exile [追放]　は、政治的敵対者に対する報復として使用される刑罰的本質の共同諸体制度の発展により、改変された。Exile Exile[追放]の刑罰は、共に生きる者の諸集団により加えられる暴力と公式且つ物的有罪判決による「生きながらの死」として見る事ができよう。

この研究は、もし我々が、唯罰せられた者の移動の問題、即ち、土地の無い者として見るならば、もし我々が、現代と最近における余暇目的、見聞を得る事、或いは、社会経済的欲求の充足としての移動を想起するならば、この排除の残酷な形態の本質を理解する事が困難であろう事を示した。

市民権の喪失は、当局による財産の没収、家族の恥辱、社会的、政治的保護の欠如、そして、自分を殺そうとする如何なる同胞の市民による殺人への無処罰を意味する。従って、公共の安寧を撹乱した者は、個人の安寧を剥奪される。ラテン語には ( amandatio, deportatio, ablegatio, eiectio, exilium, exulatio, relegatio, expellere, expulsio, loci commutatio 等と言った様な）exile［追放］に対する 10 を越える語があり、exile［追放］の異なる範囲と程度がありが、その共通する点は、制度、教育、文化、社会組織、宗教等における共同体内において形成され、世界中で一在り方の中に組み込まれた実存的蹂躙である。

十九世紀と二十世紀の初期に、国民国家と人権が人民と国家の間の関係を変更したので、exile は実質的に変化した。25 世紀の歴史の後 Exile が、排除の異なる形態であるが、より独裁者達と有力者達の［亡命としての］特権として、そして、世界に広がる武力紛争による引き起こされた移民と、移住、難民と言った「安寧の剥奪」の形態に代わったのである。民主的諸制度と正当な暴力の能力を有する我々の共同体における排除の可能性を理解する事は、より包括的なだけでなく、より排他性の少ない共同体へ向けた一歩なのである。他種の共同体を想像する事は、歴史が政策マニュアルと歴史課程が扱わない闇を見た事を知る事に向かう。

ユネスコ／日本政府のフェローシップを受けた事は、私の諸研究を統合し、人間及び社会科学においける研究者としてのキャリアを開始する事を可能としてくれた。国際研究者グループが不可欠な諸国民の基礎資源としての知識の重要性が、マドリッドの CSIC において、この研究期間に学んで事である。

2011 年 6 月 7 日

“The innovative use of technologies proves essential to the achievement of UNESCO’s mission and international development goals. [...Thus] UNESCO works with its partners to promote the use of ICT for access to information and knowledge for all persons, including those with disabilities.”

諸技術の革新的な利用は、ユネスコの任務と国際的な開発目標を達成する為に不可欠である事が証明されています。［・・・従って］ユネスコは、身障者を含め、総ての人々が、情報と知識に接する事ができる情報通信技術の利用を推進すべく、提携機関と共に働いております。

IRINA BOKOVA
DIRECTOR-GENERAL OF UNESCO

Opening Speech, Netexplo 2012
15-16 March 2012,
UNESCO Headquarters, Paris, France

**イリーナ・ボコバ**
**ユネスコ事務局長**

2012**年**3**月**15-16**日パリのユネスコ本部で開催の**Netexplo 2012 **開会の辞より**

## 2009年度情報通信技術分野 研究員の言葉

ユネスコ／日本政府若手研究者フェローシップの下に行われた研究により達成された諸進展の御蔭で、新たな職業的課程と学ばれた教訓を取り込む他の機会が広く開かれました。

探求教育計画作成用に開発された GEUDIS ウェッブ･アプリケーションは、スペインとアルゼンチンの教員により、実験的に使用されています。

見直しと改善を必要とする機能が幾つか見つかりましたが、情報通信技術が教員の初期及び継続研修に組み込まれているので、教育者の職業的成長を促進するのは確実に Web ２ツールです。

更に、そして、更に個人的レベルにおいて、教育技術の使用から築き上げられた知識と得られた経験に基き、地方用仮想中等教育プロジェクトに参加した。これは主に私の住むマプチェの原住民向けのもので、私は、教師への授業草案作成、マルチメディアによる授業内容の工夫、そして、教育に役立つ可能性を持つ Web ２ツールの使用の研修を行う為に、このプロジェクトに参加しました。

Carolina Herzel Khan
アルゼンチン

教育へのICTの導入は、授業における一革命で、未来への旅です。このフェローシップは、私の授業仕方を完全に変えました。

Anastasie Pizako
ガボン

現代の資本主義により、日々齎される技術的、及び、他の形態の進歩により、始まった社会発展に関する哲学的見地からの先進的研究を通して、更なる探求において別の水準へと私を引き上げてくれました。

Alisa Elise Amupolo
ナミビア

## 2010年度情報通信技術分野 研究員の言葉

ユネスコの研究員と成った事は大変名誉な事でした。ユネスコ／日本フェローシップの下で私の国の為になる研究を行う素晴らしい機会を与えられた事に心から感謝しなければなりません。

SAIDA ULFA
インドネシア

2010 年度ユネスコ／日本研究フェローシップと、それに関わった総ての人に感謝したいと思います。このフェローシップは、私がマレーシアで博士号を取得するのを助けてくれました。

TANZILA SABA
マレーシア

## 2009年度　情報通信技術分野分野研究員

Carolina Herzel, **アルゼンチン**
**［研究］共同電子学習と探求法：教師が探求的視点を取り入れる時に遭遇する障害と困難**

**(写真左)** Anastasie Pizako, **ガボン**
**［研究］ガボンにおける教育への情報通信技術の統合**

Alisa Elise Amupolo, **ナミビア**
**［研究］知識社会と次世代ネットワーキングに向けて収斂する技術と政策の役割の政治経済**

## 2010年度　情報通信技術分野研究員

SAIDA ULFA, **インドネシア（写真右から二人目）**
**[研究]**
**誤りに基く翻訳法を用いた知的コンピュタ支援言語学習(**ICALL)**の開発**

TANZILA SABA, **パキスタン**
**[研究]**
**オフライン筆記体続き文字－非直線分割**

**給費研究員：** Carolina Herzel
**受　益　国：** アルゼンチン
**研究実施国：** スペイン

**出 生 日 ：** 1971年2月17日
**出 生 地 ：** アルゼンチン、グアトラチェ

**取得学位**

2007年12月5日 スペインのセビリア大学にて博士課程研究免状取得.

**学術業績**

Scholarly research: Analysis of Current Research Areas and Curriculum Proposals. Research paper, Doctoral Programme on *Didactics of Experimental and Social Sciences: An Inclusive Approach.* University of Seville, Spain, 2007
［2007年 学術調査：現在の調査研究分野の分析とカリキュラム提案。博士課程研究論文 *実験科学と社会科学の教授法：包括的アプローチ*］

Cañal, P., Criado, A.M., Ruiz, N.J. y Herzel, C. (2008). *Obstáculos y dificultades de los maestros en formación inicial en el diseño de unidades didácticas de enfoque investigador: el inventario general de obstáculos.* En M.R. Jiménez Liso (Ed.): Actas de los XXIII Encuentros de Didáctica de las Ciencias Experimentales, Almería 9-12 de septiembre de 2008 : Ciencias para el mundo contemporáneo y formación del profesorado en Didáctica de las Ciencias Experimentales, pp. 344 -353. Almería: Ed. Univ. Almería.
［2008年9月9-12日アルメリア開催 第二十三回実験科学の教授法との出合：現代世界と実験科学の教員養成のための科学論文集 M.R. Jiménez Liso 編アルメリア大学出版刊344-353頁 Cañal, P., Criado, A.M., Ruiz, N.J. y Herzel, C.共著 *探求法を取り入れた授業計画作成の研修初期に教員が遭遇する障害と困難：一般的障害一覧* ］

**研究実施機関**

スペインのセビリア所在セビリア大学教育科学学部

**研究期間：** 2010年3月11日から6月11日

**研究原題**

*Collaborative e-Learning and Scholarly Research: Obstacles and Difficulties Encountered by Teachers Adopting a Research Perspective*

**連 絡 先：** carolinaherzel@gmail.com

# 共同電子学習と探求法：
## 教師が探求的視点を取り入れる時に遭遇する障害と困難

この報告は、ユネスコ／日本政府若手研究者フェローシップの下に行われた研究プロジェクト「共同電子学習と探求法：教師が探求的視点を取り入れる時に遭遇する障害と困難」の実行において為された進展の要約である。

このプロジェクトは、GAIA[1]の研究ラインの一つとも関連している。GAIAは、教師が探求的視点を取り入れる時に遭遇する障害と困難、コンピュータ化された教授ツールの開発、そして、教育者の職業的成長を目的とする遠隔学習計画に取り組んでいる。

この研究プロジェクトは、現代において極めて重要な二つの側面から成る。その第一の側面は「初等教育における探求法への入門課程」と題する遠隔学習、又は、電子学習についての提案を取り入れる事を通しての教育における情報通信技術（ICT）の利用である。第二の側面は、科学授業への探求法導入に向けてた科学教師の職業的成長に限定した提案である。遠隔学習課程は、探求法に基く授業に向けた革新的手法を採り入れる際に教師が遭遇する障害と困難の研究主題と研究手段の双方となろう。

この研究の過程において、そして、そのプロジェクトで設定した目標を達成する為に、様々な活動を行い、顕著な進展が為された。

学習基盤“ie.is”（研究学校）を設計し、実装した。この基盤には二重目的がある。第一に、それは、この研究プロジェクトの基礎となる教育モデルの提供である。即ち、教授と職業的成長への取り組みとしての探求である。第二に、構成主義と探求の原則の線で、この観点からウェブサイトは設計され、特に教育資料、仮想図書館、学習課題に関連する出来事の情報、そして、授業計画と探求実験の自立設計用指針の利用を教師に可能とさせる。

この基盤は、探求に基く授業計画を作成と、遠隔学習の提案「初等教育における探求法への入門課程」との接続を可能視するコンピュータ・ツールの GeoDIS 2.0を含む。
探求に基く授業に関心を持つ初等教育教師用遠隔学習課程の設計において顕著な進展が為された。

職業研修課程がもうすぐ、ラテン・アメリカ諸国において教授方法としての探求法に関心を持つ全初等教育教師に利用可能になる。
最後に、我々は、GeoDISと、それから賡された他のツールに対し、試験段階後の進展、新たな開発、修正、変更に対する見通しを確立した。

2010年6月16日

[1] GAIA: Grupo Andaluz de Investigación en el Aula University of Seville and University of Huelva.
［教室における探求法に関するアンダルシア・グループセビリア大学とウエルバ大学］

**給費研究員：** Anastasie Pizako
**受　益　国：** ガボン
**研究実施国：** フランス

**出 生 日 ：** 1969年6月7日
**出 生 地 ：** ガボン Makokou［マコク］

## 取得学位

2001年4月9日Université Nancy 2*［ナンシー第二大学］にて言語科学によりDEA取得。

## 学術業績

Actes du XIIe Congrès mondial de la FIPF, Québec 21 - 25 juillet 2008, pp873-875
Anastasie Pizako, *Une francophonie de la littérature*.
［2008年7月21-25日ケベック開催 第十二回国際フランス語教師連盟世界大会論文集873-875頁 Anastasie Pizako 著 *一フランス語圏の文学*］

## 研究実施機関

フランスのグルノーブル所在 Université Stendhal-Grenoble 3, Centre Universitaire d'Études Françaises (CUEF) ［グルノーブル第3大学スタンダール、フランス語学習研修大学センター］

## 研究期間

2010年10月から12月

## 研究原題

*Integrating Information and Communications Technology into Education in Gabon*

## 連絡先

pizakana@yahoo.fr

［*2012年より、Université Nancy 2*［ナンシー第二大学］は新設のUniversité de Lorraine (ロレーヌ大学)に統合。］

# ガボンにおける教育への情報通信技術の統合

ユネスコ／日本研究フェローシップの下、2010年10月5日から12月17日のグルノーブル第3大学スタンダール、大学フランス語学習研修センターの三ヶ月課程に参加した。

この期間、私は授業に参加し、大学とCUEFで利用できる機材と設備、及び、教室における授業の仕方と情報通信技術ICTの利用を観察した。

ICT取り込みの問題への解答の発見に資するこの極めて興味深い、有益な観察から、この統合が達成されるのは、コンピュータ機材が、事実、教育システム内で利用可能となり、人々がコンピュータを「手懐けた」時であろう言う事ができる。CUEFにおける教師の観察と経験を通して、旅して来た、その長く、紆余曲折する道に大いに印象付けられた。双方向性白板が、そこで使用されたのは僅か二年前で、それを扱える様に成り、教育におけるICTに馴染む為には何回も研修が必要とされたのである。

この過程は、現在の設備が示す様に実際CUEFにおいてかなり前に始まった。全教室にコンピュータ、ビデオ・プロジェクター、そして、インターネット接続が備わっており、マルチメディア分野、そして、コンピュータ製品の設計と利用に関する特定モジュールの免状を得る幾つかの課程がある。
ガボンにおいては、国と国内及び国際機関が、インターネットとオンライン・サービスの利用を急速に展開し、教師と働く者を研修する事により、授業の仕方を現在に合ったもにし、将来の世界の市民を教育する視点で、全員がICTに接する事を促進する唯一の推進者と投資者となろう。

教育へのICTの統合には、職場（初等及び中等教育機関と大学）の全関係者を関与させなければならない。

このプロジェクトは、多くの分野、即ち、教育、文化、行政、経済、そして、産業と同じく国際的、そして、組織的次元に影響を与えるであろう。
教育は、このプロジェクト全体において重要な役割を持ち、町及び郡の計画立案、そして、地理的地区、即ち、県、地方政府、そして、特にICT部門の企業と言った経済開発に関与する者との密接な協力を持つものである。

教育への全体的取組の文脈において、ICTの導入は次の三つの目標に基く。即ち、新たなツールの導入を通して教育方法を現在に合ったものにする事、将来の労働者に訓練、そして、将来の市民の教育である。

2011年2月17日

**給費研究員：** Alisa Elise Amupolo
**受　益　国：** ナミビア
**研究実施国：** 南アフリカ

**出 生 日 ：** 1983年3月11日
**出 生 地 ：** ナミビア

**取得学位**
2008年11月5日英国のリーズ大学にて国際コミュニケーションにより修士号取得。

*学術業績、及び、出版物*

Anastasie Pizako. *To What Extent Will Liberalization of the ICT Sector (Telecommunications) Bridge the Digital Divide? Lessons for Namibia*, United Kingdom, October 2008.
［2008年10月英国刊*どの程度、ICT 部門（通信）の自由化はデジタル格差を埋めるか？ナミビアへの諸教訓*］

Alisa Amupolo, Robin Tyson: *Mobile Innovation and Oral Discourse*. The Namibian, 13 May 2008 .
［2008年5月13日 The Namibian 紙掲載 Alisa Amupolo, Robin Tyson 共著 *携帯電話による革新と口話*］

**研究実施機関**
南アフリカのケープタウン所在 Research ICT Africa (RIA) [情報通信儀靴研究アフリカ]
African Communication Research Institute [アフリカ通信研究所]

**研究期間**
2009年10月3日から2010年7月2日

**研究原題**
*The Political Economy of Converging Technologies and the Role of Policies Towards the Construction of Knowledge Societies and Next Generation Networking*

**連絡先**
alisa@iway.na

# 諸テクノロジーの融合の政治経済、及び、知識社会と次世代ネットワーキングに向けての政策の役割

世界化と共に強化された技術経済的変化は、新たな情報社会に広範な機会を齎した。国連ミレニアム開発目標は、ICTの発展を促進し、産業から情報への不可避的移行、そして、知識を基礎とする経済と社会を齎す一ツールであり、可能とするものとして強調している。

デジタル技術の拡大する成長は、政策立案の主要推進力の一つとして分類される。1990年来、世界中の国民国家は、デジタル技術と電子工学の複雑な発達と共に進化してきた。しかしながら、世界的現象として現れてきている融合を伴なう情報社会構想の開発上の有意性は、その中で産業が進化する不明瞭性と不確実性に直面している。

融合は、変化した従来のサービスを提供する諸手段と消費者の諸行動以上のものである。従来の諸サービスは、互換性のある基盤を通して今では提供する事ができ、政策作成者は類似の情報サービスを、より低コストで提供する技術的基盤の能力を増大する為の投資の推進を追及している。

技術部門全般における多様性と複雑性は、この需要の不可避な趨勢と市場の不確実性に対応できる政策枠組の策定を困難にしている。収斂は、部門間の障壁を単に壊す以上の事に及ぶ。その進行は、特に出現しつつある経済において、その価値を強大化する為の政策の諸枠組全体に依存する。

そして更に、デジタル化はデジタル形式で運ばれるサービスの範囲を拡大し、従って、融合の重要な推進力の一つと成りつつある。嘗て、放送が情報化社会の一部として見られ始め、それは技術部門の融合における一重大要素と成った。

放送と通信は、融合政策の一基礎として取り扱う事のできる相互に絡み合う部門として見られたが、両部門とも長い間、従来どおりに規制され、新たな国際的諸枠組を策定するのに何年か掛かった。

通信の諸政策は、多くの領域でICTの融合の一モデルとして取り扱われ、通信部門の古い諸規制枠組のあるものは、デジタル基盤の互換的性質から、融合に向けて進展すると期待される。

放送は歴史的に微妙で高度に政治的問題である事が証明されているが、従来一国家特権として見ら、この事が政策策定を複雑にしている重大要因の一つである。新自由主義的モデルを国際投資を奨励する為に市場を開放する観点で一部の国家機能の規制を緩和する一新経済的取り組みとして適用する事ができる一方、新自由主義的モデルは変化し続ける環境において灰色の領域を伴っており、収益性のある市場で良い所だけを獲る可能性を排除する事を難しくする事は無視できない。

従って、政策は収入を超えるサービスの質の向上、効率性、そして、全体の付加価値を主目標として策定される必要がある。これは、デジタル格差が著しく残り、相当な基盤投資が増加し続ける出現しつつある市場において必要な事である。放送市場が残りの通信部門から異なり続ける限り、その状況は変わりそうにない。デジタル化は、アナログからデジタルTVへの移行で、放送が全般的に収斂された環境へ入る事が期待され、継続的政策の進化を求める新デジタル時代の誕生となる。

2011年5月11日

**給費研究員：** SAIDA ULFA
**受　益　国：** インドネシア
**研究実施国：** 日　本

**出 生 日 ：** 1979年9月10日
**出 生 地 ：** インドネシアのマカッサル

## 取得学位

2009年9月25日　佐賀大学において情報科学にて博士号取得。

## 学術業績

2008年教育システム情報学会刊　学会誌（英文誌）The Journal of Information and Systems in Education第7巻1号15-20頁 Saida Ulfa 等共著 *"Error-Based Translation" as a New Approach in Learning Japanese Particles for Indonesians［インドネシア人用日本語助詞学習の新手法としての「誤りに基く翻訳」］*

Ulfa, S. and O. Yasuhiza, 2007. *An intelligent tutoring system in learning Japanese particles for Indonesian.* Proceedings of the 8th International Conference on Information Technology Based Higher Education and Training, July 10-13, Kumamoto, Japan, pp: 449-454.
［2007年7月10-13日熊本開催　第8回情報通信技術を基礎とする高等教育と訓練に関する国際学会論文集 449-454頁 Ulfa, S. , O. Yasuhiza 共著 *日本語の助詞学習におけるインドネシア人用知的指導システム*］

Ulfa, S. and O. Yasuhiza, 2006. *Error based translation in learning Japanese particles for Indonesian.* Proceedings of the 22nd Annual Conference of Japan Society For Educational Technology, December 2006, Japan, pp: 1127-1128.
"2006年12月開催日本教育工学会第22回大会講演論文集1127-1128頁 Ulfa, S. , O. Yasuhiza 共著 *インドネシア人用日本語助詞学習における誤りに基く翻訳*"

## 研究実施機関

広島県所在の広島大学大学院大学院工学研究科情報工学専攻。

## 研究期間

2010年10月1日から2011年1月31日

## 研究原題

*Developing Intelligent Computer-Assisted Language Learning (ICALL) Using an Error-Based Translation Method*

## 連絡先

saida.ulfa@gmail.com

# 誤りに基づく翻訳法を用いた知的コンピュータ支援言語学習(ICALL)の開発

この研究の背景は、インドネシアにおける日本語学習者数の増加であった。インドネシアの人々が日本語を習うのを助ける為に、私は原型システムを設計した。

原型ICALLプルグラムは、早くも1970年代後半には開発されていた。このICALLシステムは、知的指導システム(ITS)と自然言語処理(NLP)を組み込んだものである。この研究は、ICALLシステムとして分類される言語学習環境の設計に焦点を当てた。このシステムは、次の三つのモジュールから構成される。即ち、教授モジュール、エクスパート・システム・モジュール、そして、学生モジュールである。そして、インターフェースを用いて利用者とシステムを接続する。

ICALLシステムは、学習者の言語学習を支援する事ができる。第二言語学習者の目標は、目標とする言語による意思疎通である。ICALLは、第二言語学習者が目標とする言語で意思疎通する技能を修得するのを支援する技術を提供する。ICALLにおいて用いられる指導システムは、練習テストである。それは二レベルの学習から成る。即ち、第一レベルの語彙学習、そして、第二レベルの文学習である。誤りに基く翻訳法を両レベルにおける言語学習法として使用した。学習者は誤るまま継続し、そして、その誤りが後で指摘される。

数多くの種類の語彙学習方法があるが、極めてよく使われる方法が、新語の意味を関連する画像/動画で示し、学習者が画像と言葉の間の結び付きを構築するのを助ける方法である。この方法は、半文脈化法としても分類され、学習者が新語を吸収、或いは、記憶するのを助ける。このレベルにおいて、学習者の誤りが、代表する画像で示される。

学習者は、自分がした誤りから学ぶ。学習者は日本語の語彙知識を習得すると、次のレベルに進む。このレベルにおいて、学習者はインドネシア語の与えられた文を基にして日本語の文を構築する。この質問に答える為には、学習者は語と日本語の構造の間の関係を理解する必要がある。学習者の言語分析入力により、その学習者の入力した翻訳をインドネシア語で表示する事による誤りのフィードバックが可能となる。そこで学習者は、自己の入力した回答と与えられた文の間の違いを分析できる。もし、双方が同じならば、その学習者の回答は正しい事になる。でなければ、その回答は正しくない。

2011年2月9日

**給費研究員：** TANZILA SABA
**受　益　国：** パキスタン
**研究実施国：** マレーシア
**出 生 日 ：** 1973年2月28日
**出 生 地 ：** パキスタンの DIK (KPK)

**取得学位**

2012年マレーシアのジョホール、スクダイ81310所在のマレーシア工科大学(UTM)にて文書情報セキュリティにより博士号取得。

**学術業績**

Amjad Rehman, Fajri Kurniawan and Tanzila Saba, *An Automatic Approach for Line Detection and Removal without Characters Smash-up,* Imaging Science Journal, vol. 59 No.3, pp. 171-182 (I.F. 0.169), June 2011.
[2011年6月号「画像処理科学誌」第59巻3号171-182 頁 Amjad Rehman, Fajri Kurniawan, Tanzila Saba共著 *線検知の自動手法と文字非破壊での除去* ]

Tanzila Saba, Ghazali Sulong and Amjad Rehman, Document Image Analysis: Issues, Comparison of Methods and Remaining Problems. Artificial Intelligence Review Springer vol.35, No. 2, 101-118, DOI: 10.1007/s10462-010-9186-6 (ISI- I.F. 0.5), February 2011.
[2011年2月号「人工知能レビュー」誌第35巻2号101-118頁 Tanzila Saba, Ghazali Sulong, Amjad Rehman共著 *文書画像分析：争点、手法比較、残る問題*]

Tanzila Saba, Ghazali Sulong, Shafry Rahim and Amjad Rehman *On the Segmentation of Multiple Touched Characters: A Heuristics Approach.* Information and Communication Technologies, Communications in Computer and Information Science, Volume 101, 2010, pp 540-542, 2010.
[2010年「情報通信技術－コンピュータ内通信と情報科学」誌 第101巻540-542頁Tanzila Saba, Ghazali Sulong, Shafry Rahim, Amjad Rehman共著 *多画数文字の分割について：一発見的手法* ]

Tanzila Saba, Amjad Rehman, Mohamed Elarbi-Boudihir. *Methods and Strategies on off-line Cursive Touched Characters Segmentation: A Directional Review*. Artificial Intelligence Review, June 2011.
[2011年6月号「人工知能レビュー」誌Tanzila Saba, Amjad Rehman, Mohamed Elarbi-Boudihir共著 *オフラン筆記体文字分割の諸手法と諸戦略：一方向の見直し* ]

**研究実施機関**

マレーシアのスクダイ所在 Universiti Teknologi Malaysia (UTM)（マレーシア工科大学）電算機科学及び情報システム学部

**研究期間：** 2010年9月1日から2011年5月31日

**研究原題：** *Offline Cursive Touched Script – Non-linear Segmentation*

**連絡先：** stanzila2@live.utm.my,　tanzilasaba@yahoo.com

# オフライン筆記体続き文字－非直線分割

手書は、意思疎通を行い、情報を記録する自然な方法であるが、四十年を越える集中的な研究にも関わらず、オフライン非制約筆記体手書文字認識の問題は、いまだに解決していない。続き筆記体文字は珍しくはなく、分割と認識の精度が低い主な原因である。

この論文では、画像前処理、続け文字の分割、そして、文字認識の為の機能拡張の諸強化手法を提示している。強化前処理法には、ノイズ検知と除去、手書文書と機械印刷文書の画像歪評価と検知が含められている。

ノイズ検知は、連結成分分析方式に基く一方、幾何的特徴を画像の歪角度を評価する為に用いた。局所と全体の特徴を分析し、手書文と機械印刷文を区別する為に用いた。しかしながら、続き文字の分割が、この論文の主な焦点である。この観点から、遺伝アルゴリズムとピクセル密度に基く二つの強化された続き文字分割法を提案し、評価した。

文字認識用に、統計的そして構造的特徴を抽出し、画像歪角を評価する為に融合法を提案した。最先端の比較を容易にする実用ベンチマークIAMデータによって全技法を評価した。その結果、この研究において、各段階で良好な精度が高速且つ最小の計算的複雑性で達成された事を示した。

2011年7月4日

"How can we nurture today the values of tolerance, dialogue and peace in such circumstances of uncertainty?

Conflict resolution and reconciliation must start in schools and universities.

It must start by empowering young women and men in difficult neighbourhoods, in post-conflict settings, in situations of tension.

Young people are already changing the world – we must help them channel peacefully this impetus for change, by including all, by teaching new skills, by sharing experience.

We must give every young man and woman the confidence to dream of a better world and the skills to shape reality in this direction."

IRINA BOKOVA
DIRECTOR-GENERAL OF UNESCO

On the occasion of the Signing Ceremony
International Institute for Peace
(UNESCO, 7 February 2012).

如何にして、今日、我々は、この様な不確実性の状況の中にあって、寛容、対話、そして、平和の価値を育てるか？

紛争の解決と和解は、学校と大学の中で始めなければなりません。

それは、紛争後状況内で緊張状態の中で異隣人と暮らす若い男女に力を与える事から始めなければなりません。

若者は、既に世界を変えつつあります　－　私達は、この若者達の変化への衝動を総てを含め、新たな技能を教える事により、経験を共有する事により、平和的に流れる様に助けなければなりません。

私達は、各若者男女に、より良い世界の夢への自信と、この方向に現実を形作る技能を与えなければなりません。

**イリーナ・ボコバ**
**ユネスコ事務局長**

**国際平和研究所署名式における式辞より**
**（2012年2月7日ユネスコにて）**

## 2009年度紛争の平和的解決分野 研究員の言葉

ユネスコ／日本フェローシップの下で、大学間協力の実り在る経験を得、アフリカにおける紛争解決に関連する文化問題の良き文献の富に接せました。

Tohto Amoin Justine
BINDEDOU DJÈ (YOMAN)
コートジボワール

このフェローシップは、私のレバノンにおける民族誌の為の現地調査を助けてくれました。御蔭で（ノース･キャロライナ大学チャペル･ヒルでの）私の博士論文を準備する研究を可能にしてくれました。その方法論と理論の研究を通して、事実レバノン社会を分極化させてきた広く見られる宗教的、政治的分裂を超えて国民を糾合しつつあるレバノンにおける草の根的取組による代替的諸想定と日々の実践の、より豊かな理解に向けた貢献をする事ができたらと思っています。

ELENA WALID YEHIA
レバノン

このユネスコのフェローシップは、モーリシャスでの平和の為の協力を可能にし、英国におけるユネスコの新たなユネスコ・スクール(Associated Schools Project Network）の発展に貢献し、紛争の平和的解決の教授法としての学生クオリティー・サークルを推進しました。

Priya Darshini Baligadoo
モーリシャス

## 2010年度紛争の平和的解決分野 研究員の言葉

ユネスコ／日本フェローシップからの支援を心から感謝します。ハワイでの博士論文の為の調査研究の完成に向けての、又、同じく学術研究能力の強化の助けてとなりました。

HEAK SREANG
カンボジア

エクスター大学で参加型演劇と平和建設についての研究を行えた事は、大変に豊かな経験と成りました。この大学の豊富な学術資源は、心躍る経験を提供してくれました。

Kenneth Bumuturaki
ウガンダ

## 2009年度　紛争の平和的解決分野研究員

Tohto Amoin Justine BINDEDOU DJÈ (YOMAN) ,
**コートジボワール**
**［研究］自我の脱構築主義から他我の覚醒へ**

Elena Walid YEHIA
**レバノン**
**［研究］**
**レバノンにおける草の根的取組による和解**

Priya Darshini Baligadoo, **モーリシャス**
**［研究］**
**学生クオリティー・サークルと**World Council Total Quality and Excellence in Education (WCTQEE)**[教育の総合的質と優秀性の為の世界協議会]**

## 2010年度　紛争の平和的解決分野研究員

HEAK SREANG, **(写真右から二人目)**
**カンボジア**
**［研究］**
**カンボジアの既婚女性に対する家庭内暴力：求助、再虐待、そして、夫による身体への暴力の過酷度**

**(写真左から二人目)**Kenneth Bumuturaki,**ウガンダ**
**［研究］**
**紛争後地域における平和建設の為の一参加型手法としての共同体演劇：南部スーダンにおける選択した共同体における一事例研究**

**給費研究員：** Tohto Amoin Justine BINDEDOU DJÈ (YOMAN)
**受　益　国：** コートジボワール
**研究実施国：** フランス

**出 生 年 ：** 1970年9月9日
**出 生 地 ：** コートジボワールのアビジャン

**取得学位**

2005年12月22日コートジボアール、アビジャン所在ブアケ大学にて哲学により哲学博士号取得。

**学術業績**

Bindedou Dje, Tohto Amoin Justine, *Hobbes ou le rejet du désordre*, in Repères, the scientific journal of the University of Bouaké, vol I, N°1, Presses des Universités de Côte d'Ivoire (PUCI), pp 23-39, 2006.
[2006年コートジボワール大学出版局(PUCI)刊]ブアケ大学科学誌 Repères 第1巻23-39頁 Bindedou Dje, Tohto Amoin Justine著*ホッブス、或いは、混乱の拒絶*]

Tohto Amoin Justine BINDEDOU DJÈ, *Le sens de l'Humanité dans l'Absolutisme de Thomas Hobbes*, in Le Korè, an Ivorian journal of philosophy and culture, Éditions Universitaires de Côte d'Ivoire (EDUCI), Abidjan, Côte d'Ivoire, 2006.
[2006年コートジボワール、アビジャン刊コートジボワール大学編集局出版 コートジボアールの一哲学文化誌 Le Korè 収録 Tohto Amoin Justine BINDEDOU DJÈ 著*トマス・ホッブスの絶対主義中の人間性の意味* ]

Tohto Amoin Justine BINDEDOU DJÈ, *Le sens de l'Humanité dans l'Absolutisme de Thomas Hobbes*, in Le Korè, an Ivorian journal of philosophy and culture, Éditions Universitaires de Côte d'Ivoire (EDUCI), Abidjan, Côte d'Ivoire, 2006.
[2009年セネガル、ダカール刊ブラック・アフリカの一文化哲学誌 Ethiopiques 2009年第一四半期号 第82巻235-253頁 Tohto Amoin Justine BINDEDOU DJÈ 著*リバイアサン：閉じた複数の自主独立体の上に開く閉じた個人主義* ]

**研究実施機関**

フランスのUniversité Paris 8 Vincennes-Saint-Denis; UFR Arts, philosophie, esthétique ; Département philosophie [パリ第八大学バンセーヌ-サンダニ、芸術哲学美学部哲学科]

**研究期間：** 2009年11月13日から2010年5月12日

**研究原題：**
*From Deconstructivism of the Ego to the Emergence of the Alter Ego.*
*The Social Dynamic of Joking Relationships in Peaceful Conflict Resolution in Africa*

**連 絡 先：** bindedouj@yahoo.fr

# 自我の脱構築主義から他我の覚醒へ
# アフリカの紛争の平和的解決における冗談関係の社会的力学

アフリカの武力紛争の解決への多くの取組は行き詰っている。しかしながら、「冗談関係」と言った人類学的、社会学的諸要素と、それと合った紛争の解決に導きえる一種の合理性がある。この共存の力学の研究において、冗談関係をアフリカでの紛争解決における社会的結合への一つの道と見ている。何よりも、それは、アフリカの自我の実体、根源的精神、伝統的アフリカ社会の最小構成要素する共同体の考えを構成する事を説明する為のホッブスの政治思想における自我の諸問題を含む。

その一結果として、冗談関係の概念を紛争を防止し、抑止し、そして、究極的に、損害を最小化する事を目的として修復し、社会の円滑性を回復、強化する為の活動を含む目的と挑戦を通して考察している。我々の研究の目的は、増大する孤独とあらゆる種類のエゴイズムの世界の中での紛争の中にある社会集団間の関係、そして、関係継続の希望度ついての諸問題に冗談関係が応える方法を分析する事であった。

これは人類学的慣習と関係の意味と有効性を歪める西洋的生活様式により、今では強く影響されている人間間と集団の諸関係の現状の評価へと我々を導いた。冗談関係は、人間の生命の尊厳に関する諸合意中の共存を閉ざす敵対者間に親睦と和睦を齎す。それにも関わらず、西アフリカに存在し、国境内外に在るこの慣行は、あらゆる種類の危機を産み出す急激なエゴイズムの為に、次第に無視されてきている。国際社会によって使われる「従来」の方法を無視してはならないが、大方において社会的安寧を回復する目的に干渉する高度に特定の文化と伝統の問題の為に、その方法には限度がある。そこで、政治的、そして、公式の方法が失敗した時に、社会的緊張を制御する為に冗談関係を用いる。冗談関係は、下からの正義、非公式の使用により、公式とする正義の非正統的形態に向かう平行的見方における真の意味を獲得する。

従って、冗談関係は、伝統的共同体の精神的基礎に由来する伝統的政界と共同体の行為に焦点を当てる。この基本的精神性は、共同体の根源的精神、その根本の自我を人の言葉、笑い、そして、共存を推進する一方法として冗談を保つ事を通して形作る。それが、その方向性を失いつつある大陸であるアフリカにおいて冗談関係を展開する必要がある理由である。

2012年3月20日

**給費研究員：**　ELENA WALID YEHIA
**受　益　国：**　レバノン
**研究実施国：**　米　国

**出 生 日 ：**　1973年7月27日
**出 生 地 ：**　現在のロシア連邦サンクト・ペテルブルグ

**取得学位**

2008年11月12日　米国ノース・キャロライナ州所在ノース・キャロライナ大学チャペル・ヒルにて社会文化人類学と哲学により修士号取得。

**学術業績**

Elena Yehia. *De-colonizing Knowledge and Practice: A Dialogic Encounter between the Latin American Modernity/Coloniality/Decoloniality Research Programme and Actor Network Theory*, Journal of the World Anthropology Network 1 (2):91 – 108, 2006 ).
[2006年世界人類学網誌第1巻2号91-108頁 Elena Yehia 著 *非植民地化の知識と実践：ラテン・アメリカの現代性/植民地性/非植民地性研究プログラムと活動体網理論間の対話的遭遇*］

Elena Yehia, Al-Jazeera's *'Opinion and the Other Opinion': Two Dominant Sides to Every Story*, Master of Arts dissertation, Department of Media and Communications (Transnational Communications and Global Media), Goldsmiths College, University of London, United Kingdom, autumn 2005.
[2005年秋、英国ロンドン大学ゴールドスミス校メディア及びコミュニケーション学部（国家横断的コミュニケーションと世界メディア）修士論文 *アル-ジャジーラの「意見とそれと別の意見」：各報道に対する二つの支配的側面*］

**研究実施機関**

米国ノースキャロライナ州所在ノース・キャロライナ大学人類学部。

**現地調査**

レバンノン、ベイルート所在のアメリカン大学社会行動科学科

**研究期間：**　2010年4月23日から7月22日、及び、2010年8月1日から12月31日

**研究原題：**　*Reconciliation Through Grassroots Initiatives in Lebanon*

**連 絡 先：**　elenayehia17@yahoo.com

# レバノンにおける草の根的取組による和解

このフェローシップは、レバンノンでの現地調査を完了できる様にしてくれ、ノース・キャロライナ大学チャペル・ヒルでの博士号論文の準備をする研究を可能にしてくれた。

この調査の目的は、以下の二点であった。

その一つは、宗教的／政治的違いの紛争による分断線を越え、如何にして新たな親和性が創出され、形成されているのかについて探求する事であった。

もう一つは、非和解性を示す、「他者」を一脅威として見る確立された分派的慣行と言動をより良く理解する事であった。

この調査による発見は、こうした広範な取組と代替実践、そして、その言動は、極めて多様で、開かれたもので、異なる集団内であれ、周辺の熱した社会的、地理的文脈であれ、高度に関係的で、地域的仕方で出現、或いは、「形成」中である。これは、その様々なジレンマと限界にも関わらず、多様性が実際に、こうした取組を明確な出会い、超越と新たな可能性の豊かな地盤の形成に向けても貢献している。ノース・キャロライナ大学チャペル・ヒルで得た学術面での指導、支援、そして、理論的基礎は、この調査を行い、実り豊かなものとする上で、ふかけつなものであった。

この調査を支えてくれたユネスコ／小渕恵三研究奨学金給費研究員プログラムに、そして、それが持つ理想と取組に対し、感謝に絶えないものであります。

2012年4月6日

**給費研究員：** Priya Darshini Baligadoo
**受　益　国：** モーリシャス
**研究実施国：** 英　国

**出 生 日 ：** 1979年4月27日
**出 生 地 ：** モーリシャスのポート・ルイス

**取得学位**
2005 年 5 月 19 日　インドのプネー大学にて哲学により修士号取得。

**学術業績**
Priya D. Baligadoo, Chapter 3 *Collaborative Advantage in Small Regional Economies*, pp.49-58, In: Johnsen, H.C.G. and Ennals, R. (eds), Creating Collaborative Advantage: Innovation and Knowledge Creation in Regional Economies, Gower Pub. Co., May 2012.
［2012年5月Gower出版社刊 Johnsen, H.C.G.; Ennals, R. 編「共同の利点の創出：地域経済における革新と知識創出」49-58頁Priya D. Baligadoo著 第3章 *小地域経済における共同の利点* ］

Priya Darshini Baligadoo, *An evaluation of Students' Quality Circles and the World Council for Total Quality and Excellence in Education*. pp 337-355, AI & SOCIETY, Volume 27, Issue 3, August 2012.
［2012年8月号「人工知能と社会」誌 第27巻3号337-355頁 Priya Darshini Baligadoo 著 *学生クオリティー・サークルと教育の総合的質と優秀性の為の世界協議会* ］

**研究機関：** 英国のキングストン大学

**研究期間：** 2010年9月から2011年1月

**研究原題**
*An evaluation of Students' Quality Circles and World Council Total Quality and Excellence in Education (WCTQEE)*

**連 絡 先：** priyabaligadoo@gmail.com

# 学生クオリティー・サークルとWorld Council Total Quality and Excellence in Education (WCTQEE)[教育の総合的質と優秀性の為の世界協議会]

この報告書の作成は、平和教育を通して平和の文化の諸理想を推進する為に、ユネスコ／日本若手研究者フェローシップを通しての日本国政府による後援を受け、英国のキングストン大学において2010年9月から2011年1月まで行われ、モーリシャスのユネスコ委員会と教育及び人材省によって支援された。

今回の報告書は、国際連合による世界の子供たちのための平和と非暴力の文化の（2001-2010年）の終わりと、国際女性日の百周年記念、そして、市民活動班（CAT）の名の下にモーリシャスの学校における学生クオリティー・サークル（SQCs）の哲学を実行した全国生産性及び競争力会議（NPCC）の十周年記念と重なった。その間に、世界は中東における暴力の噴出を目撃した。そして、長い間、支配と暴力の文化に寛容であった個々人が、それに不満を表明する様になった。

エジプトで起きた事は、人々の力を誰も過小評価してならない事を明らかにした。

それは、世界中の多くの個々人が、社会転換の為の共同行動を開始する契機となった。しかしながら、この様な人々の集団化が暴力的衝突を引き起こし、既に危機的状況にある世界経済に悪影響を与えるのではないかと言う恐れがある。大幅な落ち込みが、先進国、発展途上国、低開発国において経験されている。日本で発生した様な自然惨禍は、他の国々をも同様に直撃しえる。老若男女に平和的仕方で問題を解決する様に注力する事が重要です。

もし世界化が、ある程度、自由貿易と情報の流通を助長するにしろ、世界化は文化の多様性を扱うには困難を呈している。世界村の中で、異なる人種出身の人々が、今では相互に繋がっている。もし個々人が非暴力的方法により、紛争を解決する事ができないのであれば、諸文化、諸価値、諸宗教的信条、そして、諸意見の衝突は、容易に暴力を産み出す。

対話と多文化学習の重要性は強調されてきているが、対話と多文化学習は幼年期から実践する必要がある。個々人が成人に達すると、慣れ親しんできた暴力と支配の思考構造を変える事が難しくなる。同様に、個々人が問題を特定し、根源的な原因に対処し、個人と社会のレベルで良い転換を齎す事ができる方法論を個々人に伝授する必要がある。その起源を産業に由来する「クオリティ・サークル」に持つSQCsは、問題解決技能を発展させる為に若い個々人に注力する事ができるであろうか？その持続可能性は？

「企業の社会的責任」（CSR）が投資に慎重であり、国際連合のミレニアム開発の諸目標が多くの国々にとって優先事項である時に、SQCsが企業と社会的責任の間の隔たりを埋める事を助ける事ができるのか？

どこまで、SQCsは少年と少女、男性と女性が平和と安全保障の為に共に働く事に注力できるのか？SQCsは、例えば、ユネスコ・スクール（Associated Schools Project Network）を平和の文化の諸理想の推進を補強できるのか？　それは、紛争の平和的解決へと導くのか？

如何なる平和の文化を更に進める試みにおいても、非暴力実践についての情報、故にSQCsとWCTQEEに関する報告を提供する事が重要である。

2011年3月29日

**給費研究員：** HEAK SREANG
**受　益　国：** カンボジア
**研究実施国：** 米 国

**出 生 日 ：** 1982年4月12日
**出 生 地 ：** カンボジアのコンポン・チャム

**取得学位**

2009 年 12 月 17 日 米国ハワイ州所在ハワイ大学マノア校にて行政学により修士号所得。

**学術業績**

Sreang Heak, *Overthrowing Pol Pot: A profile of Hun Sen,* Asheshwor. Man Shrestha and Mike Bosack (eds.) Transformations in Leadership - The Journal of the East-West Center Leadership Certificate Program, pp.47-51, Volume 1/Number 3, Spring 2009.
［2009年春季号 Man Shrestha, Mike Bosack 編「指導力変革－東西センター指導力認定プログラム誌」第1巻3号47-51頁 Sreang Heak 著 *ポル・ポトの放逐：フン・センの一人物像* ］

Sreang Heak, et al. *Identifying challenges, goals and strategies for success for people with diabetes through life coaching.* pp. 129-139, Journal of Vocational Rehabilitation, Volume 34, Number 2 / 2011.
［2011年「職業的社会復帰誌」第34巻2号129-139頁 Sreang Heak 著 *生活指導を通しての糖尿病者成功の為の挑戦、目標、そして、戦略の特定* ］

Third iREACH Technical Report, Covering the period between November, 2007 to April, 2008. Submitted on 8th July 2008 (Informatics for Rural Empowerment and Community Health (iREACH))
[2008年7月8日提出「 第三次地方注力及び共同体衛生の為の情報技術利用活動報告書 2007年11月から2008年8月」］

**研究機関**

米国ハワイ州所在ハワイ大学マノア校 Center on Disability Studies［障害研究センター］

**研究期間：** 2010年9月1日から3月30日

**研究原題**

*Domestic Violence against Married Women in Cambodia: Help-Seeking, Re-Abuse, and Severity of Physical Violence by Husbands*

**連 絡 先：** hsreang@yahoo.com

# カンボジアの既婚女性に対する家庭内暴力：求助、再虐待、そして、夫による身体への暴力の過酷度

家庭内暴力は、カンボジアたけではなく、世界中で女性の健康と子供達に深刻な影響を与えているが、カンボジアにおいては、この問題に関する研究は、あまり為されていない。

この文献の格差を埋めるべく、今回の研究を提案した。この研究は、家庭内暴力と伴侶からの暴力の被害者である女性の求助の理論的モデルに関する暗黙理論により、導かれるものである。その諸理論に一致し、家庭内暴力を経験した既婚女性の求助は、夫／伴侶からの更なる虐待／再虐待と過酷度に繋がる可能性がある。従って、この論文は、カンボジアの既婚女性に対する家庭内暴力の求助と再虐待と過酷度の間の関連を評価する事を目的とした。

この研究では、定量法と定性法の双方を合わせて使用した。2005年カンボジア既婚女性に関する人口的及び健康調査から得られた量的データを分析に用いた。質的面接は、カンボジアの政府、非政府組織の計七団体と行った。又、統計ソフトウェアSAS 9.7版を使って、データ分析を行った。分析に含まれた既婚女性者数は、合計2294名であった。累度、百分率、そして、全変数間の相関を計算した。主成分分析を用いて、成分変数を得た。求助と性虐待／暴力の過酷度の間の関連を評価する為に、多重ロジスティック回帰を用いて、調整オッズ比を計算した。その分析モデルを更に家族からの助けを求めて場合、友人からの助けを求めた場合、司法、行政からの助けを求めた場合と言った求助先の違いにより、階層化した。このモデル内の調整諸変数には、女性の年齢、女性の教育程度、裕福指数、子供の数、女性の職業的地位、居住地、伴侶の教育程度、伴侶の職業的地位、伴侶の飲酒、父の母に対する打撲の目撃、妻の夫に対する打撲による家庭暴力を含めた。

求助の正の相関が、暴力の過激度において顕著に見られた。求助と再虐待間の有意な関連が、調整オッズ比1.57 (p=0.04)で発見された。有意な関連は、求助と暴力の過激度の間でも見られ、調整オッズ比は2.35 (p=0.0004)であった。他の再虐待と暴力の過激度への有意な要因には、子供の数、伴侶の教育程度、飲酒、そして、妻の夫に対する打撲が含まれた。家族、友人、司法、そして、行政からの助けを求める事による階層化モデルでは、優位な結果を得なかった。家庭内暴力の問題において働いている他の関係者との質的面接は、助けを求める事が、虐待された女性の夫による更なる虐待、そして、更に過酷な暴力に晒される危険要因である事を示した。

結論として、家庭内暴力を経験したカンボジアの既婚女性の求助は、再虐待と暴力の過酷度に対する有意な予測因子である。これらの諸発見が意味する所は、政策立案者が、家庭内暴力への介入が被害者である女性への更なる虐待と暴力の過酷度と言う結果になる可能性を下げ、防止する様に、この諸発見を対策／介入において注意深く考慮する必要があると言う事である。政策立案者は、その家庭の子供数を減らす、伴侶の教育程度を改善する、飲酒を禁止する、そして、女性が夫に対して暴力を行使する事を防止する為の諸介入を考慮する必要がある。

2012年1月11日

**給費研究員：** Kenneth Bumuturaki
**受　益　国：** ウガンダ
**研究実施国：** 英　国

**出 生 日 ：** 1979年7月23日
**出 生 地 ：** ウガンダのホイマ

**取得学位**

2009 年 1 月 19 日 ウガンダ、カンパラ所在マケレレ大学にて修士号取得。

**学術業績**

*Participatory Theatre as a Tool for Political Empowerment: A Study of Kampala and Hoima Districts in Uganda.* MA Thesis, Makerere University, Kampala, 2009, Unpublished.
［2009年カンパラのマケレレ大学修士論文（未出版） *政治的強化の為の一手段としての参加型演劇：ウガンダのカンパラ県とホイマ県の一事例研究*］

**研究機関**

英国デボン州エクスター市所在University of Exeter［エクスター大学］School of Arts, Languages and Literatures［芸術、言語、及び、文学校］

**研究期間：** 2010年10月4日から2011年7月31日

**研究原題**

*Community Theatre as a Participatory Approach for Peace Building in Post-Conflict Zones: A Study of Selected Communities in Southern Sudan*

**連 絡 先：** kenamooti@yahoo.com

# 紛争後地域における平和建設の為の一参加型手法としての共同体演劇：南部スーダンにおける選択した共同体における一事例研究

このフェローシップは、2010年10月4日に始まったエクスター大学での博士課程での研究を支えてくれた。研究題目は「紛争後地域における平和建設の為の一参加型手法としての共同体演劇」であった。この研究の主目的は、平和建設の一参加型手法としての共同体演劇の可能性を探査し、如何にしたら紛争後状況において共同体演劇を平和の建設に最善の利用ができるかを考察する事であった。

この研究は、2010年10月2日に行われた博士課程研究の新学生への入門セミナーにより開始された。このセミナーは、取り分け博士課程研究、博士課程の学生とその研究指導教官と効果的研究管理運営について掘り下げるものであった。何人かの主席研究員と博士課程を継続している学生が、我々に博士課程研究についての感覚を与える為に招かれ、行っている研究について話をした。

この研究は、エクスター大学の良く組織化された、支援環境の内で行われ、博士課程研究に必要な施設と資料を利用できた。それには、毎日24時間開いている図書館、コンピュータに博士課程用コンピュータ・スタジオで安定したインターネット接続を提供するIT諸施設、そして、Research Commons［研究共用施設］で提供される十分な研究空間が含まれる。

そして更に、利用可能な諸図書施設を利用する為の図書研修サービスによる研修を受けた。その研修には、電子学術専門誌と電子本と言ったオンライン図書資料の利用の仕方が含まれていた。更に、エクスター大学は、博士課程研究学生を支援する為に作成された一連の短期課程から成る効果的研究者育成プログラムを行っている。研究指導教官の勧めにより、私は博士課程開始法、効果的読み方、そして、文学評論執筆法コースに出席した。

私は、何時でも研究指導教官に会う事ができた。月に一度の主要指導時間の他に、必要が生じた時に、必要なだけ相談をする事ができた。指導時間は、極めて支援的で、実りあるものであった。この研究と指導の過程の一主要構成面は、the Graduate Progress Committee 進捗検討委員会（GPC）会合である。GPC会合は、博士課程研究の学生の進捗を見るために大学により、導入されたものである。この会合は、各学生に対し六ヶ月毎に行われ、研究学生は、各学生の指導チームに会い、各自の研究についての質問に答える。私は、二度GPC会合に出席し、私の研究を整理し、焦点を絞る助けとなった。

私の研究は、私の研究を仲間の学生達と共有する事を可能としてくれた活気に満ちた博士課程研究の共同体によっても可能とされた。私の研究を共有する機会は、博士課程セミナーと学会の二つのフォーラムにおいて提供された。

Department of Drama［演劇科］では、博士課程学生が自分達の理論と実技の双方の研究を発表する博士課程セミナーが毎月一度開かれた。私は、一度このセミナーで私の研究発表を行った。各博士課程セミナーには、外来講師が招かれ、その研究発表を行った。私は、演劇科で行われた二つの学会に出席した。こうした研究行事に出席し、参加する事は、私の研究を整理し、焦点を絞る助けと成った。

2011年9月8日

© UNESCO 2012 ERI/NCS/FLP/PI/1

**発　行：　2012年**
**発行者：　国際連合教育科学文化機関**
**（ユ　ネ　ス　コ）**
The United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization

Sector for External Relations
and Public Information (ERI)

7, place de Fontenoy
75352 Paris 07 SP.

**印 刷：**　Printed in workshops of UNESCO
Printed in France

**原本**

"UNESCO/Keizo Obuchi
Research Fellowships Programme
UNESCO / Japan
Young Researchers' Fellowships Programme
2009/2010"
© UNESCO 2011 ERI/NCS/FLP/PI/1

**原本作成者**

Ali Zaid
Chief UNESCO Fellowships programme Section

Leila ZAS FRIZ
Administrative Assistant
UNESCO Fellowships programme Section

**写真：**

**本書使用写真の肖像権、映像権は**
**各提供者に属します。**

**翻訳・作成**

玉 越　洋 治
( TAMAKOSHI Yoji )

JAPAN
Official Development Assistance
日本信託基金
プロジェクト

UNESCO
Sector for External Relations
and Public Information (ERI) /
Division of National Commissions and
Civil Society /
Fellowships Programme
7, place de Fontenoy
75352 Paris 07 SP

Tel.: 33 (1) 45 68 13 13
E-mail: fellowships@unesco.org
Website: www.unesco.org